

坂 町

平成 30 年 7 月豪雨被災者アセスメント調査
調査報告書

平成 31 年 1 月

一般財団法人ダイバーシティ研究所

目次

第1章 調査の概要	7
（1） 調査目的	7
（2） 調査方法	7
（3） 調査対象及び訪問結果	7
（4） 調査日程及び調査員実働状況	8
（5） 実施体制及び協力機関等	8
（6） 調査項目	9
第2章 調査結果	10
（1） 世帯の構成状況	10
1) 調査対象世帯の構成人数	10
2) 高齢・障害者がいる世帯及び高齢者のみ世帯	10
（2） 家屋の状況	11
1) 家屋の所有形態	11
2) 住宅ローン	11
3) 罹災証明の取得状況及び被害内容	12
4) 浸水被害及び土砂被害	13
5) 罹災証明の被害と築年数	14
6) 建替・補修の意向と罹災証明取得状況	15
7) 被災状況と現在の居所	16
（3） 避難勧告・避難指示発令後の避難について	17
1) 避難状況	17
2) 避難した世帯の世帯別の避難時期の比較	18
3) 避難しなかった理由（複数回答）	19
4) 世帯別の避難方法	20
（4） 生活状況について	21
1) 健康状態	21
2) 高齢者のみ世帯における健康状態	22
3) 被害状況と健康状態	23
4) 移動困難の状況	26
5) 買い物困難の状況	28
6) 食事困難の状況	30
7) 通院及び服薬関連	32
8) 教育・保育の対象者のいる世帯状況	34
9) 通勤困難の状況	35

10) 生活費のための主な収入源	36
11) 義援金の申請状況	37
(5) 今後の見通し	39
1) 当面の居所	39
2) 移転の目処が立っていない理由	40
3) 今後の居住希望地	41
(6) 支援や情報について	45
1) 情報の入手状況	45
2) 情報の入手経路	46
3) 受援の種類	48
4) 相談相手	49
5) 不安・心配事	51
第3章 地区別分析	53
(1) 被害状況	53
1) 浸水被害	53
2) 土砂被害	54
3) 建物被害（罹災証明書発行状況）	54
(2) 被災世帯の状況（高齢者のみ世帯）	57
1) 高齢者のみ世帯比率	57
2) 築年数	57
3) 高齢者のみ世帯と築年数	58
4) 高齢者のみ世帯と罹災証明書内容	58
5) 高齢者のみ世帯の現在の居所と罹災証明書発行状況	59
(3) 今後の居住の見通し	60
1) 罹災証明と居住地希望	60
2) 罹災証明発行状況と就労収入	61
3) 建て替え・補修	63
(4) まとめ	64
第4章 災害ケースマネジメントによる分類	65
(1) 災害ケースマネジメントによる判定方法	65
1) 判定要素の設定	65
2) 評価軸の設定	66
3) 評価基準の設定	67
4) 聞き取り完了世帯への判定実施	68
(2) 災害ケースマネジメントによる判定結果	70
(3) 仙台市及び熊本市の災害ケースマネジメントとの比較	72

（４） 災害ケースマネジメントを軸とした施策例	74
5 提言	77
（１） 「坂町地域支え合いセンター」による災害ケースマネジメントの実施	77
1) 「生活再建可能世帯」に対する基本的な支援	78
2) 「住まいの再建支援世帯」に対する基本的な支援	78
3) 「日常生活支援世帯」に対する基本的な支援	78
4) 「日常生活・住まいの再建支援世帯」に対する基本的な支援	78
（２） 住まいの再建に向けた総合的な施策の実施	80
（３） 日常生活の再建に向けた支援施策	82
（４） 復興推進体制について	83
資 料 編	84
〔資料〕 調査集計データ（単純集計）	85
〔資料〕 調査票	124

第1章 調査の概要

(1) 調査目的

平成30年7月豪雨の被災状況を把握し、避難生活での被害拡大を防ぎながら生活再建期・コミュニティ再生期への移行をサポートすることを目的として、被災世帯への聞き取りによる調査を実施した。なお、本調査で得た情報は、「坂町地域支え合いセンター」運営の基礎資料として活用する前提で実施した。

(2) 調査方法

本調査は、対象となる地区の全ての世帯に対し、調査員が直接訪問して聞き取りを行う形式で実施した。準備から訪問、分析の流れは次の通りである。

- 1) 被害状況や被災者の状況を踏まえた調査票を作成
- 2) 福祉専門職を含む2人1組の調査員チームが被災者宅等を訪問し、調査票に基づいて聞き取り調査を実施
- 3) 調査結果は、ウェブ上に構築した、セキュリティ管理を備えたデータベースに入力し、世帯を単位とする調査データを作成
- 4) 調査項目毎の集計及び生活再建に関する事項についてのクロス集計による分析を実施
- 5) 「災害ケースマネジメント」に沿った世帯毎の判定を実施

(3) 調査対象及び訪問結果

特に被害が大きかった小屋浦地区、坂地区、横浜地区の被災世帯2,482世帯を対象とし、1,551世帯のから回答を得た（回収率62.5%）。

表1-1 各地区の訪問結果一覧

地区	聞き取り 完了	不在	居住の有無 不明	調査拒否	合計
小屋浦	446	216	42	9	713
坂	1,067	536	57	52	1,712
横浜	8	4	0	0	12
水尻	8	10	0	1	19
植田	22	3	1	0	26
合計	1,551	769	100	62	2,482

(4) 調査日程及び調査員実働状況

調査は、延べ 451 の調査員により、プレ調査から第四次調査までを下記日程で実施した。なお、調査実施後 12 月 31 日まで調査結果の集計及び分析を行った。

表 1-2 調査日程及び調査員実働状況

日程			専門調査員 (人)	サポート調査員 (人)
プレ調査	8 月 25 日(土)	小屋浦地区	6	－
第一次調査	9 月 22 日(土)	小屋浦地区	15	8
	9 月 23 日(日)		23	13
	9 月 24 日(月)		30	6
第二次調査	10 月 6 日(土)	坂地区及び 小屋浦地区	25	13
	10 月 7 日(日)		41	16
	10 月 8 日(月)		31	17
第三次調査	10 月 13 日(土)	坂地区	44	21
	10 月 14 日(日)		40	16
第四次調査	10 月 20 日(土)	横浜地区	26	20
	10 月 21 日(日)		28	12
合計調査員数 (のべ)			309	142

※ 専門調査員

社会福祉士、医療ソーシャルワーカー等の福祉専門職や同様のアセスメント調査での活動経験を持つ調査員

※ サポート調査員

福祉専門職やアセスメント調査経験者ではない専門調査員以外の調査員

(5) 実施体制及び協力機関等

実 施： 坂町、坂町地域支え合いセンター

調査機関： (一財) ダイバーシティ研究所

協力機関： 中間支援組織 (情報交換及び調査当日運営支援他)

(特) ひろしま NPO センター、(特) 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク
ひろしまネットワーク会議、(特) 岡山 NPO センター

職能団体 (調査票アドバイス及び調査員募集協力、調査運営協力)

広島県社会福祉士会、広島県弁護士会、広島県建築士会、
広島県行政書士会、日本医療社会福祉協会、広島県済生会 (たかね荘こやうら)、
士業連絡会

連携行政機関等 (調査実施調整及び調査票アドバイス、調査運営他)

広島県、広島県社会福祉協議会

(6) 調査項目

調査票は、以下の構成で作成した。

1) 基本情報

誰が、いつ、何処を訪問したか、聞き取りが完了したかどうかを記録する。不在で会えなかった場合も、家屋の状況等について、外観からわかる事項を記入し、調査票を起票した。

2) 世帯情報

住民基本台帳との照会の可能性を考慮し、住所、氏名（フリガナ）、生年月日を正確に把握した。世帯情報の提供合意として聞き取り対象者の署名をいただいている。

3) 被災した家屋の状況について

被害の状況や罹災証明、住まいの再建の見通しについて聞き取った。聞き取りの中で、土砂が床下に残ったまま土砂撤去を完了している可能性がある場合のチェック欄を設けた。

4) 避難勧告・避難指示発令後の避難について

避難所に指定されていない場所への避難、避難の遅れや移動困難による孤立、救助等が発生したことから、この度の避難行動の状況を確認した。

5) 被災後から現在の生活状況について

避難生活における被害拡大を防ぎ、支援を必要とする人と支援をつなぐため、健康状態、食事や移動などの日常生活の状況などについて確認した。

6) 今後の見通しなどについて

今後の居住地の希望や引越の予定等について確認した。

7) 得られた支援や情報の入手について

情報入手の状況や手段、ボランティアによる支援状況、相談相手の有無について確認した。また、不安や心配事についても聞き取りを行った。

8) 調査員所感

調査項目には含まれない事項や、調査員が気になった事、様子などを記録した。特に「見守りの必要性が非常に高い」と感じた場合のチェック欄を設けた。

なお、3)「土砂のこりの可能性」のチェックがある世帯については、坂町社会福祉協議会に世帯情報を提供し、ボランティアセンター等との連携による対応を進めてもらうこととし、8)「見守りの必要性が非常に高い」のチェックがある世帯については、坂町保健師が速やかに訪問することとした。

第2章 調査結果

(1) 世帯の構成状況

この項目では、高齢者や障害者といった要支援者の世帯内の有無や、要支援者のみで構成される世帯など、各世帯の構成について確認を行った。

1) 調査対象世帯の構成人数

聞き取りが完了した世帯の構成人数は、「1人」20.2%、「2人」35.4%、「3人」20.3%、「4人」15.3%、「5人以上」8.8%であった。(図2-1)

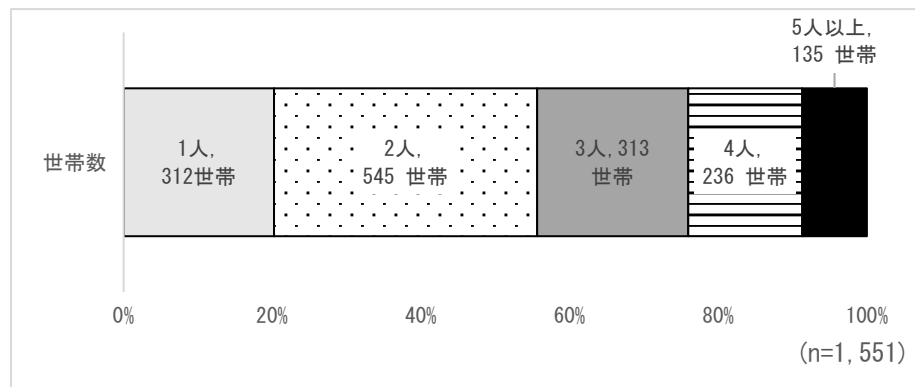


図2-1 調査世帯の構成人数

2) 高齢・障害者がいる世帯及び高齢者のみ世帯

「高齢・障害者がいる」と回答した世帯は1,000世帯であり、「高齢者のみ世帯」は588世帯（「高齢のみ1人世帯」249世帯、「高齢者のみ2人世帯」328世帯、「高齢者のみ3人世帯」11世帯）であった。(図2-3)

表2-2 高齢者・障害者がいる世帯及び母子・父子家庭の世帯数（世帯）

高齢者・障害者がいる世帯	1,000
母子・父子家庭	36

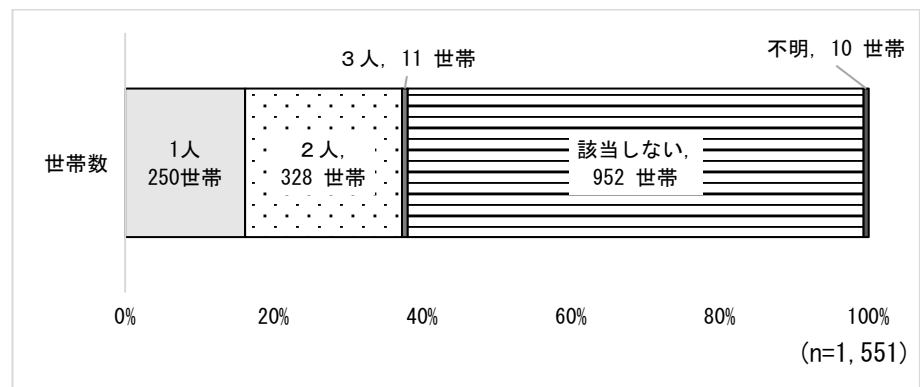


図2-3 高齢者のみ世帯数と世帯人数

(2) 家屋の状況

この項目では、各家屋の種類（一戸建て、集合住宅等）や所有形態、築年数及び損壊状況を確認した。家屋損壊の度合については罹災証明の内容を、浸水/土砂被害については自己申告により把握した。

1) 家屋の所有形態

家屋の所有形態は、「持ち家」が一戸建て及び集合住宅合わせて 88.3%であった。（図 2-4）

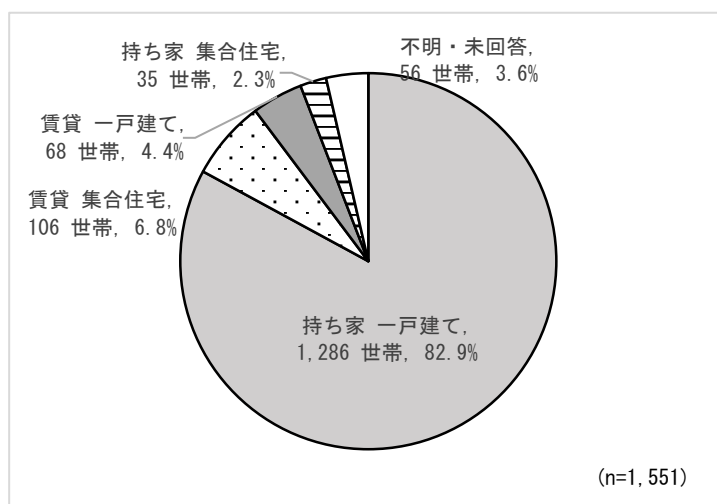


図 2-4 家屋の所有形態

2) 住宅ローン

「持ち家一戸建て」「持ち家集合住宅」の世帯うち、住宅ローンについて回答を得た 1,154 世帯の内訳は、「住宅ローン有」世帯は 226 世帯（19.6%）であった。（図 2-5）

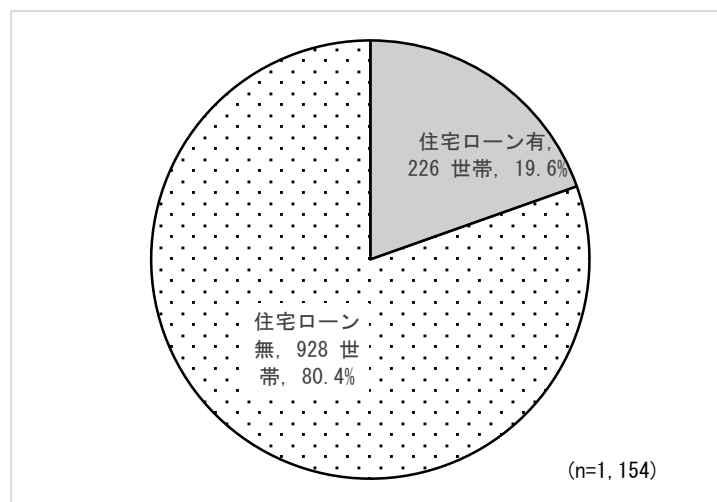


図 2-5 住宅ローンの有無

3) 罹災証明の取得状況及び被害内容

罹災証明取得済と申請中の世帯数は、それぞれ 610 世帯、8 世帯で、取得済みの罹災証明内容の内訳は、「全壊」17.5%、「大規模半壊」26.9%、「半壊」30.2%、「一部損壊」8.7%、「被害内容不明」16.7%であった。（図 2-6）

また、罹災証明を取得した世帯のうち「高齢者のみ世帯」は 230 世帯で全体の 37.7%であった。

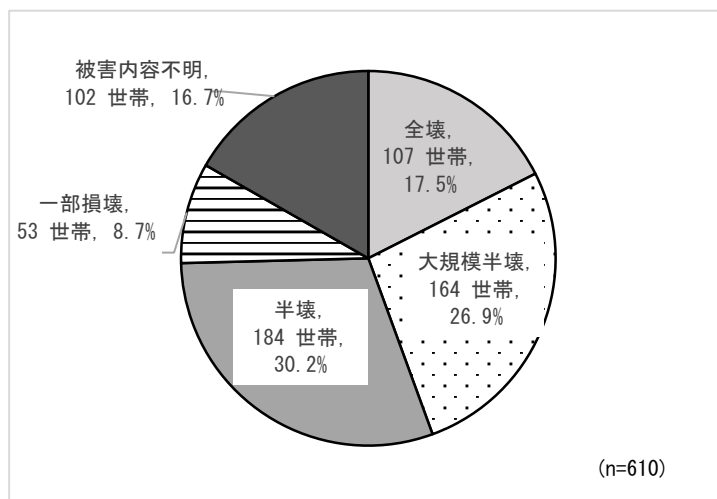


図 2-6 罹災証明の被害内容

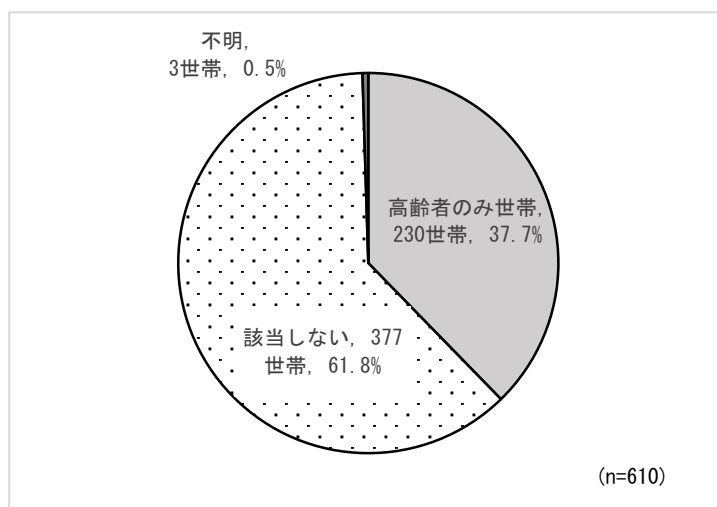


図 2-7 罹災証明取得世帯に占める高齢者のみ世帯の割合

4) 浸水被害及び土砂被害

浸水被害のあった家屋は、全体の 43.8%（床上浸水 30.8%、床下浸水 13.0%）であり、土砂被害のあった家屋は、全体の 41.9%（床上の土砂 27.9%、床下の土砂 14.0%）であった。（図 2-8、図 2-9）

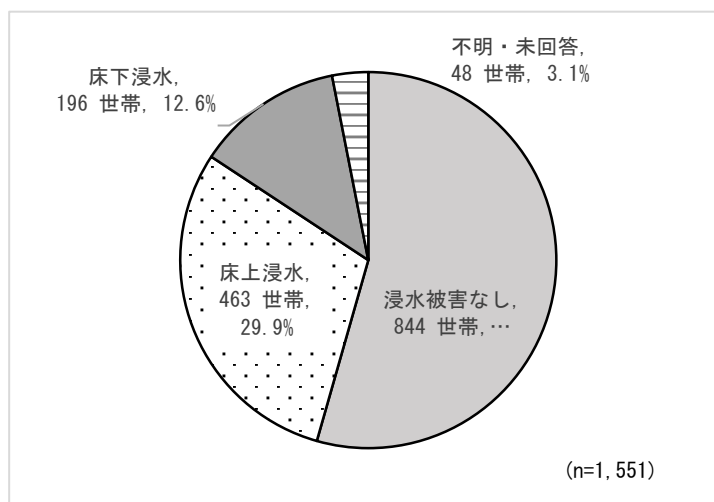


図 2-8 浸水被害の状況

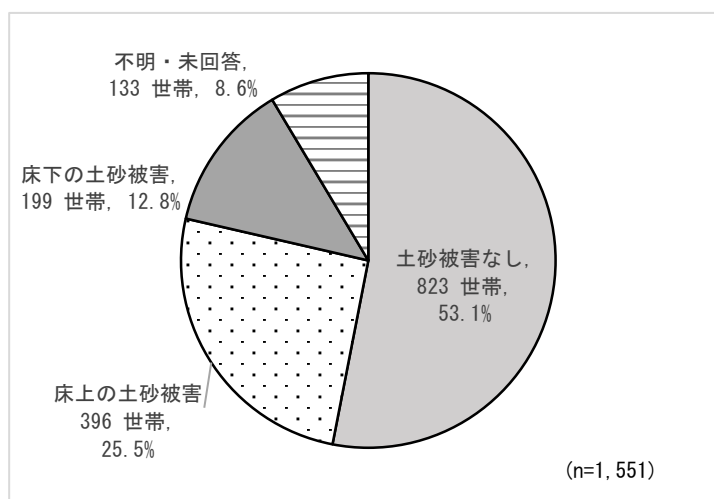


図 2-9 土砂被害の状況

5) 罹災証明の被害と築年数

建築基準法改正以前の家屋（築年数 37 年以上）は全体の 52.2%であった。（図 2-10）築年数と損壊状況のクロス集計の結果、築年数が古いほど、全壊及び大規模半壊の割合が高かった。（図 2-11）

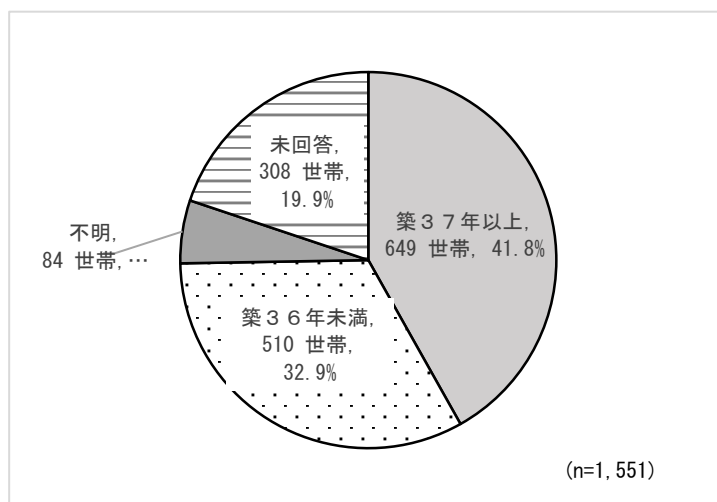


図 2-10 家屋の築年数の状況

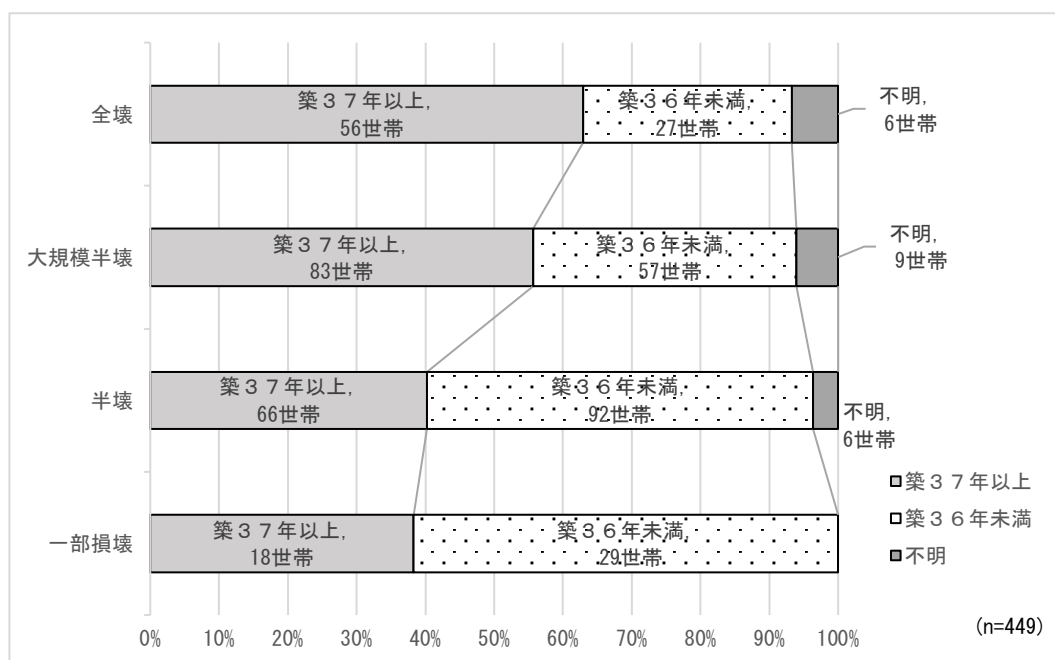


図 2-11 罹災証明の被害と築年数

6) 建替・補修の意向と罹災証明取得状況

「罹災証明を取得済み」「申請中」「申請予定あり」の世帯で、建替・補修の意向について回答があった世帯は532世帯であり、そのうち「建替・補修予定で可能」は268世帯、「建替補修予定だが課題あり」は132世帯、「建替・補修はしない」は132世帯であった。

罹災証明を申請していない世帯で、建替・補修の意向について回答があった世帯は426世帯であり、そのうち「建替・補修予定で可能」は11世帯で、「建替補修予定だが課題あり」8世帯、「建替・補修はしない」407世帯であった。

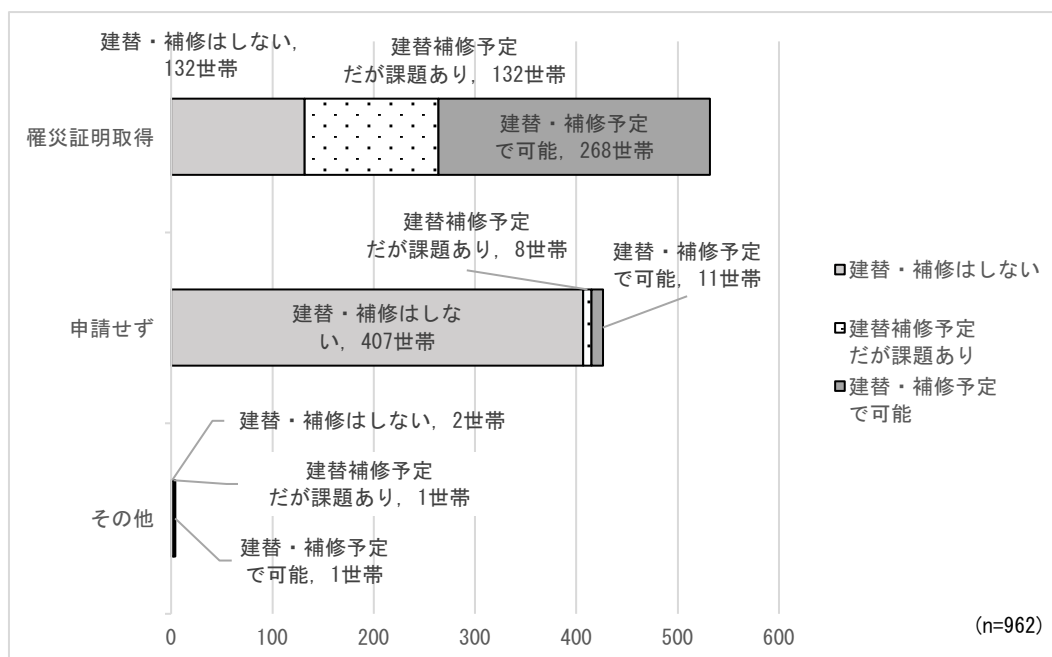


図 2-12 建替・補修の意向と罹災証明取得状況

7) 被災状況と現在の居所

罹災証明取得済み世帯で現在の居所について確認が出来た世帯は、408 世帯であった。現在の居所が自宅である世帯のうち、9.7%が全壊、26.2%が大規模半壊、49.4%が半壊、14.8%が一部損壊である。（図 2-13）

全壊の世帯のうち、現在の居所が自宅である世帯は 27.1%、仮設住宅が 29.4%、みなし仮設が 22.4%であった。大規模半壊の世帯では、自宅が 44.6%、仮設住宅が 19.4%、みなし仮設が 12.9%であった。半壊の世帯では 81.8%、一部損壊の世帯では 85.4%が自宅であった。（表 2-14）

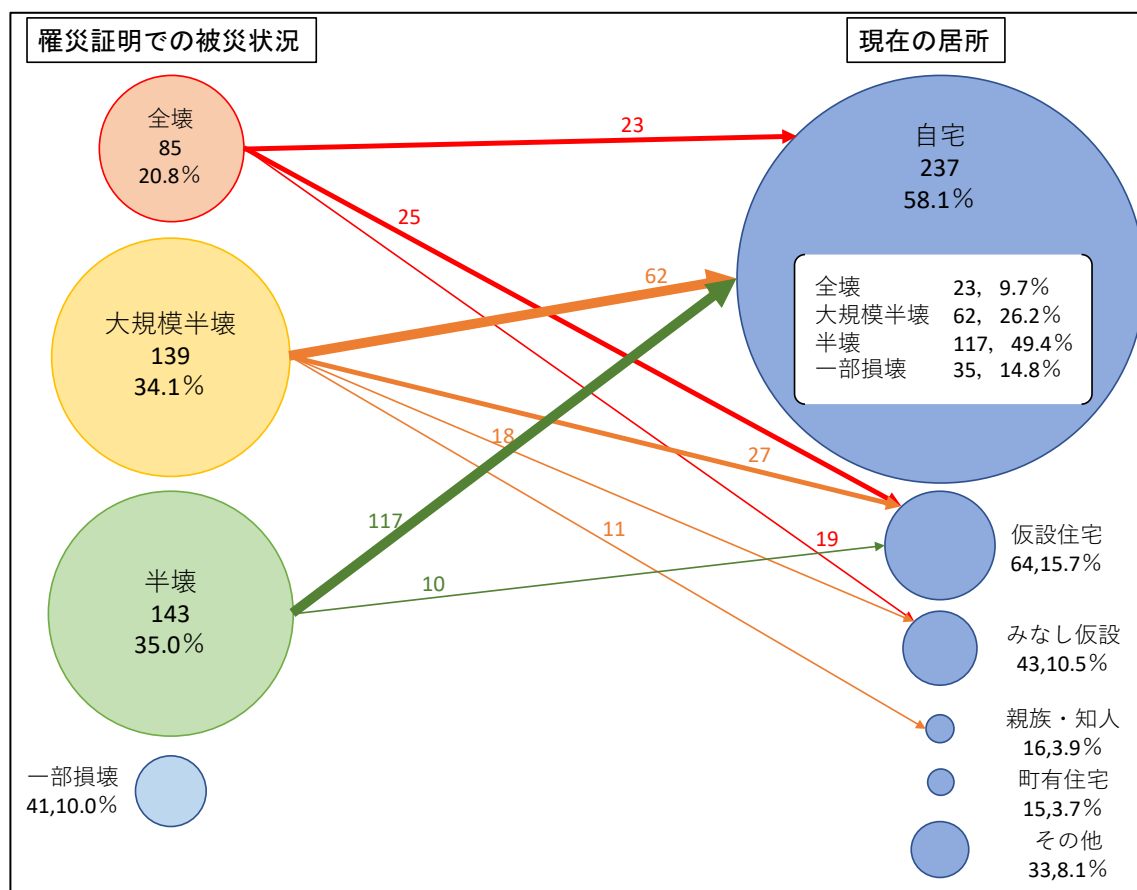


図 2-13 被害状況と現在の居所

表 2-14 被害状況と現在の居所（単位：％）

	自宅	仮設住宅	みなし仮設	親族・知人	町有住宅	その他
全壊	27.1	29.4	22.4	3.5	8.2	9.4
大規模半壊	44.6	19.4	12.9	7.9	5.0	10.1
半壊	81.8	7.0	3.5	1.4	0.7	5.6
一部損壊	85.4	4.9	2.4	0.0	0.0	7.3

(3) 避難勧告・避難指示発令後の避難について

この項目では、避難勧告・避難指示発令後の避難の有無や避難のタイミングについて確認した。

1) 避難状況

避難勧告・避難指示発令後に避難した世帯は 665 世帯で全体の 42.9%であった。これを世帯別にみると、「高齢者・障害者がいない世帯」の避難した割合が最も低く 41.0%であり、「高齢者・障害者がいる世帯」では 43.9%、「高齢者のみ世帯」は 47.5%であった。

世帯人数で比較した場合、「2人世帯」が 46.8%で最も高く、「3人世帯」が 38.3%であった。（図 2-15）

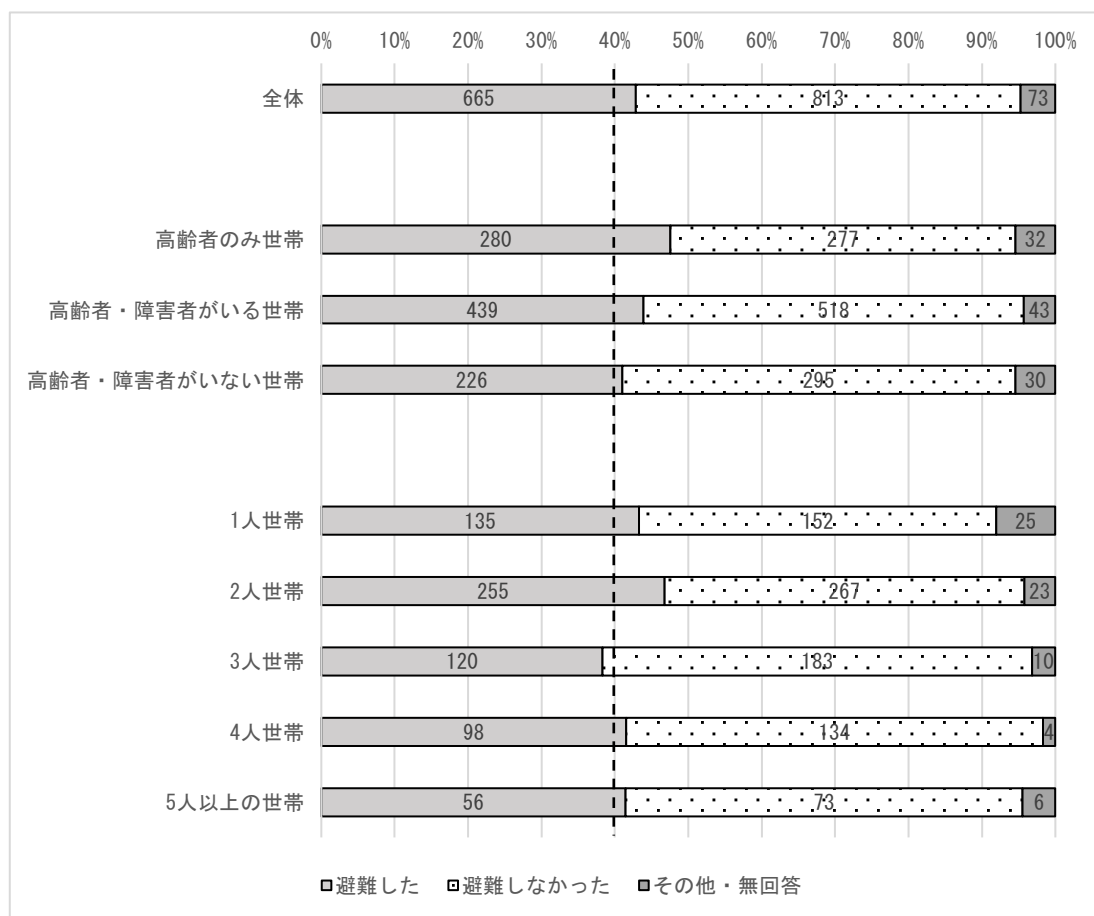


図 2-15 世帯別の避難状況の比較（世帯数）

2) 避難した世帯の世帯別の避難時期の比較

避難した世帯について、最初の避難の時期について確認を行った。直後に避難した割合は、全体では57.9%であるのに対し、「高齢者・障害者がいない世帯」「高齢者・障害者がいる世帯」「高齢者のみ世帯」の順にそれぞれの直後の避難した割合は、62.8%、55.4%、62.8%であり、要配慮者がいる世帯の方が、直後の避難率が下がる傾向が見られる。

世帯人数別では、「2人世帯」の直後の避難率が低くなっている。（図2-16）

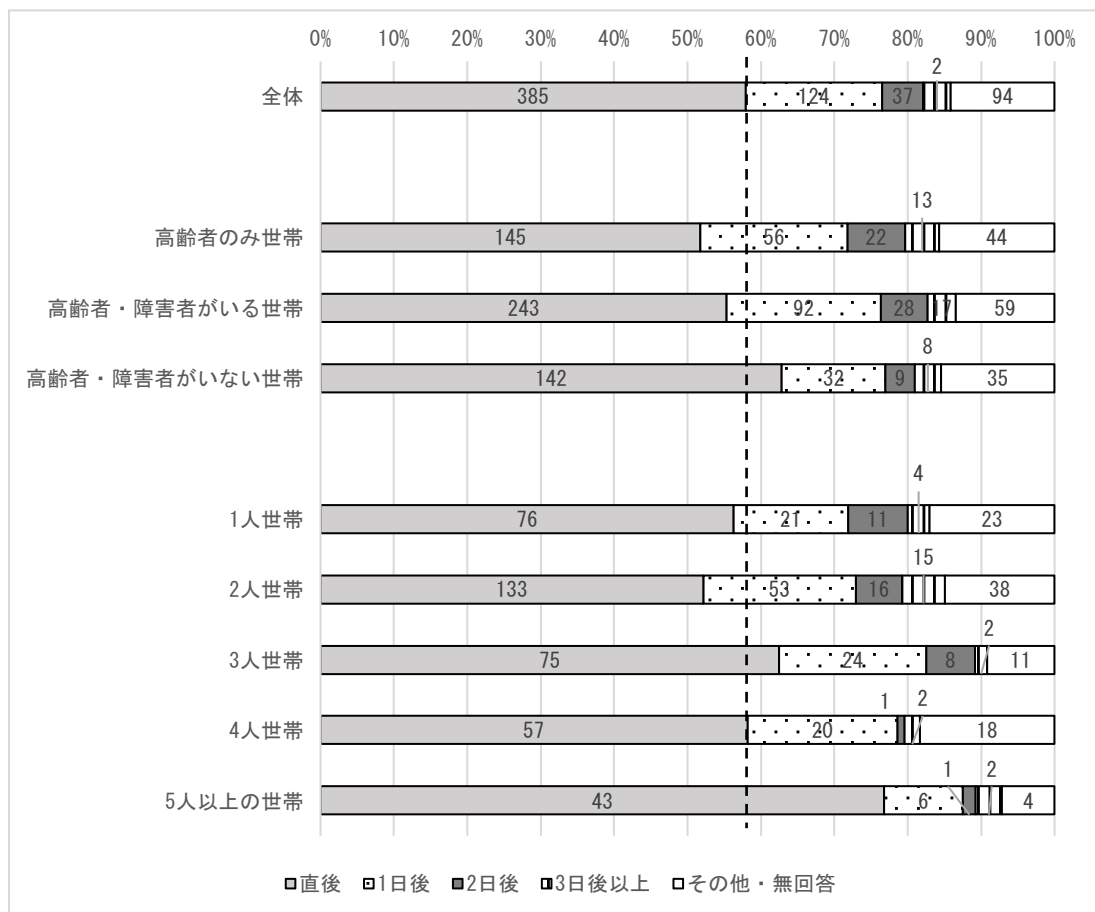


図2-16 避難した世帯の世帯別の避難時期の比較（世帯数）

3) 避難しなかった理由（複数回答）

避難しなかった世帯に避難しなかった理由を聞き取った。避難をしようとしたが避難できなかった理由が多く、「移動が危険だと思った」305世帯、「要介護・要配慮者の存在」58世帯、「すでに逃げられなかった」53世帯、「避難のタイミングがわからなかった」49世帯の回答があった。また、「避難所が危険との情報があったため、家の方が安全と判断した」と回答した世帯が32世帯あった。その他（191）は、「ペットがいた」「油断していた」「放送が聞こえなかった」「どこに避難するかわからなかった」「垂直避難をした」等である。（図2-17）

また、「避難しなかった理由」として集計をしていないが、町外にいたり、家族を待っていたため発災時に避難していない世帯が36世帯あった。

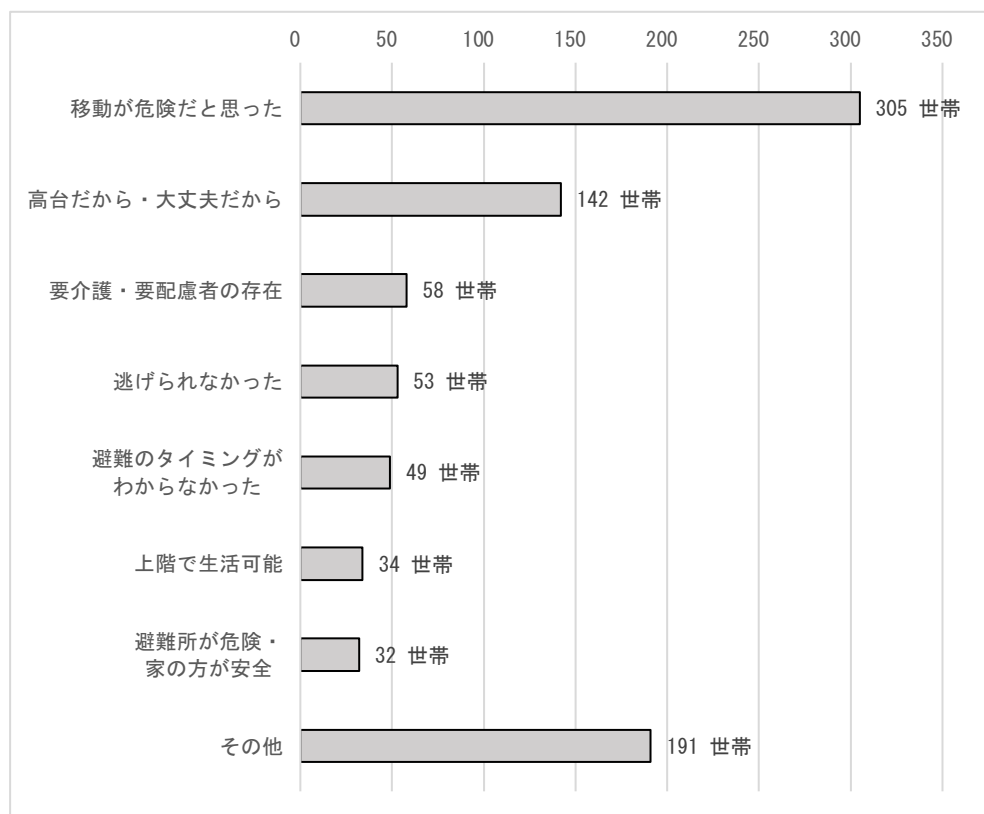


図2-17 避難しなかった理由

4) 世帯別の避難方法

避難時に誰に救助を受けたかについて確認を行った。全体では、「自力で避難した」が最も多く 339 世帯 (51.0%)、「行政による救助」112 世帯 (6.8%)、「近隣住民による救助」27 世帯 (4.1%) であった。「高齢者・障害者がいない世帯」は、全体よりも自力での避難の割合が高く、「障害者・障害者がいる世帯」「高齢者のみ世帯」の順に、自力避難の割合が低くなり、「近隣住民による救助」の割合が高くなる。

世帯人数別では、「1人世帯」「2人世帯」は、全体よりも自力での避難割合が低い。

(図 2-18)

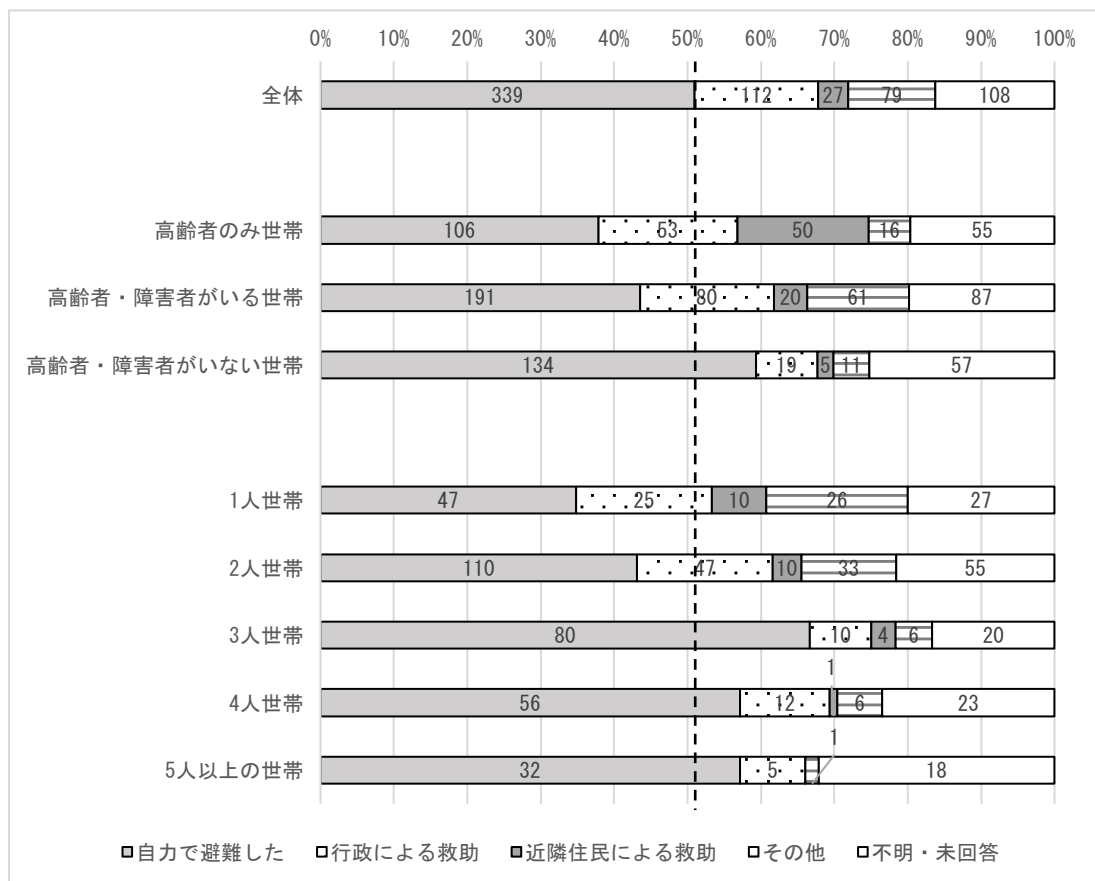


図 2-18 避難した世帯の世帯別避難方法 (世帯数)

(4) 生活状況について

この項では、生活状況に関して、「健康状」「移動」「買い物」「食事」「通院・治療」及び「服薬」「教育・保育」及び「通勤」、「生活費」「義援金」について聞き取りを行った。

1) 健康状態

発災後に体調が悪化した人がいる世帯は、全体の 30.5%で、「不調が継続している」は 15.7%であった。(図 2-19)

発災後にこころの不調があった人がいる世帯は、全体の 30.4%で、「不調が継続している」は 17.9%であった。(図 2-20)

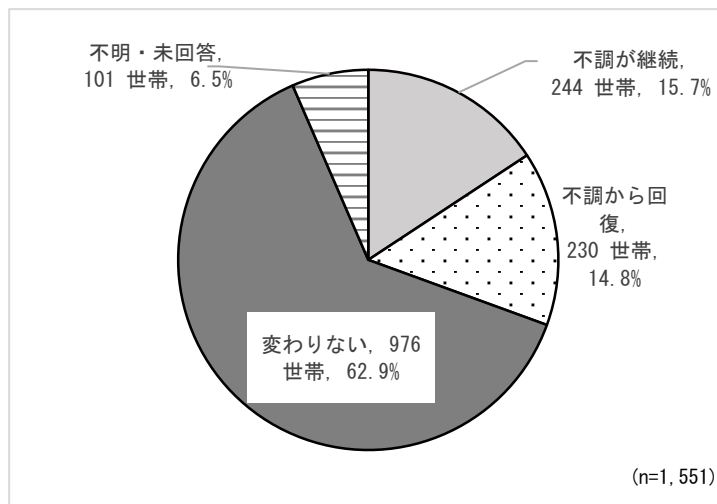


図 2-19 発災後の健康状態 (からだ)

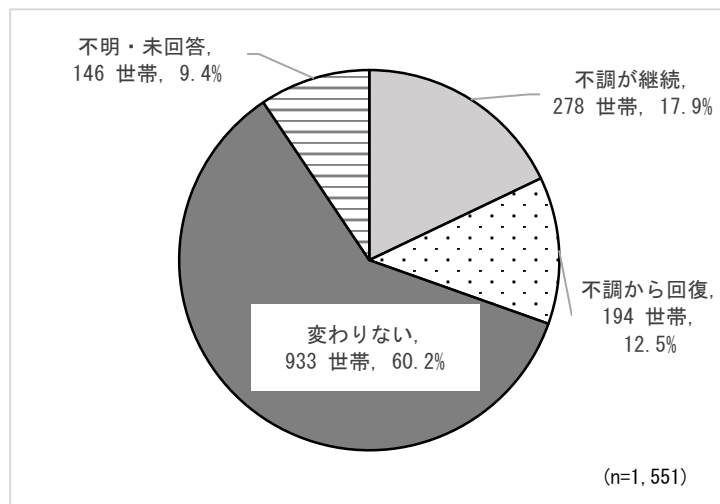


図 2-20 発災後の健康状態 (こころ)

2) 高齢者のみ世帯における健康状態

「高齢者のみ世帯」と「該当しない世帯」（高齢者のみであることが確認できない10世帯を含む）の健康状態を比較した。体調面の不調の継続では、「高齢者のみ世帯」が116世帯（19.7%）であるのに対し、「該当しない世帯」は128世帯（3.3%）である。こころの不調の継続では、「高齢者のみ世帯」が113世帯（19.2%）であるのに対し、「該当しない世帯」は165世帯（17.2%）である。体調面、こころともに「高齢者のみ世帯」の方が、不調が継続している傾向がある。（図2-21）

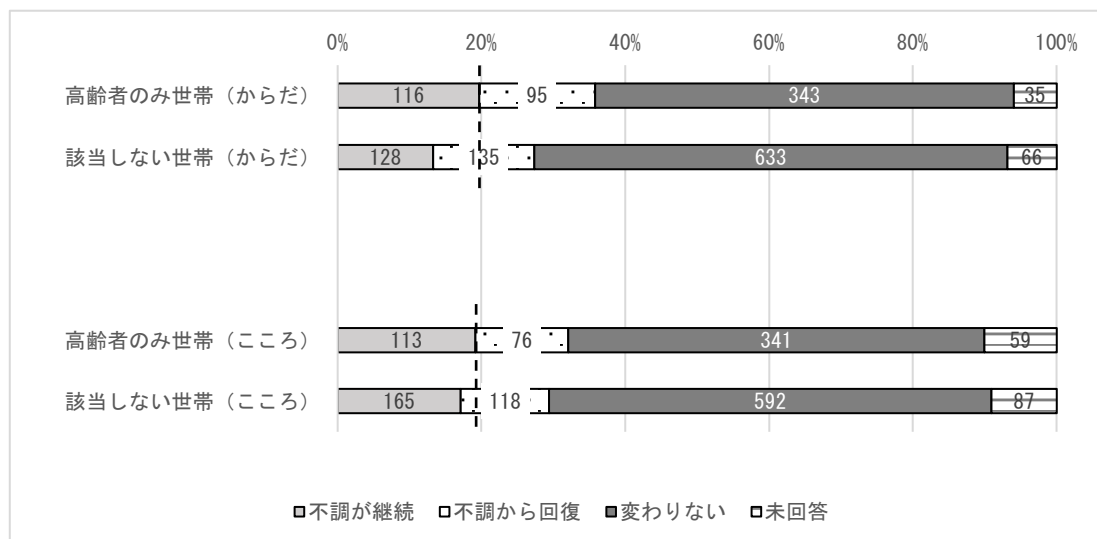


図2-21 高齢者のみ世帯における健康状態の比較（世帯数）

3) 被害状況と健康状態

罹災証明を取得している 610 世帯のうち、発災後の体調について聞き取りが出来た 493 世帯について、被害状況が大きいほど体調の不調が継続している傾向が見られた。（図 2-22）

また、浸水被害について回答が得られた世帯、土砂被害について回答が得られた世帯のうち発災後の体調について聞き取りが出来た世帯は、それぞれ 1,416 世帯、1,339 世帯あり、いずれも、被害が大きいほど体調の不調が継続している傾向が見られた。（図 2-23、図 2-24）

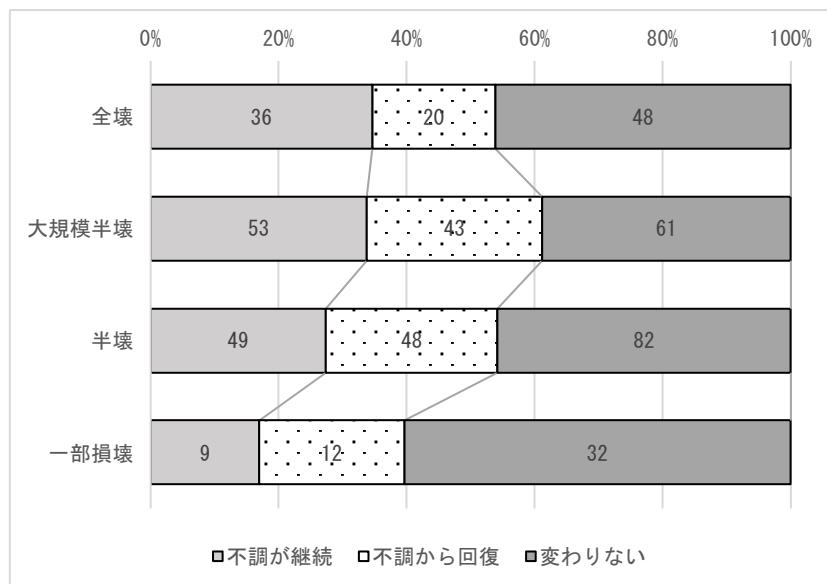


図 2-22 罹災証明での被災状況と健康状態（からだ）の比較（世帯数）

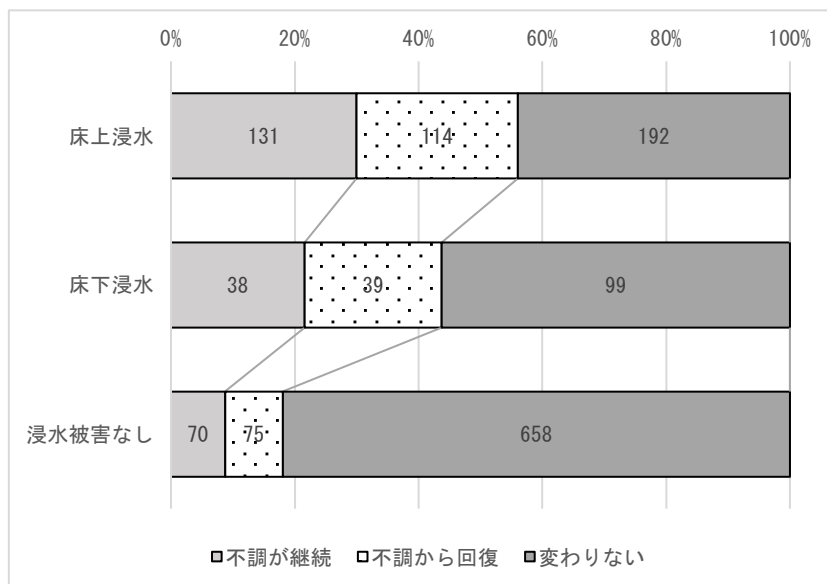


図 2-23 浸水被害と健康状態（からだ）の比較（世帯数）

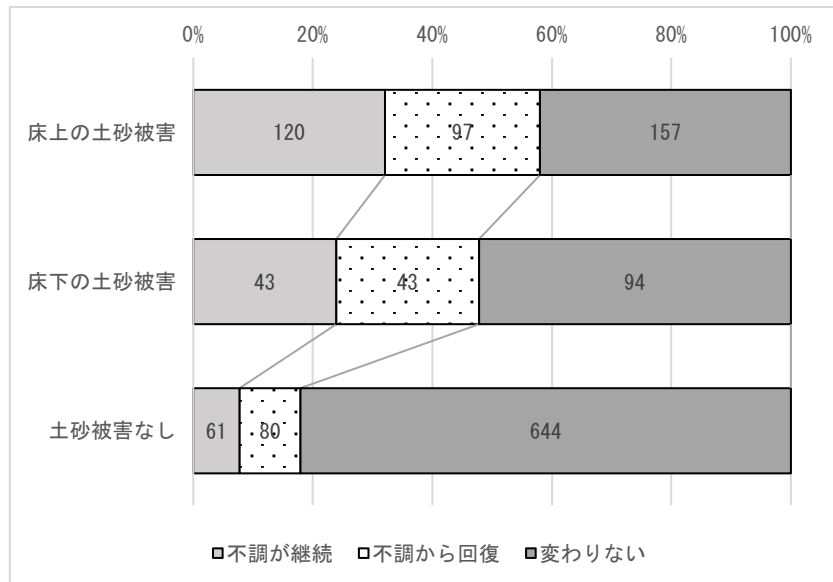


図 2-24 土砂被害と健康状態（からだ）の比較（世帯数）

罹災証明を取得している 610 世帯のうち、発災後のこころの状態について聞き取りが出来た 472 世帯について、被害状況が大きいほどこころの不調が継続している傾向が見られた。（図 2-25）

また、浸水被害について回答が得られた世帯、土砂被害について回答が得られた世帯のうち発災後の体調について聞き取りが出来た世帯は、それぞれ 1,373 世帯、1,295 世帯あり、いずれも、被害が大きいほど体調の不調が継続している傾向が見られた。（図 2-26、図 2-27）

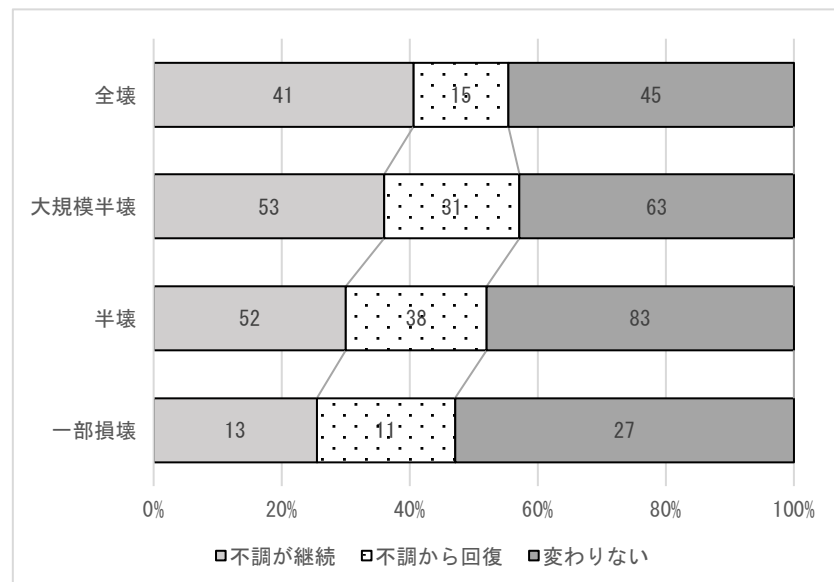


図 2-25 罹災証明での被災状況と健康状態（こころ）の比較（世帯数）

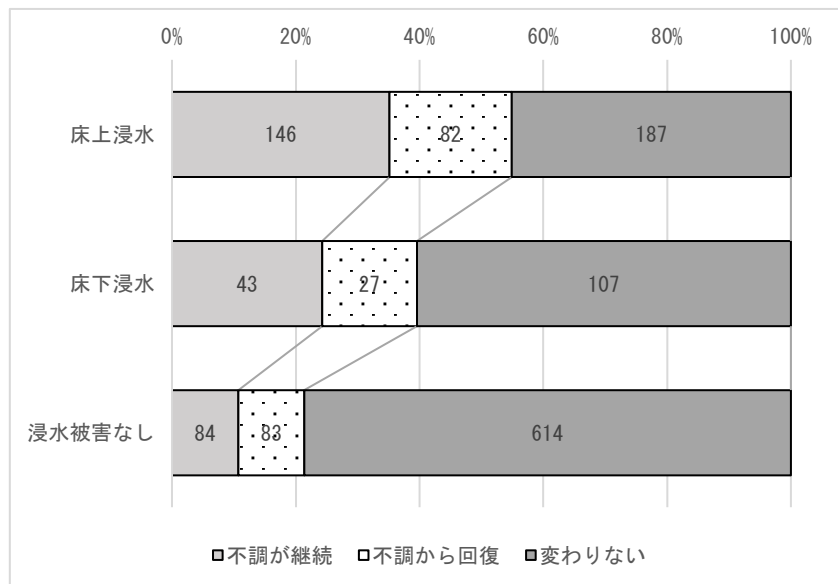


図 2-26 浸水被害と健康状態（こころ）の比較（世帯数）

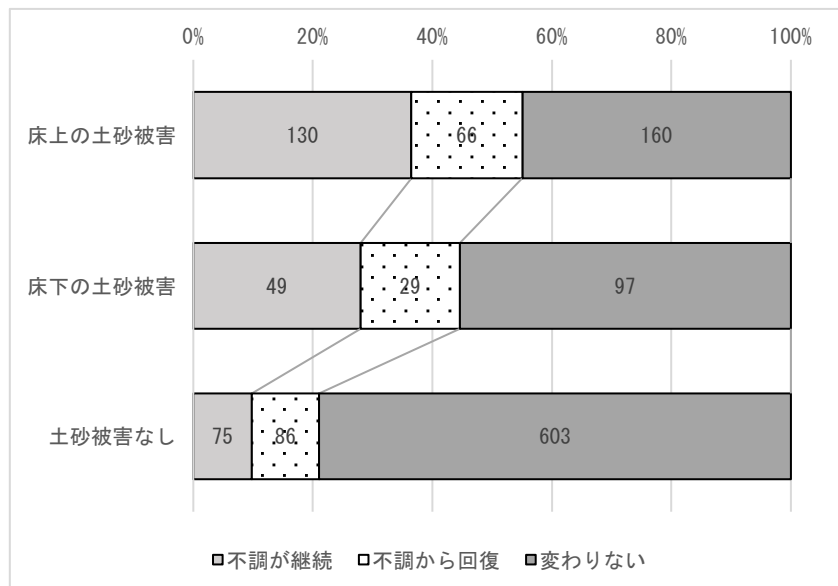


図 2-27 土砂被害と健康状態（こころ）の比較（世帯数）

4) 移動困難の状況

発災後、移動に困難が生じている世帯は、232 世帯で全体の 15.0%であった。「高齢者のみの世帯」では、129 世帯（21.9%）が移動に困難が生じており、「該当しない世帯」では 99 世帯（10.5%）に移動に困難が生じている。「高齢者のみ世帯」の方が「該当しない世帯」の約 2 倍の割合で移動に困難が生じている。（図 2-28）

移動に困難が生じた世帯にその理由を聞き取り、内容を分類したところ、「外出に手助けが必要」が最も多く、「バイク・車がなくなった」「移動手段がない」が続く。また、「以前から移動困難」と 22 世帯が答えている。（図 2-29）

その他の理由としては、「道路が危険・狭隘」「バスに関すること」「JR の不通」「タクシーがこない」などがあげられた。

現在の移動手段は、「自家用車」が最も多く、次いで「徒歩」「公共交通機関」と続いている。（図 2-30）

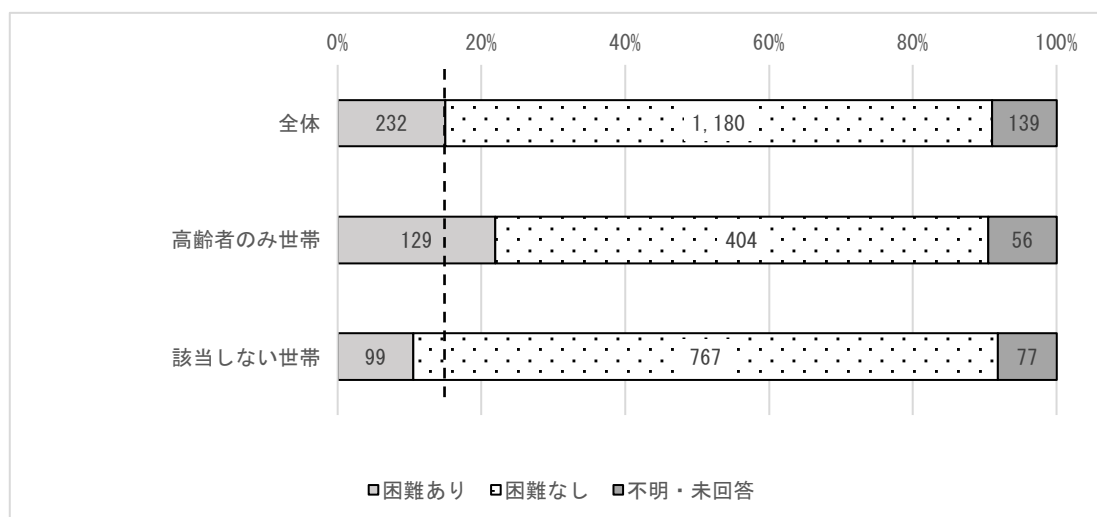


図 2-28 発災で移動困難が生じた世帯の状況（世帯数）

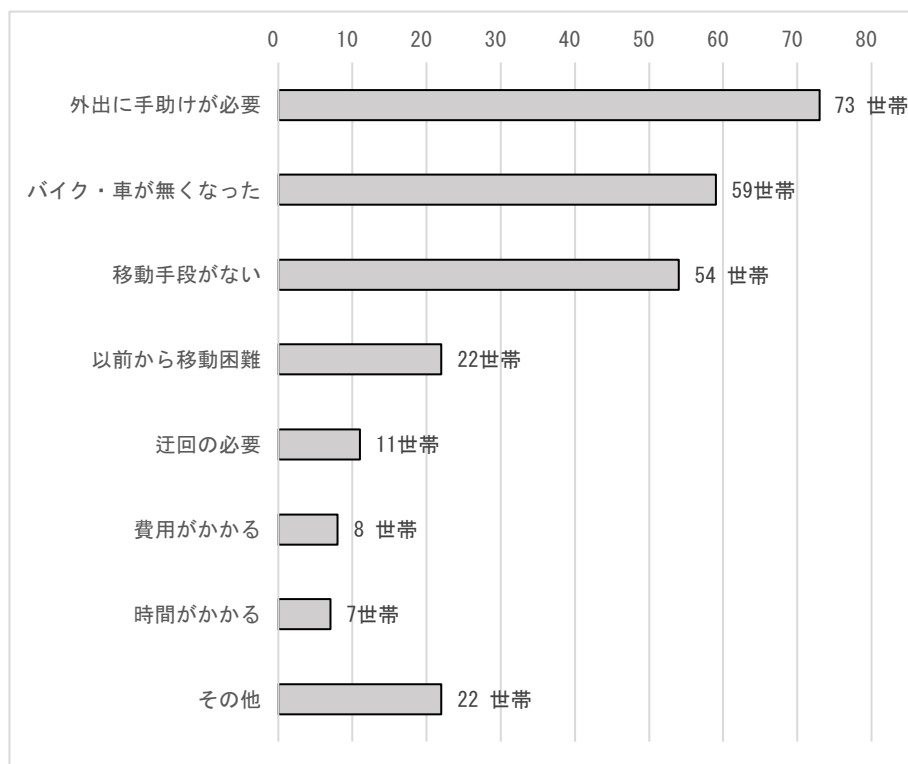


図 2-29 移動困難の理由（複数回答）

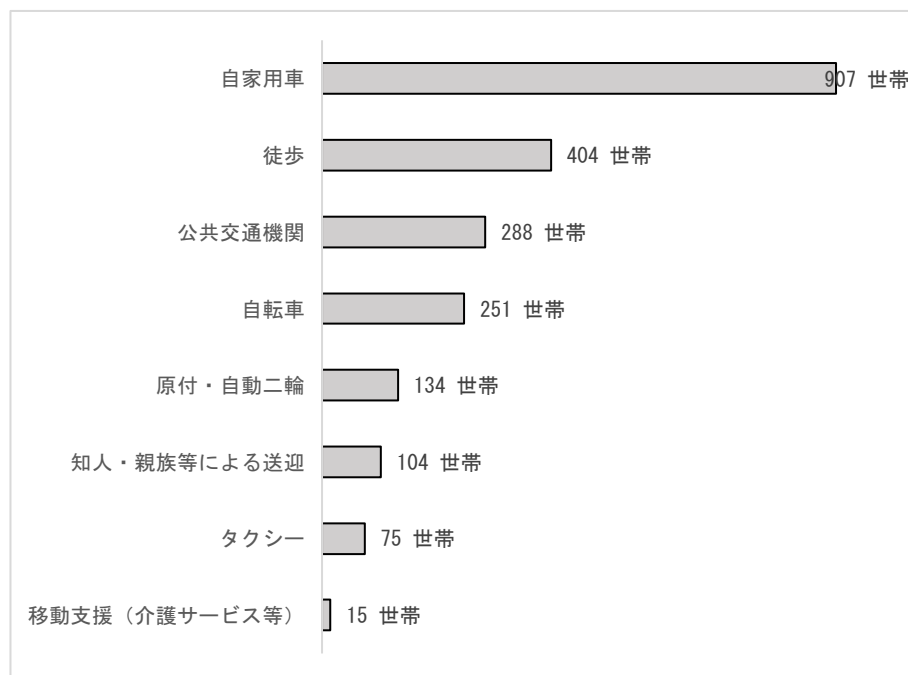


図 2-30 現在の移動手段（複数回答）

5) 買い物困難の状況

買い物に困難が生じている世帯は292世帯（18.8%）であった。「高齢者のみ世帯」では、148世帯（25.1%）が買い物に困難が生じており、「該当しない世帯」144世帯（15.0%）よりも、困難が生じる割合が高い。また、移動困難状況に回答した1,412世帯について、「移動困難あり」と答えた世帯のうち128世帯（55.2%）が買い物でも困難を生じており、「移動困難なし」で買い物で困難を生じている142世帯（12.0%）と、約4.5倍の差がある。（図2-31）

買い物に困難を生じている理由について聞き取りを行い、内容を分類したところ、「商店等が遠くて買い物にいけない」「買い物ができる機会が少ない」が多く、Aコープが被害を受けた事による影響が大きいと考えられる。また、ATMが被害を受けたことで、現金の出し入れが出来ず買い物に困難を生じていたり、移動販売のタイミングがわからないなど、他の事情から派生した困難理由もみられる。

「その他」は、「重たい荷物が運べない」（4件）「バスが不便・わからない」（3件）などである。（図2-32、表2-33）

買い物困難について聞き取りを行う中で、どの様に対応しているかの意見が出ている。質問項目としての聞き取りではないが、「家族・親族の支援」による対応が多く見られた。（表2-23）

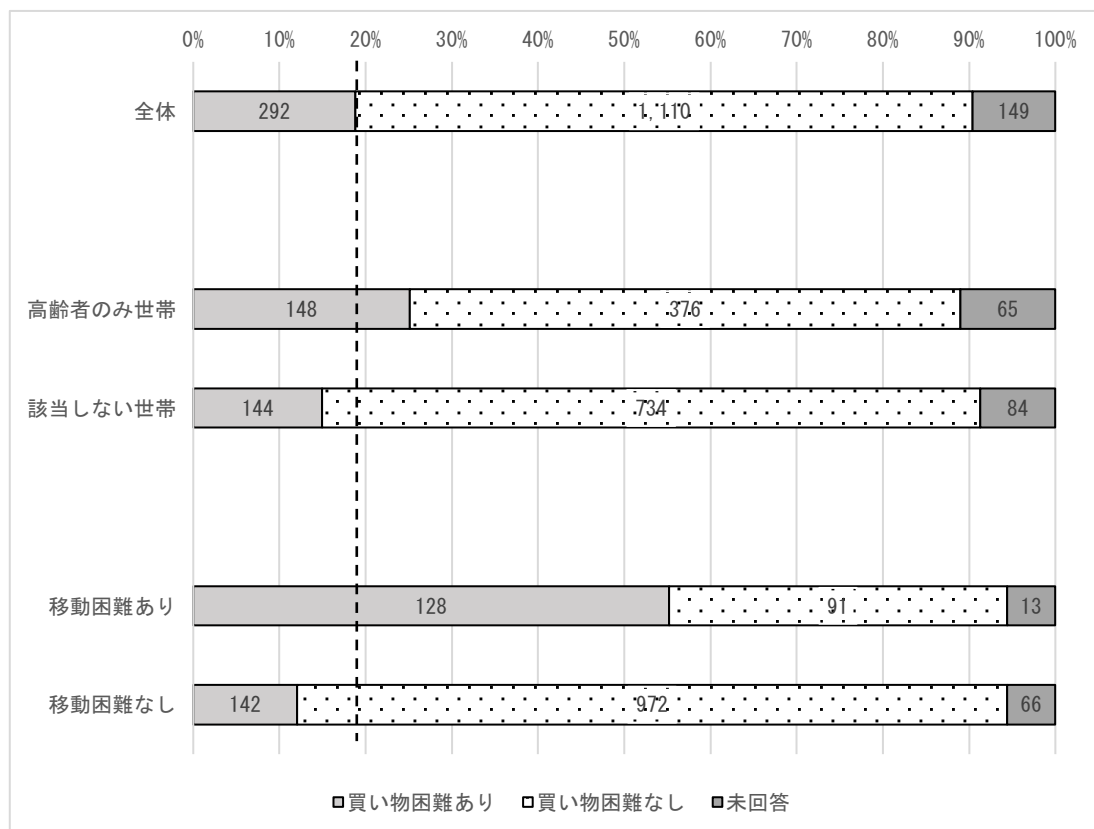


図2-31 買い物困難の世帯別の様子と「移動困難あり」世帯との関係（世帯数）

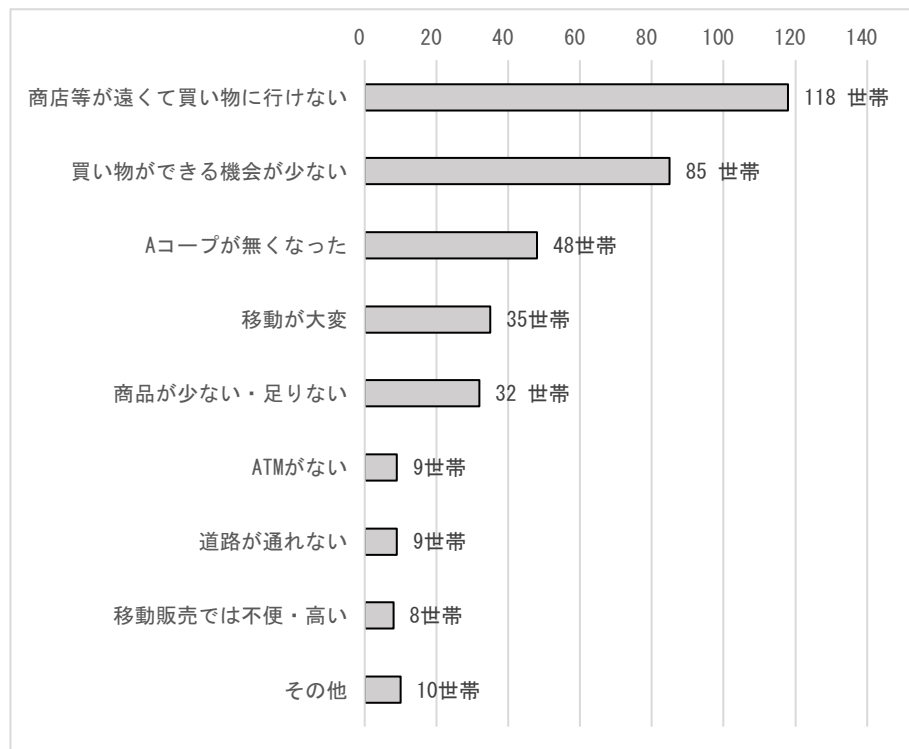


図 2-32 買い物困難の理由（複数回答）

表 2-33 買い物困難への対応

対応内容	世帯数
家族・親族の支援	25
まとめ買いで対応	4
生協	3
移動販売を利用	2
ヘルパーに頼む	1

6) 食事困難の状況

食事に困難が生じている世帯は114世帯（7.4%）であった。「高齢者のみ世帯」では、65世帯（11.0%）が食事に困難が生じており、「該当しない世帯」49世帯（5.1%）よりも、困難が生じる割合が高い。

また、移動困難状況に回答した1,412世帯について、「移動困難あり」と答えた世帯のうち52世帯（22.4%）が食事でも困難を生じており、「移動困難なし」で食事で困難を生じている56世帯（4.7%）と、約4.5倍の差がある。（図2-34）

食事に困難を生じている理由では、体調面からの食欲不振が最も多く（49件）、次いで心理面での食欲不振（34件）、「調理環境が内・自炊できない」（31件）と続く。聞き取り内容からは、「支給される弁当の揚げ物が食べにくい」「体重が落ちた」「パンしか食べられない」などの意見が出ている。（図2-35）

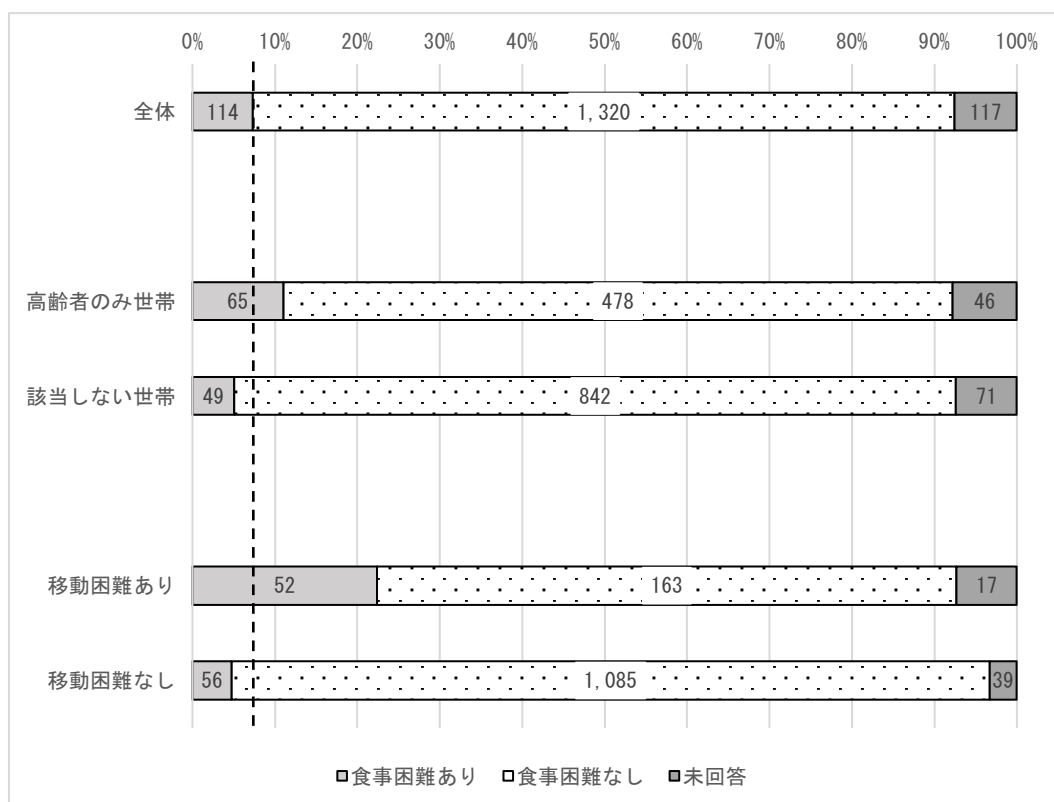


図2-34 食事困難の世帯別の様子と「移動困難あり」世帯との関係（世帯数）

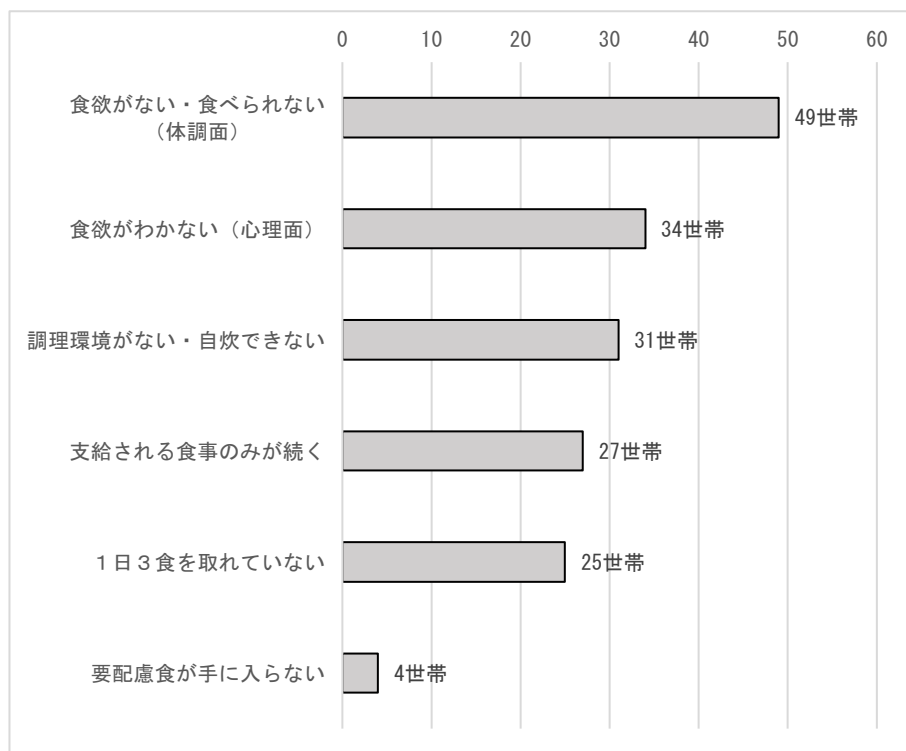


図 2-35 食事困難の理由 (複数回答)

7) 通院及び服薬関連

通院・治療に困難が生じた世帯は123世帯（7.9％）であった。「高齢者のみ世帯」では、57世帯（9.7％）に通院・治療の困難があり、「該当しない世帯」の66世帯（6.9％）よりも高い割合である。移動困難状況との関係では、「移動困難あり」と回答した232世帯のうち51世帯（22.0％）が、通院・治療に困難が生じており、「移動困難なし」と回答した1,180世帯のうち、通院・治療に困難が生じている63世帯（5.3％）の約4倍の高い割合となっている。（図2-36）

通院・治療に困難が生じた原因としては、「通院・治療の回数減」が40件で最も多く、「通院・治療の中断」は19件である。交通手段に不便をきたしていることや、病院が被災したことも原因となっている。（図2-37）

服薬に困難が生じた世帯は61世帯（％）であった。「高齢者のみ世帯」では、57世帯（9.7％）に服薬の困難があり、「該当しない世帯」の66世帯（6.9％）よりも高い割合である。移動困難状況との関係では、「移動困難あり」と回答した232世帯のうち51世帯（22.0％）が、服薬に困難が生じており、「移動困難なし」と回答した1,180世帯のうち、服薬に困難が生じている63世帯（5.3％）の約4倍の高い割合となっている。（図2-38）

服薬に困難が生じた原因は、「服薬の中断」が14件、「常備薬の入手困難」が12件であった。通院・治療と同様、交通手段の問題も原因としてあげられている。また、服薬時に見守りが必要など、発災前から困難があったと考えられる原因もあった。（図2-39）

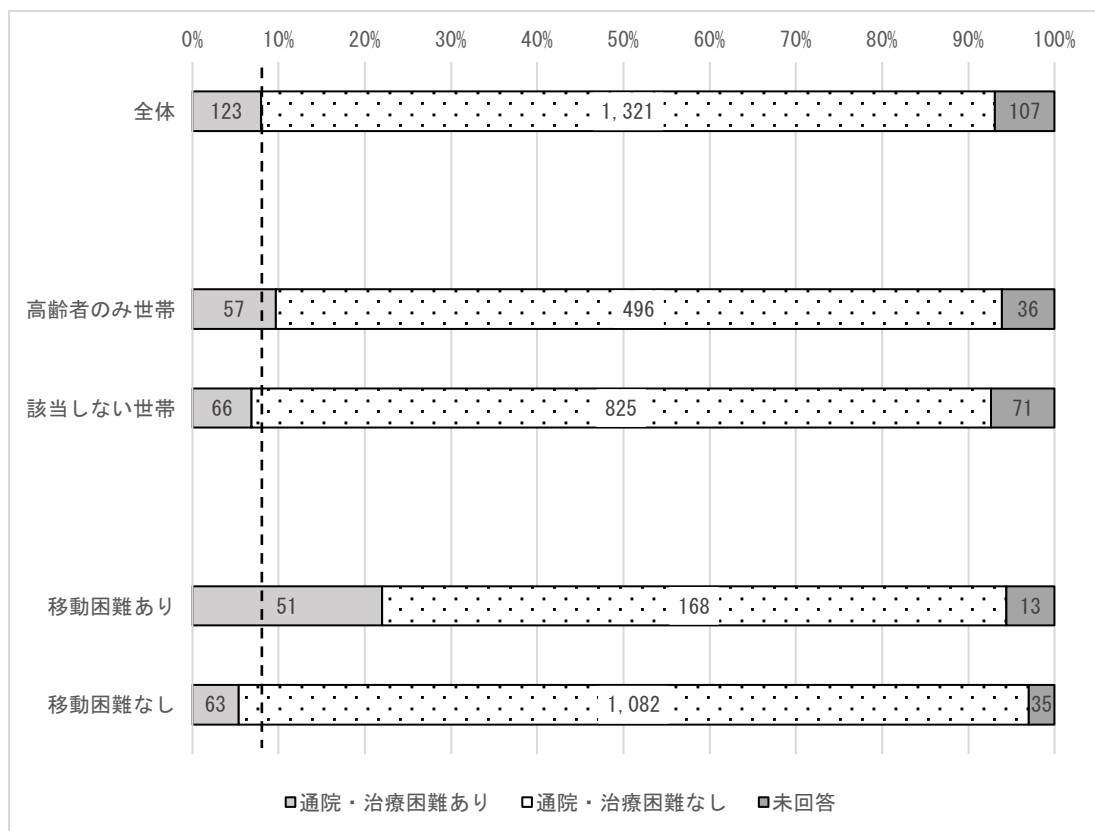


図2-36 通院・治療困難の世帯別の様子路「移動困難」世帯との関係（世帯数）

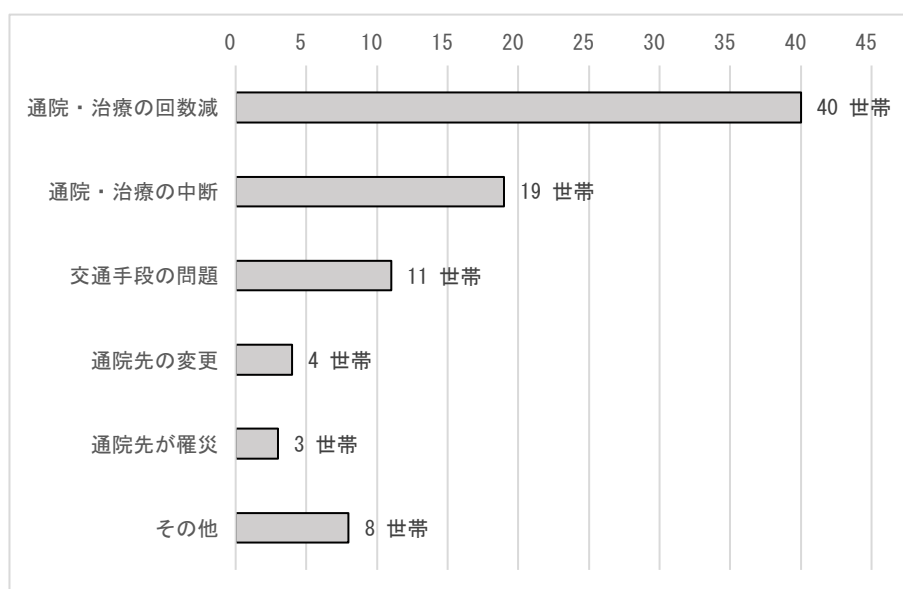


図 2-37 通院・治療困難の原因（複数回答）

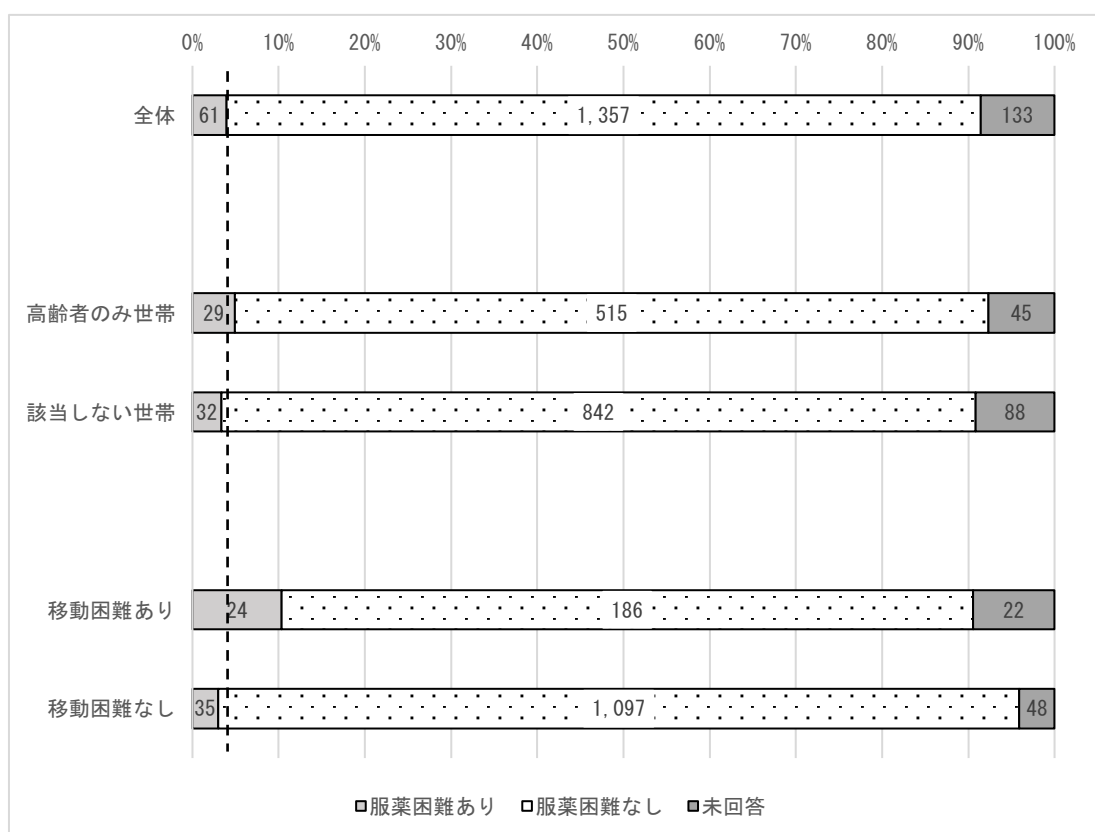


図 2-38 服薬困難の世帯別の様子路「移動困難」世帯との関係（世帯数）

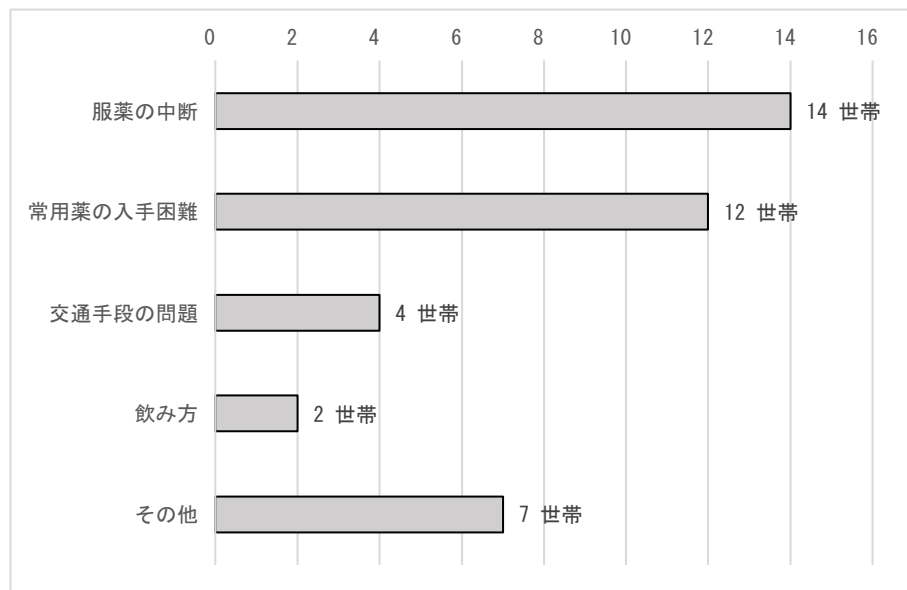


図 2-39 服薬困難の原因（複数回答）

8) 教育・保育の対象者のいる世帯状況

聞き取りを完了した 1,551 世帯のうち、教育や保育の対象年齢の家族がいる世帯は 199 世帯であった。「今後の居住希望地」について未回答であった世帯を除き、保育対象者の有無と今後の居住希望地の関係を比較したところ、「災害前と同じ地区」と「同じ町内で別の地区」を合わせた世帯数は、「保育・教育の対象者あり」131 世帯（93.6%）、「保育・教育の対象者なし」648 世帯（93.6%）で同じであるのに対し、「町外に出たい」と回答した世帯数は、「保育・教育の対象者あり」5 世帯（3.6%）、「保育・教育の対象者なし」7 世帯（1.0%）であった。（図 2-40）

「その他、不安・心配事」の聞き取り（図 2-68 参照）では、「学校等子どもの環境」に関する意見が 13 件出ている。

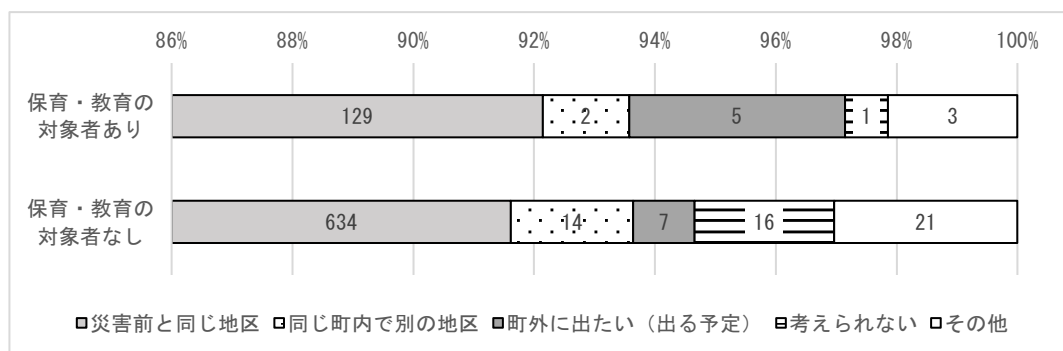


図 2-40 教育・保育対象者の有無と居住希望地の関係（世帯数）

9) 通勤困難の状況

通勤困難の状況では、全体のうち114世帯（7.4%）が「通勤困難あり」であった。就労収入のある847世帯のうち、通勤に困難が生じた世帯は103世帯（12.2%）である。移動困難状況との関係では、移動に困難が生じた232世帯のうち、25世帯（10.8%）が「通勤困難あり」と回答し、移動に困難が生じなかった1,180世帯では、85世帯（7.2%）が「通勤困難あり」であった。（図2-41）

また、通勤困難と就労収入のある世帯の関係について、回答数が少数である横浜地区を除いた小屋浦地区と坂地区を比較した。小屋浦地区では、就労収入のある248世帯のうち、54世帯（21.8%）が通勤に困難を生じており、坂地区では、就労収入のある576世帯のうち、47世帯（8.2%）が通勤に困難を生じている。（図2-42）

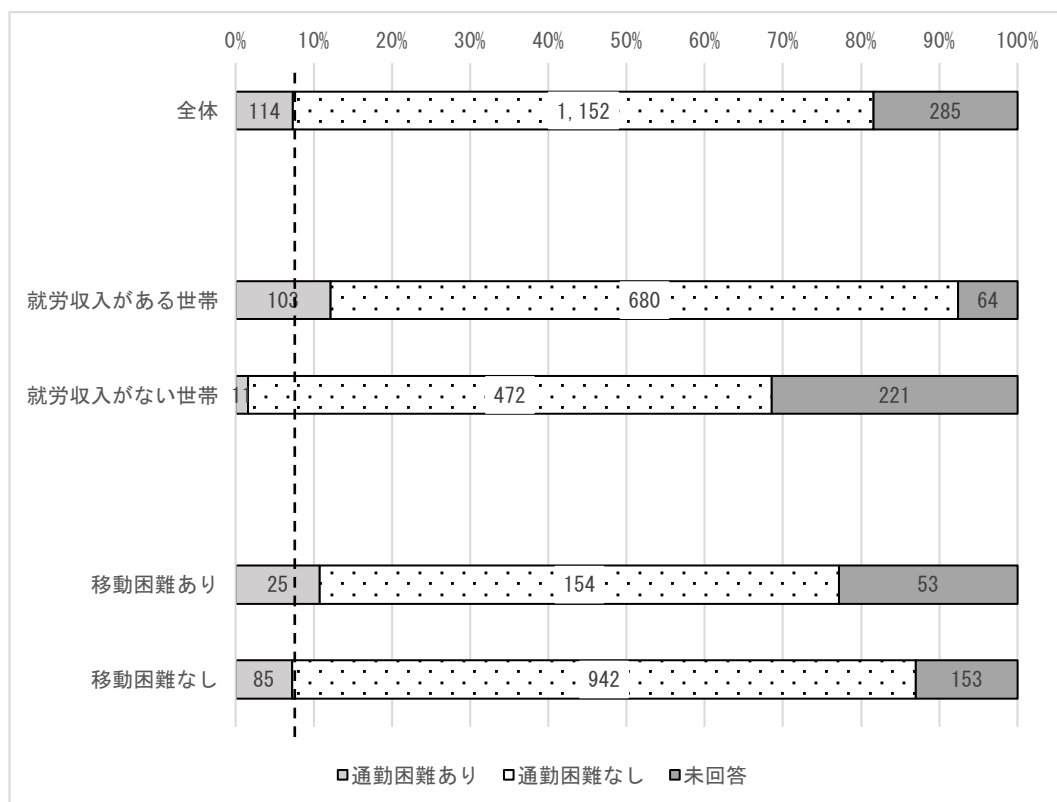


図2-41 通勤困難の状況と世帯状況及び移動困難の関係（世帯数）

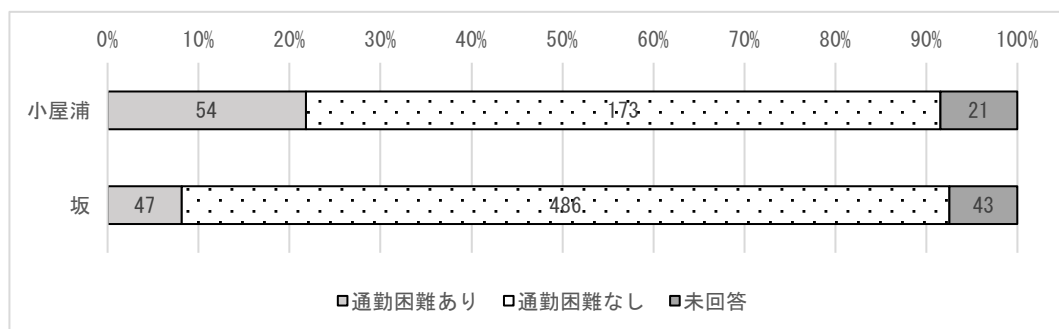


図2-42 就労収入のある世帯の通勤困難の状況（小屋浦地区・坂地区 世帯数）

10) 生活費のための主な収入源

生活費のための主な収入源について聞き取りを行ったところ、就労による収入がある世帯が 847 世帯、年金を受給している世帯が 812 世帯であった。年金を受給している世帯 812 世帯のうち、年金及び預貯金で生活するは 534 世帯であり、年金を受給している世帯の 65.8% である。（図 2-43、表 2-44）

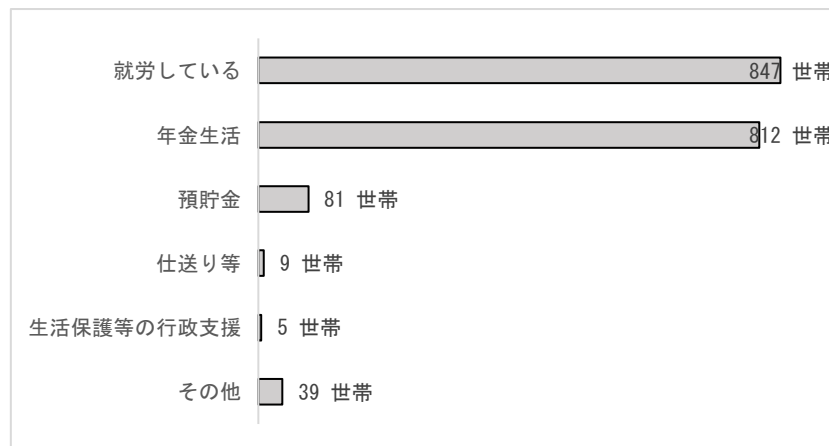


図 2-43 生活費のための主な収入源（複数回答）

表 2-44 年金受給世帯の収入源の内訳

収入源の内訳	世帯数
年金＋就労収入	254
年金のみ	483
年金＋預貯金	51
年金＋仕送り	4
年金＋行政支援	1
年金＋その他	19
年金＋就労収入	254

11) 義援金の申請状況

調査時点での義援金の申請状況については、表 4-27 のとおりである。罹災証明の内容別では、被害規模が小さくなるほど申請していない世帯が増加する。（表 2-45）

義援金の対象となる被害は、表 2-46 の区分のとおりである。区分に関連する被害について、罹災証明の内容と浸水被害の関係（表 2-47）、罹災証明の内容と土砂被害の関係（表 2-48）にまとめたところ、浸水被害の分類では 199 世帯、土砂被害の分類では 149 世帯が、浸水被害や土砂被害があるが義援金の対象となっていない可能性がある。

表 2-45 調査時点での被害状況別義援金申請状況

被害状況	申請状況			申請せずの理由			備考
	申請・受領済み	申請していない	わからない	対象外	対象かわからない	義援金についてわからない	
全壊	92	7	6	1	1	2	
大規模半壊	137	10	3	2	0	2	
半壊	158	13	6	4	5	5	
一部損壊	22	25	2	9	8	4	
床上浸水	377	28	19	5	3	12	
床下浸水	56	107	6	73	17	6	対象外
浸水被害なし	35	643	12	561	19	6	対象外
床上の土砂被害	318	28	18	6	2	11	対象外
床下の土砂被害	81	88	7	58	20	2	対象外
土砂被害なし	45	619	10	545	13	5	対象外

※ 被害状況及び義援金申請状況について回答のあった件数のみ記載

表 2-46 義援金の対象となる被害の区分

	被害の区分	1 次配分	2 次配分	合計
人的被害	死者又は行方不明者	—	180 万円	180 万円
	重傷者	—	90 万円	90 万円
住家被害	全壊	5 万円	175 万円	180 万円
	大規模半壊	5 万円	85 万円	90 万円
	半壊			
	一部破損及び床上浸水	5 万円	31 万円	36 万円
	一部破損及び床下浸水（土砂流入）			
	一部破損及び床下浸水			
	一部破損			
	床上浸水	5 万円	13 万円	18 万円

※ 坂町HP「坂町災害見舞金及び義援金の振込について」より

表 2-47 罹災証明の内容と浸水被害の関係

	全壊	大規模 半壊	半壊	一部損壊	罹災証明 なし 不明	合計
床上浸水	91	156	141	12	63	463
床下浸水	1	8	34	34	119	196
浸水被害なし	12	1	9	8	814	844
合計	104	165	184	54	996	1,503

※ 浸水被害について「不明・未回答」の 48 世帯を除く

表 2-48 罹災証明の内容と土砂被害の関係

	全壊	大規模 半壊	半壊	一部損壊	罹災証明 なし 不明	合計
床上の土砂被害	90	136	106	10	54	396
床下の土砂被害	5	18	52	29	95	199
土砂被害なし	4	5	20	10	784	823
合計	99	159	178	49	933	1,418

※ 土砂被害について「不明・未回答」の 133 世帯を除く

(5) 今後の見通し

この項目では、今後の見通しとして「当面の居所」「今後の居住希望地」の聞き取りを行った。

1) 当面の居所

当面の居所については、「当面は移転の予定なし」と回答した世帯が1,255世帯(80.9%)で最も多く、「移転の予定あり」が83世帯(5.4%)、「移転のめどが立っていない」71世帯(4.6%)であった。

「移転の予定あり」と回答した世帯の移転先は、「自宅に戻る」が52世帯(62.7%)で最も多く、「応急仮設住宅」「みなし仮設」「親族・知人宅」と続く。

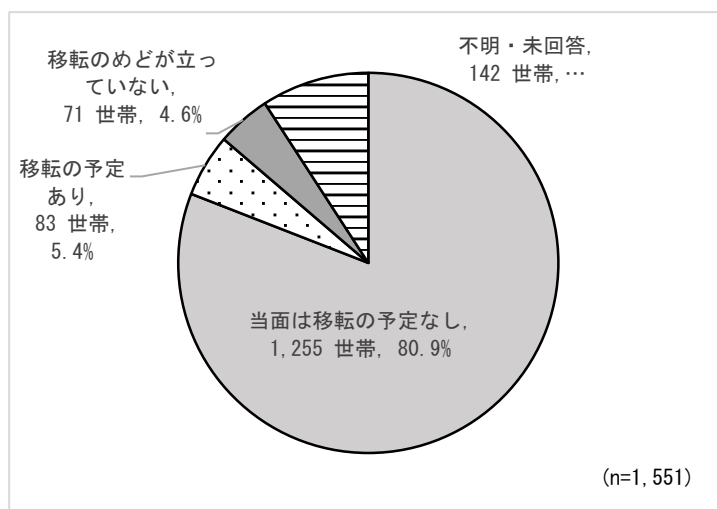


図 2-49 当面の居所

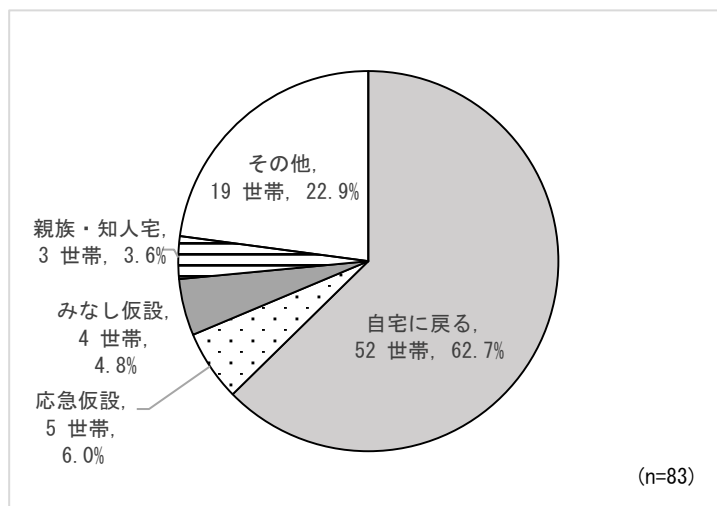


図 2-50 「移転の予定あり」世帯の転居先

2) 移転の目処が立っていない理由

「当面の居所」の質問で「移転のめどが立っていない」と回答した世帯は74世帯であった。「移転の目処が立っていない理由」については、91世帯が何らかの回答をしている。自由記入欄への聞き取り情報を含め、「移転の目処が立たない理由」を図2-51の通り集計を行った。

高齢者のみ世帯か該当しない世帯かに関わらず、「費用面」での課題が大きい。全壊、大規模半壊では、地区の安全性に対する不安を、理由としてあげる世帯が複数みられる。

表 2-51 移転の目処が立たない理由を回答した世帯の被害状況及び構成別の理由（複数回答）
（上段：世帯数、下段：回答した世帯数に対する割合）

罹災証明内容	高齢者のみ世帯	回答した世帯数	移転の目処が立たない理由					
			費用面	物件が見つからない	地区の安全性	再建や撤去の見通し等	考えがつかない	その他
全壊	高齢者のみ世帯	20	11 55.0%	4 20.0%	4 20.0%	1 5.0%	2 10.0%	3 15.0%
	該当せず	12	6 50.0%	1 8.3%	3 25.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%
大規模半壊	高齢者のみ世帯	16	7 43.8%	3 18.8%	2 12.5%	2 12.5%	1 6.3%	1 6.3%
	該当せず	12	6 50.0%	1 8.3%	3 25.0%	1 8.3%	0 0.0%	1 8.3%
半壊	高齢者のみ世帯	2	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%
	該当せず	7	4 57.1%	1 14.3%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%
一部損壊	高齢者のみ世帯	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	該当せず	3	3 100.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
申請せず・罹災証明内容未回答	高齢者のみ世帯	10	2 20.0%	4 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 20.0%
	該当せず	9	3 33.3%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%	3 33.3%

3) 今後の居住希望地

今後の居住希望地について聞き取りを行ったところ、居住希望地について回答のあった世帯は、1,031世帯であった。（図2-52）

この設問に対する未回答が多いことをふまえ、意向の傾向を計るため、未回答を除く集計を行った。（図2-53）

今後の居住希望については、「災害前と同じ地区」が932世帯と最も多い。家屋の被害状況との比較では、被害が大きくなるほど、「災害前と同じ地区」の回答割合が少なくなるものの、「災害前と同じ地区」での居住を希望する世帯が最も多く、全壊の世帯で64.2%、大規模半壊の世帯で88.1%、半壊の世帯で94.4%を占める。

高齢者のみ世帯と該当しない世帯での比較では、今後の居住希望について回答した世帯のうち、高齢者のみ世帯は61.6%、該当しない世帯は59.1%が「災害前と同じ地区」を希望している。高齢者のみ世帯の「その他」の回答内容は、先行きの見通しがたたないことや不安等に起因する傾向が見られる。（表2-54）

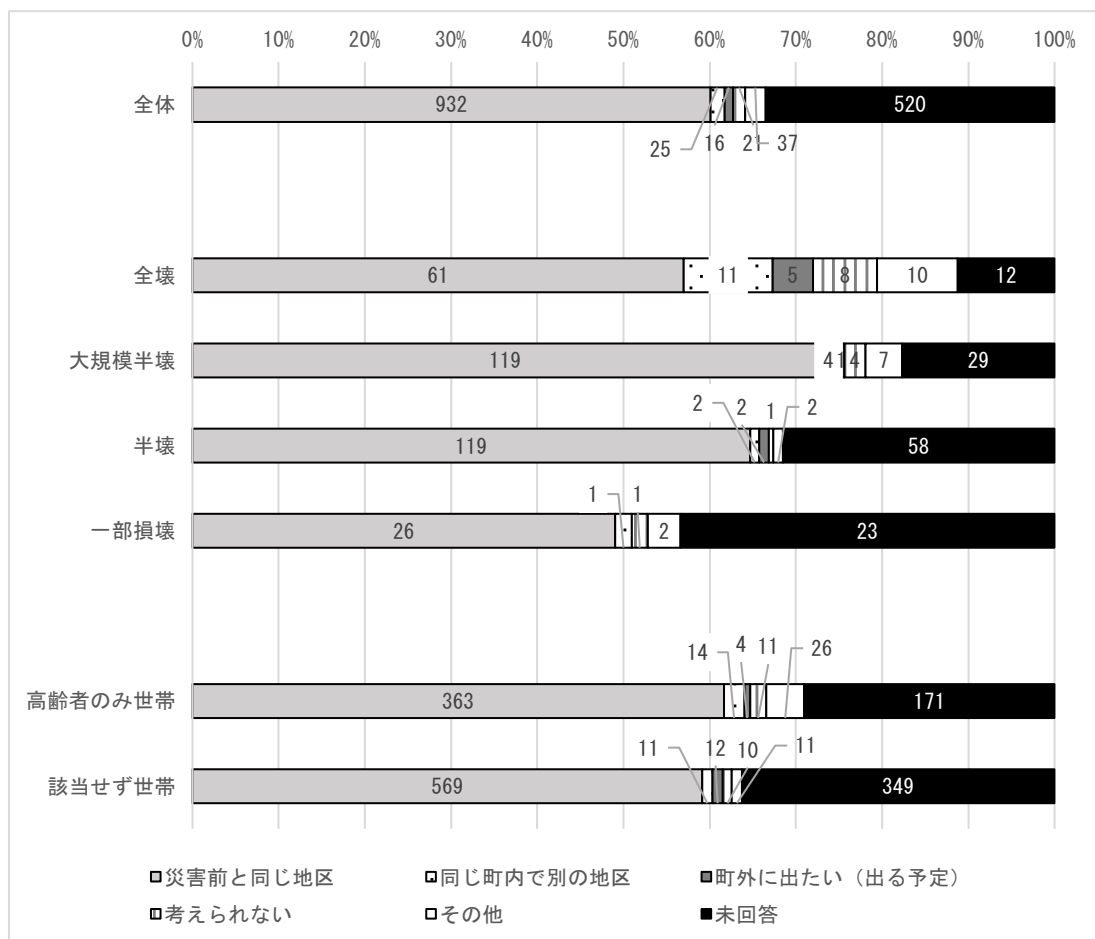


図2-52 被災状況別の今後の居住希望地（世帯数）

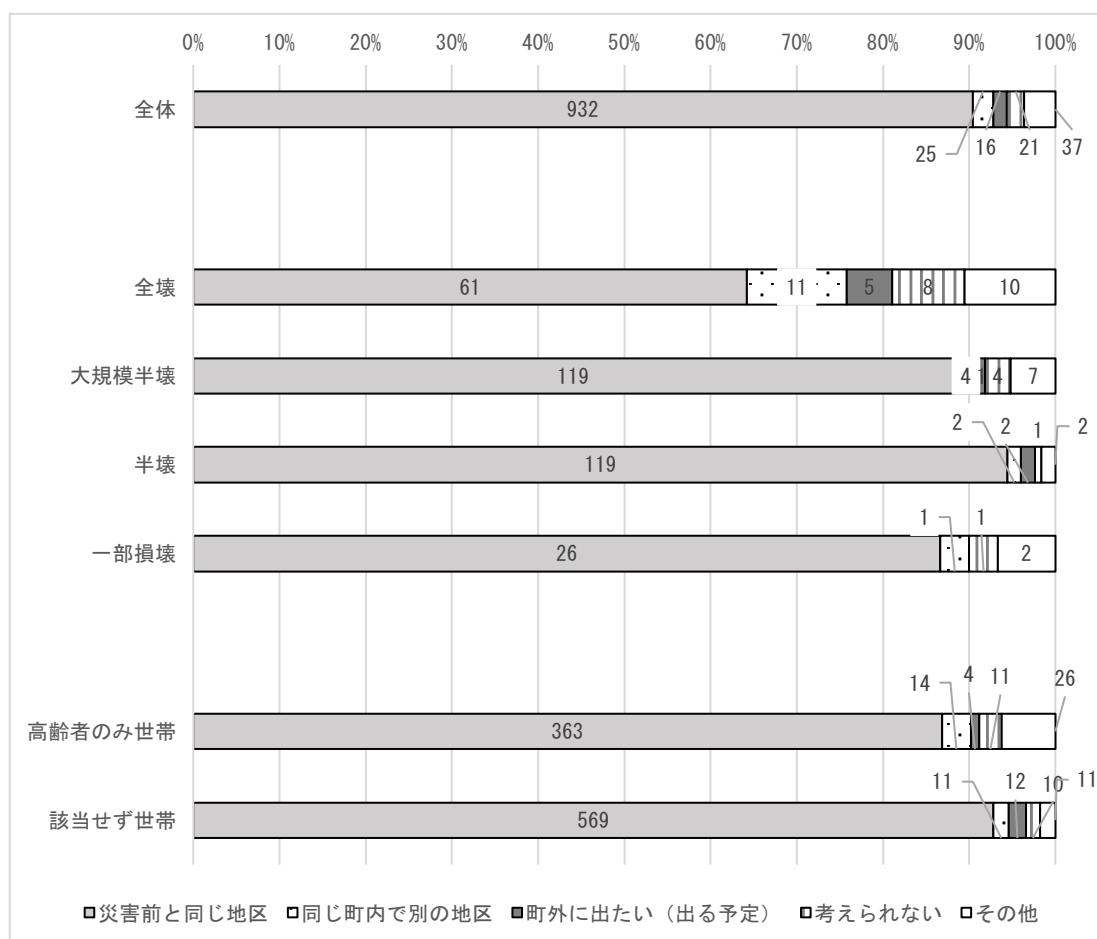


図 2-53 被災状況別の今後の居住希望地（未回答を除く 世帯数）

表 2-54 今後の居住希望地に関するその他の意見（高齢者のみ世帯）

世帯状況	罹災証明 取得内容	今後の居住地希望 回答状況	今後の居住地希望その他
高齢者のみ 世帯	全壊	災害前と同じ地区	自宅
			住み続けたいが不安
			防災対策をしっかりしてもらいたい
		同じ町内で別の地区	公営住宅を希望
			通院先を変えたくないから
		町外に出たい (出る予定)	長男のもとへ行くことを検討
		考えられない	家族がトラウマになっており、戻る決心がつかない。
			同じ場所は恐い、他の場所は考えられない
		その他	引き続き町有住宅で生活したい
			公営住宅は1人では入れないと断られた
			今の所に住みたい
			思案中
			悩んでいる
			公営住宅
	大規模半 壊	同じ町内で別の地区	公営住宅の入居を希望。
			シェアは無理
		その他	どこかに復興住宅を建てて欲しい
			みなし仮設に住む。
			公営住宅希望 息子さんはネットで調べ高齢者受け入れ施設を探されているが条件が合わない
			坂町にすめるところがあれば
			出たいと思うが家も無事だったためしばらくは今のまま
			便利な所ならどこでも良い
		半壊	見積もりによる
			一部損壊
		その他	施設
			施設
	不明・未 回答	災害前と同じ地区	家族の介護状況次第
			同じ地区にいたい
			自宅で生活したい
			家族に大阪在住者あり
			猫が生きている間は今のところへ住んでいる
		同じ町内で別の地区	町が立てる所に申し込んでいると話されていたが、わからない
			仮設住宅は2年くらいしかいれないので、市営、県営、町営に入りたい。
		その他	元々老人ホームなど検討中
			現在のところに継続して住みたい。
			高齢
			子供も大きくなり他の地域に移住。家族内で現住所と転居で意見が分かれている。
			施設
			自宅の裏山が崩れないかと不安。
			娘が町外に暮らしている。
			悩んでいる
			未定
			娘が県外にいるので、その近くの老人ホームへ入ろうと思っている。

表 2-55 今後の居住希望地に関するその他の意見（該当しない世帯・世帯状況未回答世帯）

世帯状況	罹災証明 取得内容	今後の居住地希望 回答状況	今後の居住地希望その他
該当せず 世帯	全壊	災害前と同じ地区	知らない土地には住みたくない。たとえ家賃が発生しても公営住宅で継続して住みたい。
		同じ町内で別の地区	利便性一貫い物、駅、病院。
		その他	まだ考えていない。
			町外
			決まっていない 災害前と違う地域でマンション購入検討中
不明・ 未回答	大規模半 壊	災害前と同じ地区	気持ちとしては小屋浦に住みたいが、今回の災害のことを考慮すると気持ちは揺らぐ。
			災害が無いところに住みたいが、戻ってくるしかない。本当は戻りたくない。
	半壊 一部損壊	その他	静かで安全な所なら何処でも 範囲を広げて思案中。
		その他	同じ町内がいい。
	不明・ 未回答	その他	11 月に転勤予定
			行政や居住地区の住民に対する不満が夫婦ともに非常に強い。
			県外にいる家族の近くにいきたい。
		災害前と同じ地区 町外に出たい (出る予定)	同じ地域に住みたいが、不安。 10 月末に広島市市内に出る

(6) 支援や情報について

この項目では、支援や情報の入手、受援の状況、相談相手の有無、不安や心配事について、聞き取りを行った。

1) 情報の入手状況

情報の入手状況について聞き取ったところ、「十分に情報入手出来ている」と回答した世帯は、496世帯（32%）であった。高齢者のみ世帯は、該当しない世帯に比べ、十分に情報が入手出来ていると感じている世帯は少なく、169世帯（28%）である。

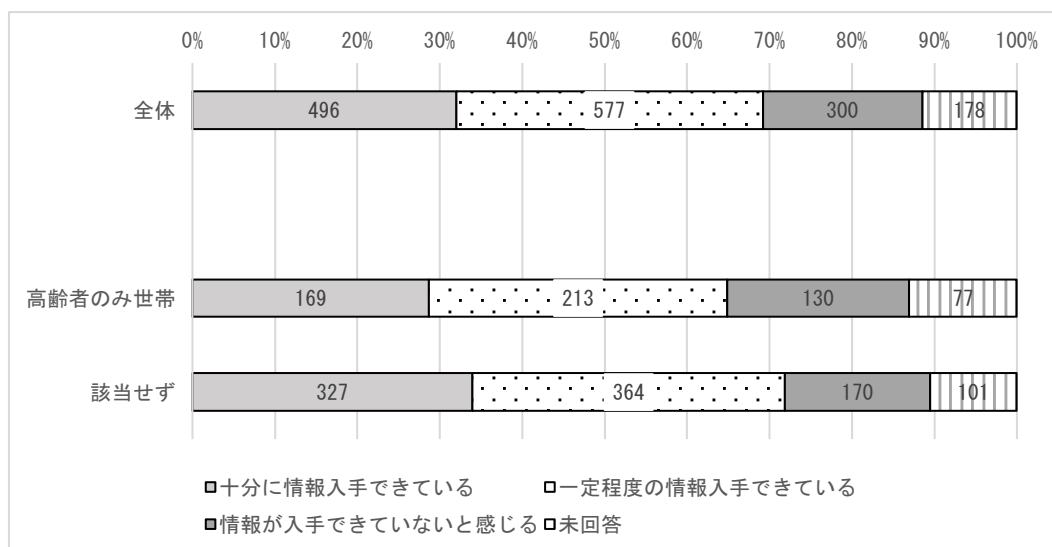


図 2-56 情報入手状況の世帯別の様子（世帯数）

2) 情報の入手経路

情報の入手経路について聞き取りを行い、1,354世帯から何らかの回答を得た。（表 2-57）

高齢者のみ世帯と該当しない世帯について、自由回答も含め分類を行い、情報入手経路の集計を行ったところ、高齢者のみ世帯では、「ロコミ・知人から」「テレビ」「行政の配布物」「町内放送・防災無線」と続くのに対し、該当しない世帯では「行政の HP やメールサービス」「テレビ」「ロコミ・知人から」「その他サイト」と続く。（表 2-58）

回答したそれぞれの世帯数に対する情報入手経路の割合では、インターネットに関連する「行政の HP やメールサービス」「その他サイト」の項目で、高齢者のみ世帯と該当しない世帯の差が大きい。これに対し、「行政の配布物」「町内放送・防災無線」「地区役員等からの連絡」「家族・親族」の項目では、高齢者のみ世帯の方が高い割合が出ている。「ロコミ・知人から」「テレビ」は、どちらの世帯も高い割合で利用している経路である。（図 2-59）

なお、聞き取りの自由回答の中には、「町内放送が聞こえにくい」との意見が 73 件、「情報が入らない」との意見が 11 件あった。

表 2-57 情報入手経路への回答状況

	全体	高齢者のみ世帯	該当せず世帯
回答世帯数	1,354	492	852
未回答世帯数	197	97	110

表 2-58 情報入手経路の世帯別の利用件数（複数回答）

	高齢者のみ世帯 の件数	該当せず世帯 の件数
ロコミ・知人から	156	240
テレビ	143	249
行政の HP やメールサービス	71	275
行政の配布物	123	181
町内放送・防災無線	115	153
その他サイト（ニュース、SNS 等）	38	215
地区役員等からの連絡	67	75
行政職員等からの連絡	37	60
ラジオ	33	63
避難所等の掲示板	34	53
新聞	34	43
電話で問い合わせ	14	32
家族・親族	31	14
学校・幼稚園・保育園等からの連絡	0	28
その他	51	73

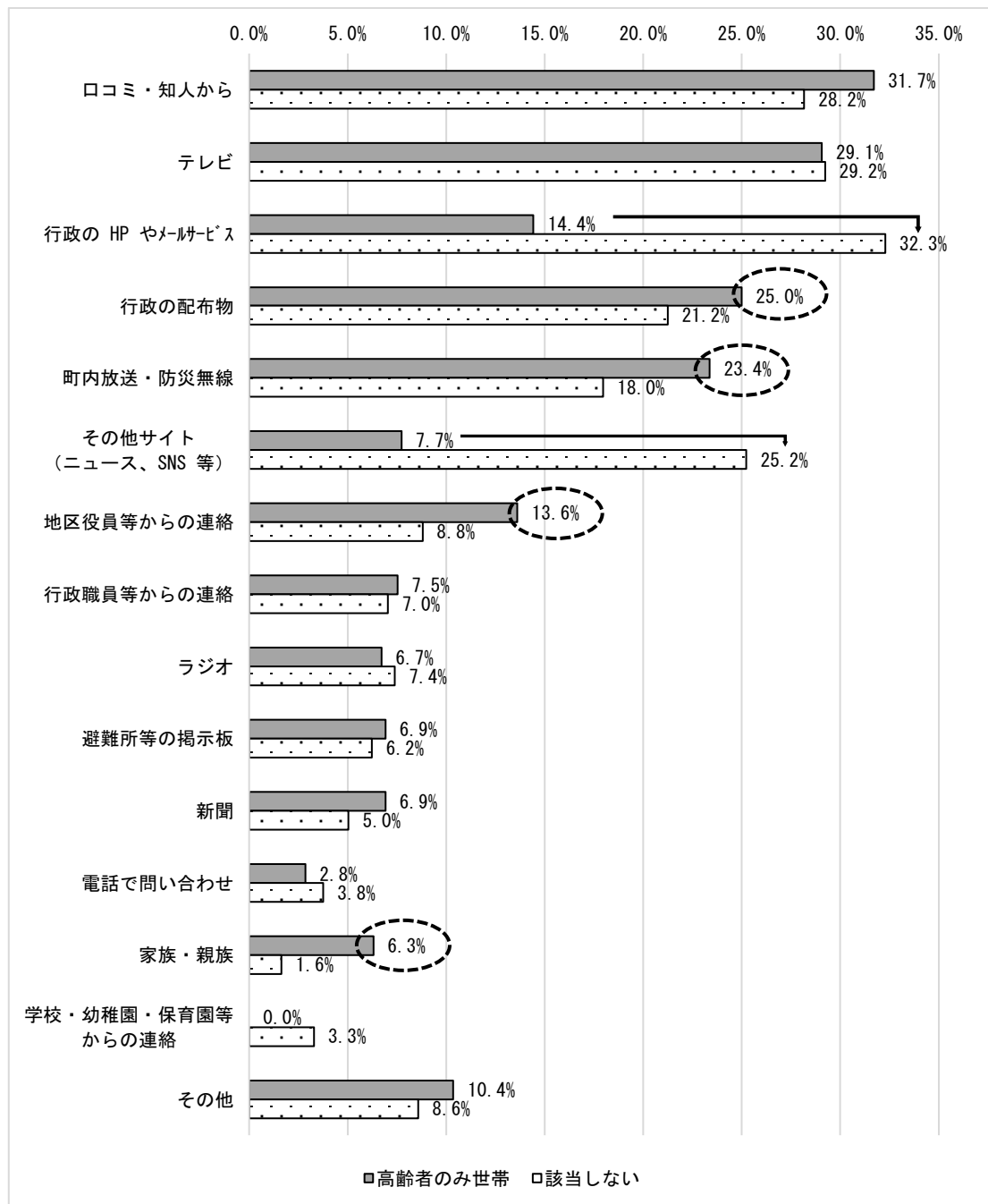


図 2-59 入手経路の世帯別の利用状況の割合（複数回答）

3) 受援の種類

ボランティアをはじめとする受援の種類について聞き取りを行ったところ、586 世帯が何らかの支援を受けていると回答した。（表 2-60）

高齢者のみ世帯と該当しない世帯が受けた支援の内容は、表 2-61 のとおりである。また、支援を受けたと回答した世帯に対する受援の種類の割合は、高齢者のみ世帯と該当しない世帯で大きな差は見られず、いずれも 9 割程度の世帯が「泥かき・片付け」の支援を受けている。

表 2-60 支援を受けたと回答した世帯数

	全体	高齢者のみ世帯	該当せず世帯
回答世帯数	586	233	353
未回答世帯数	965	356	609

表 2-61 受援の種類世帯別の件数（複数回答）

	高齢者のみ世帯 の件数	該当せず世帯 の件数
泥かき・片付け	214	317
荷物運び	105	144
各種相談	60	91
マッサージ等	13	12

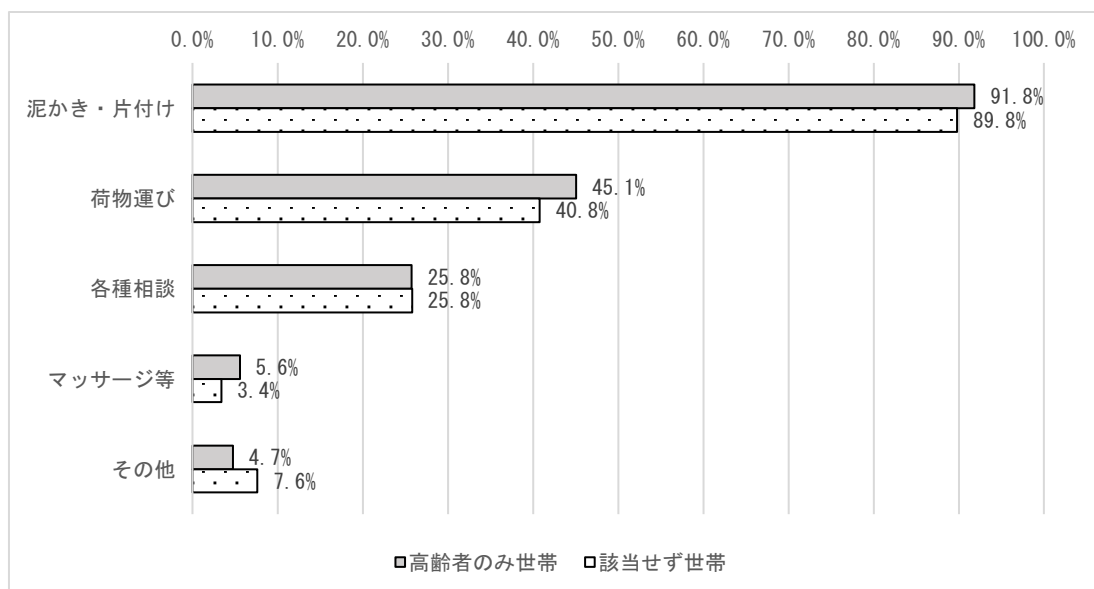


図 2-62 受援の種類世帯別の状況の割合（複数回答）

4) 相談相手

相談相手の有無について聞き取りを行ったところ、「相談相手がいる」と答えた世帯は、高齢者のみ世帯では421世帯（71.5%）、該当しない世帯では629世帯（65.4%）であった。「相談相手は必要ない」と答えた世帯は、高齢者のみ世帯では73世帯（12.4%）、該当しない世帯では150世帯（5.6%）である。（図2-63）

相談相手について、自由回答も含め分類を行い集計したところ、相談相手について何らかの回答をした世帯は、1,028世帯である。（表2-64）

高齢者のみ世帯と該当しない世帯の相談相手は、表2-65のとおりである。また、相談相手について回答した世帯数に対する相談相手の割合は、高齢者のみ世帯、該当しない世帯ともに、「親族・知人」が最も多く8割程度を占めている。（図2-66）

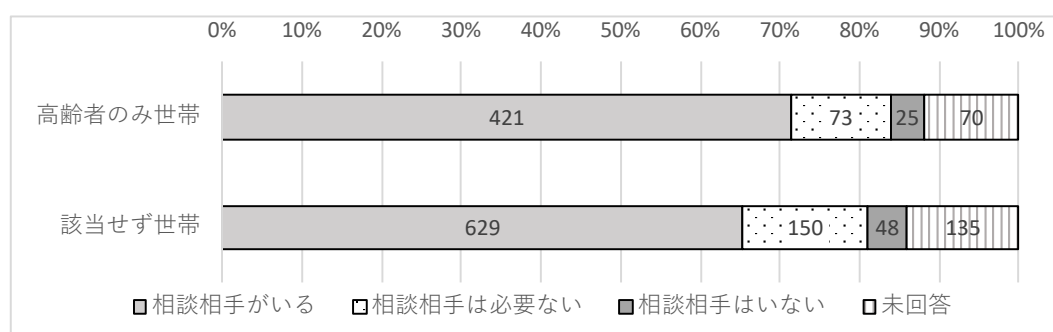


図2-63 相談相手の有無の世帯別の様子

表2-64 相談相手について回答した世帯数

	全体	高齢者のみ世帯	該当せず世帯
回答世帯数	1,028	422	606
未回答世帯数	523	167	356

表2-65 相談相手の世帯別の件数（複数回答）

	高齢者のみ世帯 の件数	該当せず世帯 の件数
親族・知人	345	476
近所の人	134	198
行政職員	29	67
介護支援員等	22	19
地域役員等	20	9
その他	13	25

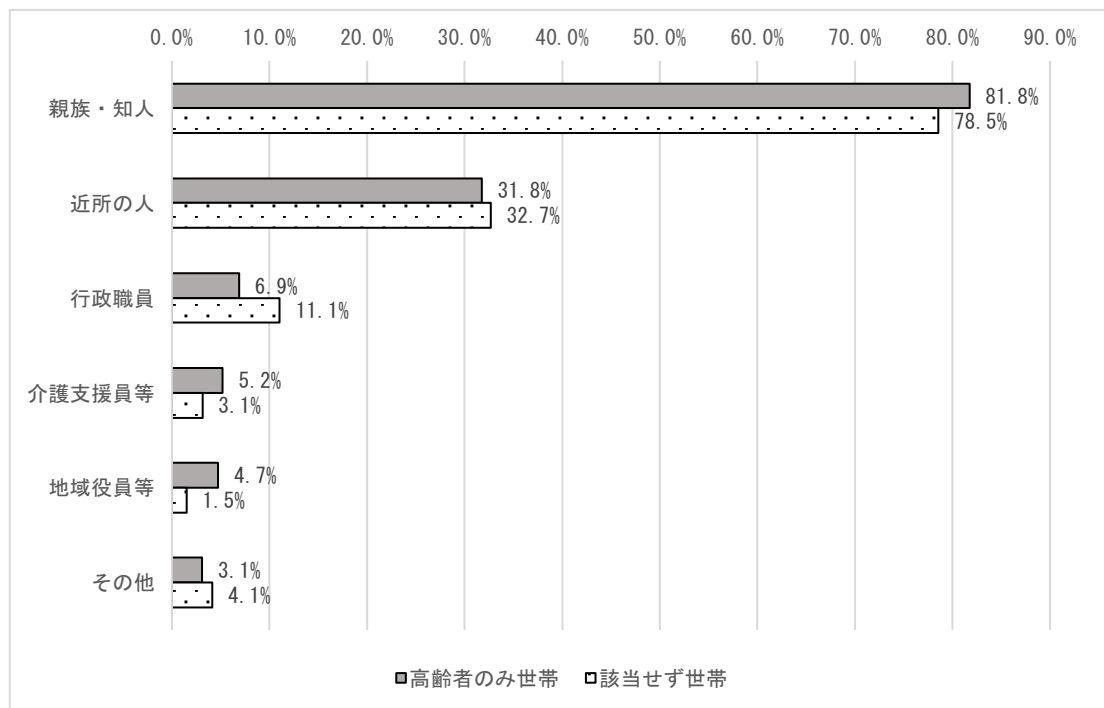


図 2-66 相談相手の世帯別の割合（複数回答）

5) 不安・心配事

不安・心配事の有無について聞き取りを行い、自由回答も含め分類を行い集計をしたところ、何らかの回答をした世帯は、831 世帯であった。（表 2-67）

高齢者のみ世帯と該当しない世帯の「不安・心配事」の内容別の件数は、表 2-68 の通りである。「不安・心配事」について何らかの回答をした世帯に占める「不安・心配事」の割合では、「再建費用・生活費等の金銭不安」が、高齢者のみ世帯と該当しない世帯ともに最も多い結果となった。該当しない世帯に比べ高齢者のみ世帯の方が 3%以上高い割合となっている項目は、「生活用品が不足している」「体調」「移動手段がない」である。高齢者のみ世帯に比べ該当しない世帯の方が 3%以上高い割合となっている項目は、「次の災害への対応」「土砂・がれきの心配」である。

表 2-67 不安・心配事について回答した世帯数

	全体	高齢者のみ世帯	該当せず世帯
回答世帯数	831	328	503
未回答世帯数	720	459	459

表 2-68 不安・心配事の世帯別の件数（複数回答）

世帯状況	高齢者のみ世帯	該当せず世帯
再建費用・生活費等の金銭不安	50	69
生活用品が不足している	34	24
次の災害への対応（備え）	27	71
二次被害が心配	24	35
道路や河川の補修・土木関係	22	48
体調	20	9
解体撤去の見通しが立たない	19	19
移動手段がない	19	11
A コーブがなくなったこと	18	33
住宅の補修・再建等	18	27
医療や介護が不足している	18	30
雨や天候への心配	12	30
町内放送が聞こえない・情報が不足	11	26
家族・一人で不安	11	3
生活全般への不安	10	16
親族やご近所と離れてしまう	10	12
コミュニティの心配	7	22
農協・金融期間・ATM	7	4
家に帰れるかどうか	5	2
土砂・がれきの心配	4	21
土地や家屋の権利などがわからない	4	3
住宅設備の心配	3	17
仕事がない	3	2
治安	1	10
学校等子どもの環境	0	13
その他	66	95

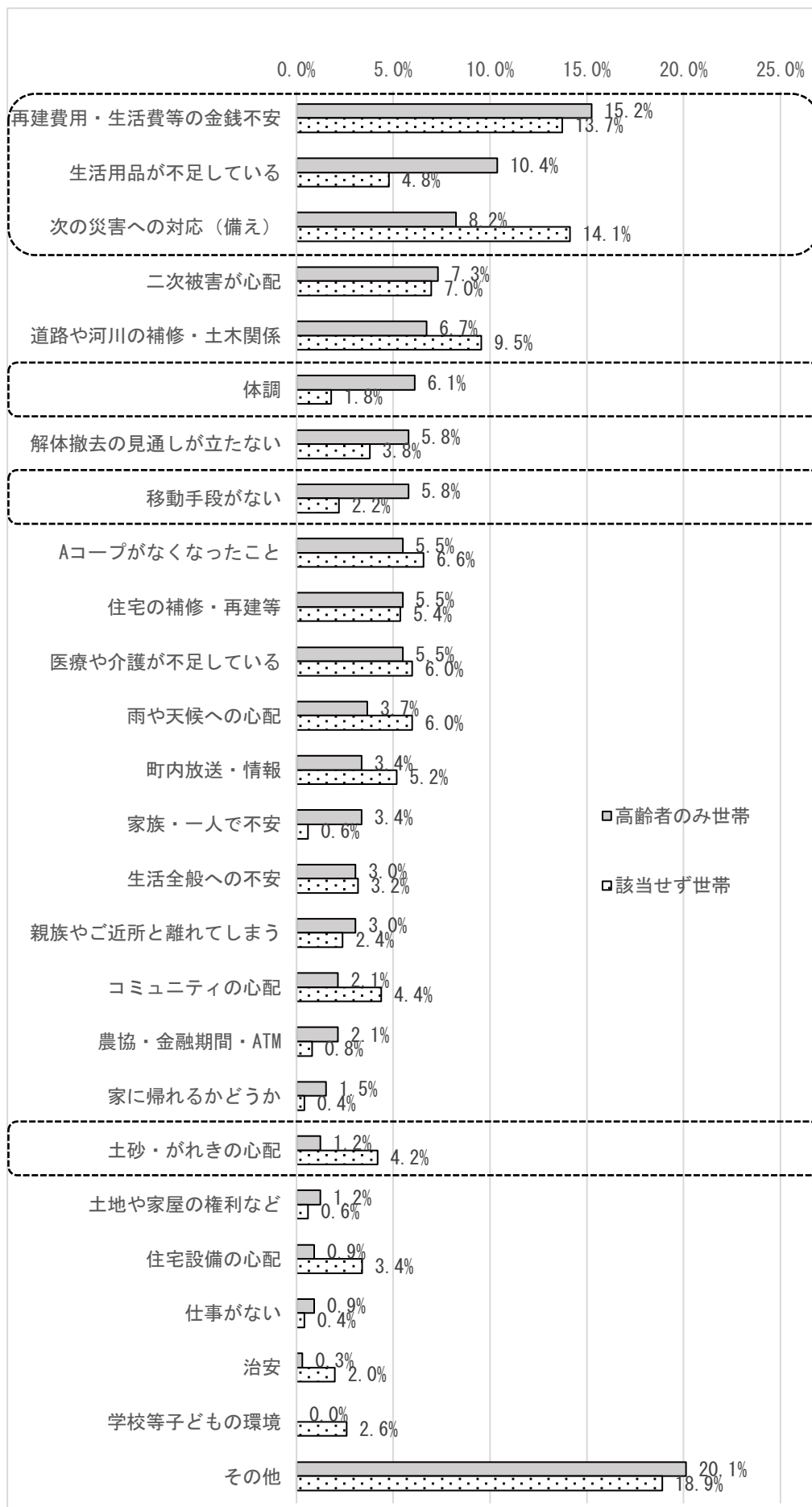


図 2-69 不安・心配事の世帯別の割合（複数回答）

第3章 地区別分析

小屋浦地区、坂地区、横浜地区（水尻、植田、鯛尾を含む）の3地区について被害状況と被害世帯の特性を分析した。なお、図表中の単位は記載のない限り「世帯」とした。なお、地区別分析においては坂地区の仮設住宅およびみなし仮設住宅居住者で元住所が小屋浦地区、横浜地区の場合、各地区に振り分けて集計している。そのため、有効調査回答数1,551件における小屋浦地区、坂地区、横浜地区の件数は図表3-1に示す内容となる。

表3-1 地区別分析における対象世帯数

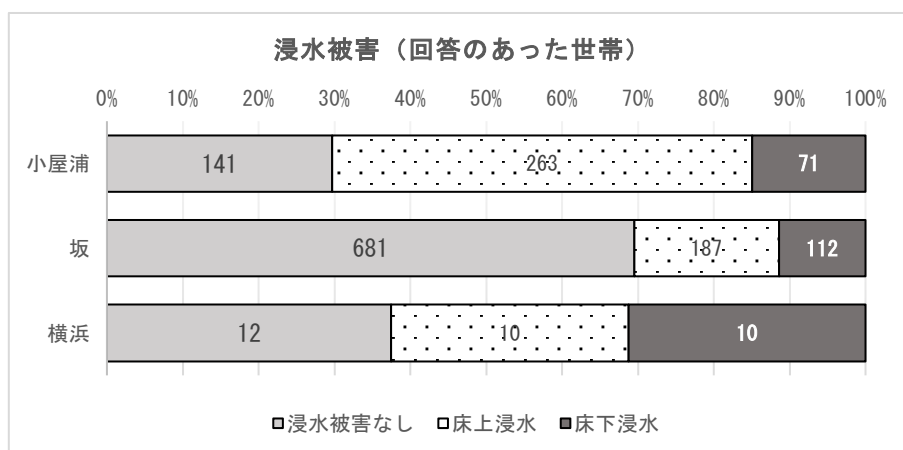
地区名	居住地ベースでの調査完了世帯数	元住所が異なる世帯数補正（仮設等居住世帯）	地区別分析における対象世帯数
小屋浦	446	42	488
坂	1,067	-52	1,015
横浜	38	10	48
合計	1,551	0	1,551

（1）被害状況

浸水被害、土砂被害、建物被害（罹災証明書発行状況）別の被害状況を明らかにするとともに、小屋浦地区と坂地区の被害状況の比較を行った。

1) 浸水被害

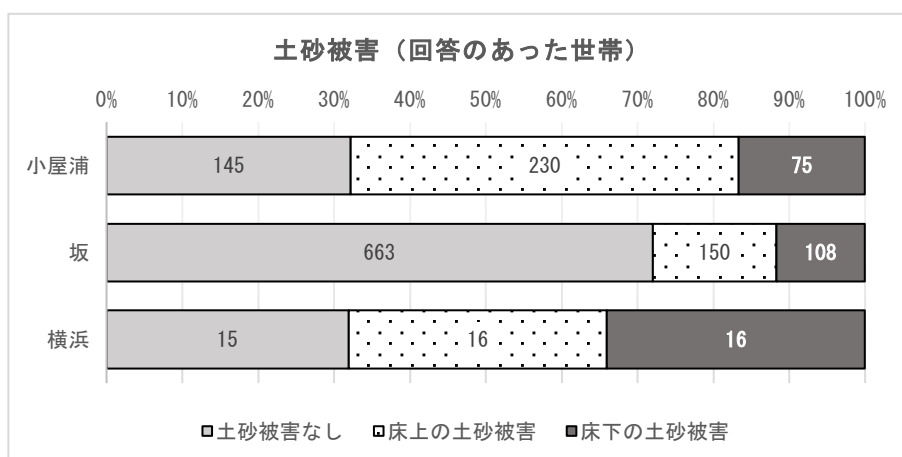
世帯数	小屋浦	坂	横浜
浸水被害なし	141	681	12
床上浸水	263	187	10
床下浸水	71	112	10
回答なし	13	35	16
合計	488	1015	48



図表3-2 地区別の浸水被害状況（世帯数）

2) 土砂被害

世帯数	小屋浦	坂	横浜
土砂被害なし	145	663	15
床上の土砂被害	230	150	16
床下の土砂被害	75	108	16
回答なし	38	94	1
合計	488	1015	48



図表 3-3 地区別の土砂被害状況（世帯数）

3) 建物被害（罹災証明書発行状況）

小屋浦地区の浸水及び土砂被害は、床上浸水が顕著に多かった。罹災証明書発行数にみる小屋浦地区の全壊、大規模半壊の認定数は、坂地区のおよそ3倍であった。一方、坂地区では半壊の世帯が半数強を占めた。

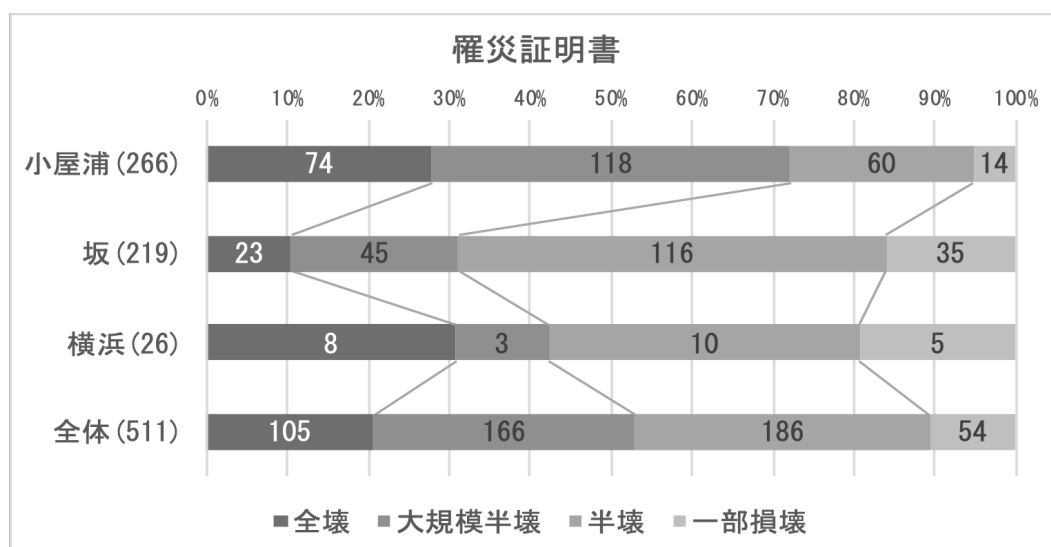


図 3-4 地区別・罹災規模別の罹災証明発行状況（世帯数）

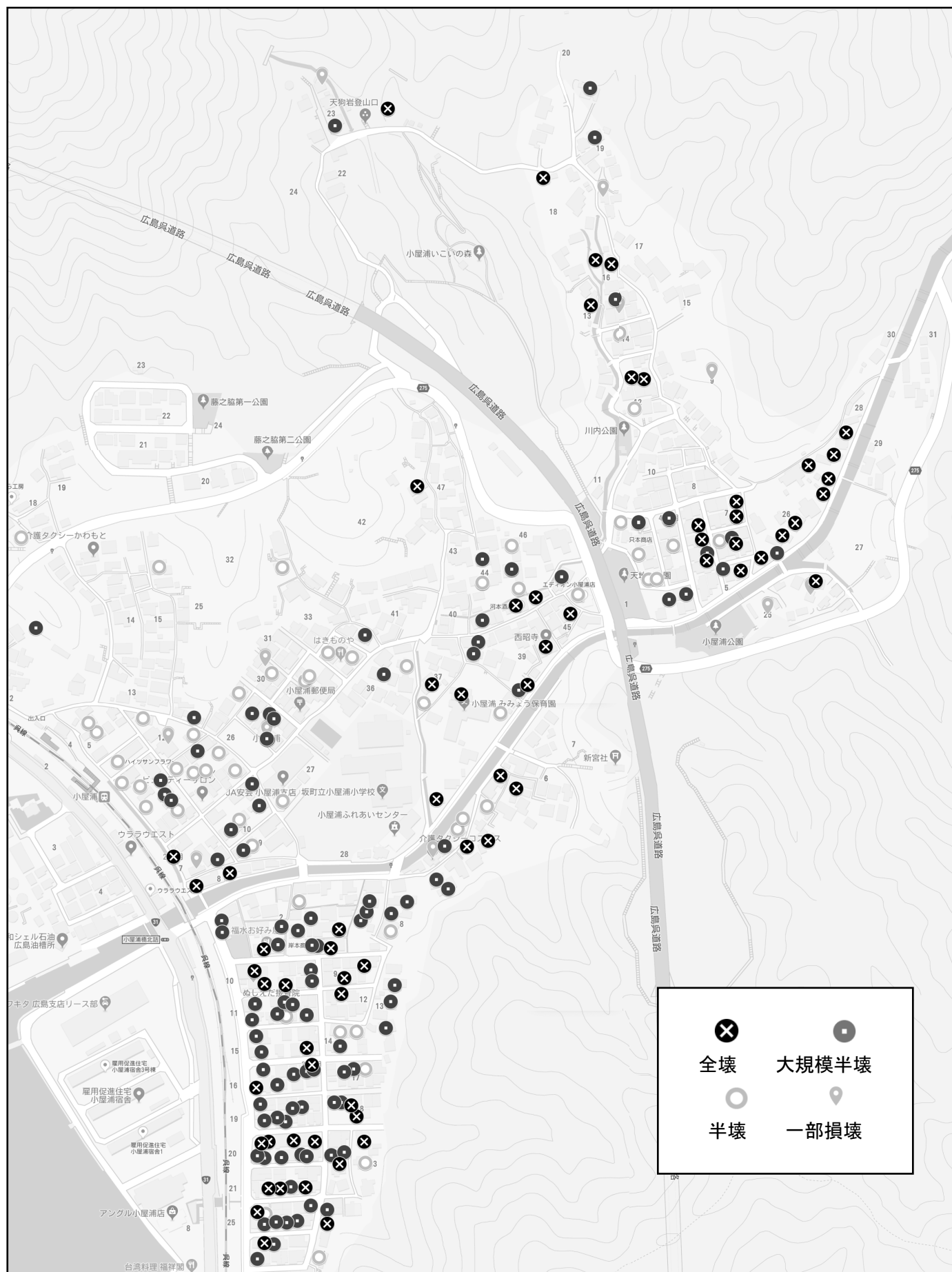


図 3-5 小屋浦地区の地図上での被災規模別罹災証明発行状況

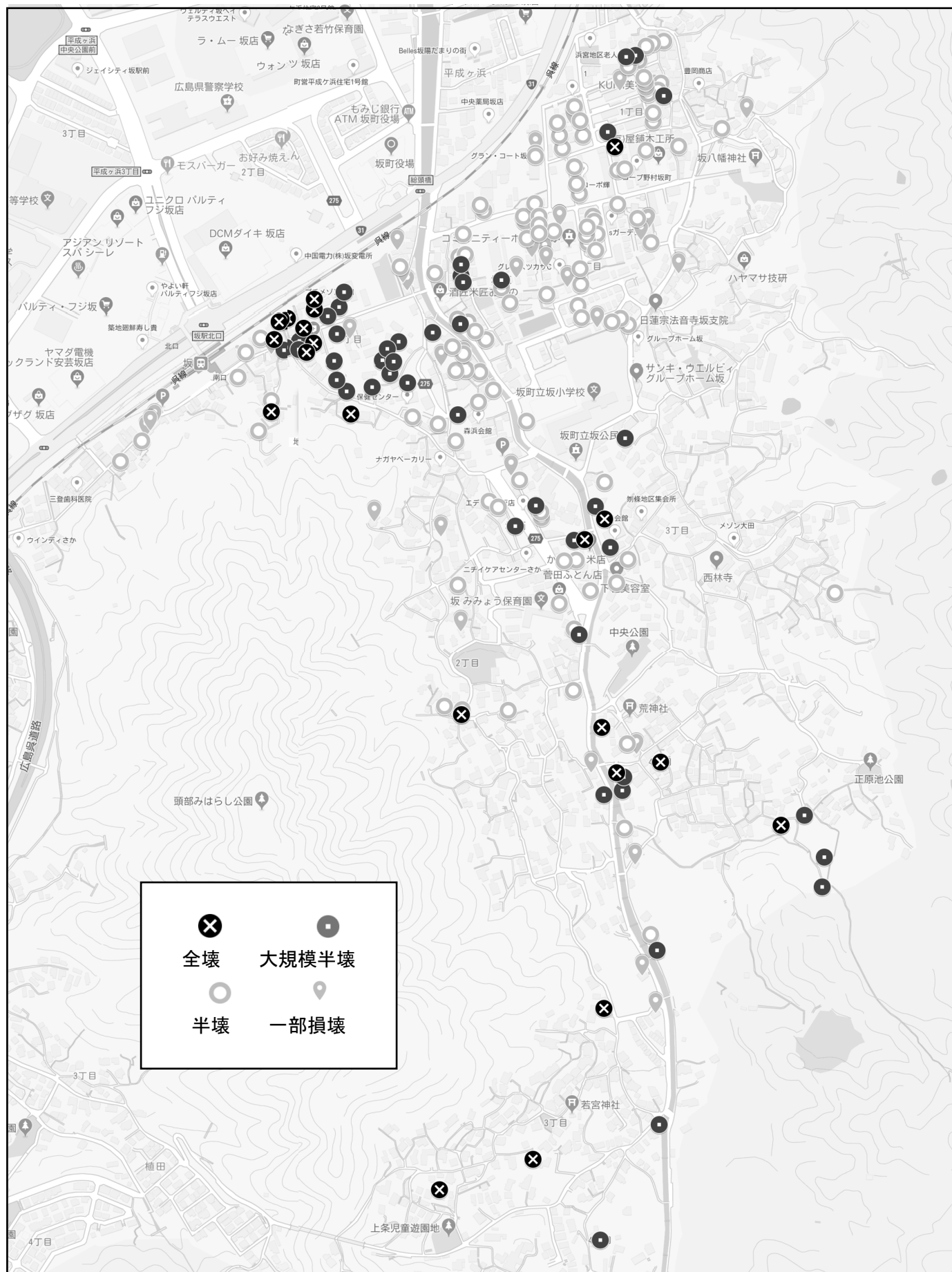


図 3-6 堺地区の地図上での被災規模別罹災証明発行状況

(2) 被災世帯の状況（高齢者のみ世帯）

特に配慮が必要であると想定される「高齢者のみ世帯」を中心として、被災世帯の状況を明らかにした。なお、分析は被災前の居住世帯を対象とし、仮設住宅等へ移転していた場合は元住所で分類した。なお、元住所について未回答若しくは不明等、調査結果から確認出来ない世帯があるため、必ずしも合計は単純集計合計と一致するものではない。

1) 高齢者のみ世帯比率

高齢者のみ1～3人世帯合計の比率は、小屋浦地区42%、坂地区36%、横浜地区53%であった。なお、横浜地区では、調査対象をあらかじめ特に配慮が必要な世帯に絞って実施した。

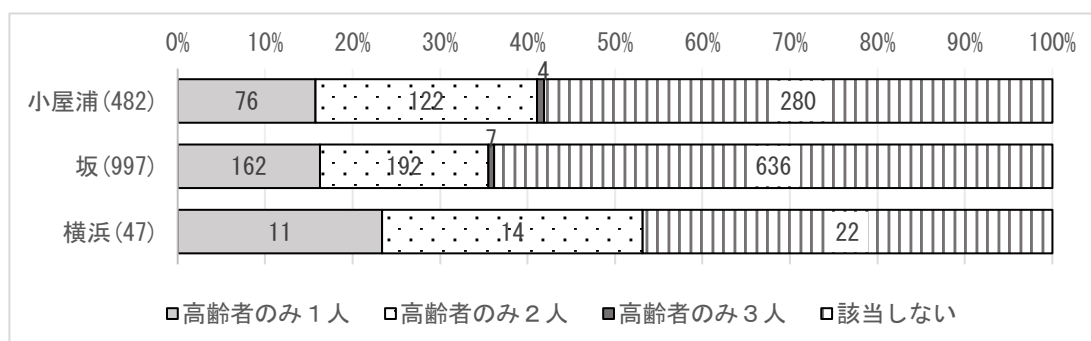


図3-7 地区別の高齢者のみ世帯の割合（世帯数）

2) 築年数

居住家屋の築年数について、1981年の建築基準法改正前後で分類した。改正前建築された「築37年より古い」世帯は、小屋浦地区60%、坂地区53%、横浜地区62%であり、いずれも半数以上であった。

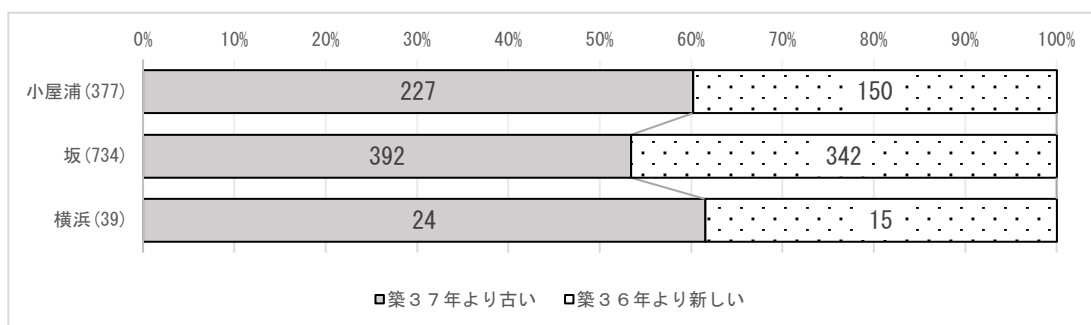


図3-8 地区別の築年数の割合（世帯数）

3) 高齢者のみ世帯と築年数

高齢者のみ世帯と築年数のクロス分析の結果、各地区とも、「築37年より古い」世帯のおよそ50%は高齢者のみ世帯であった。

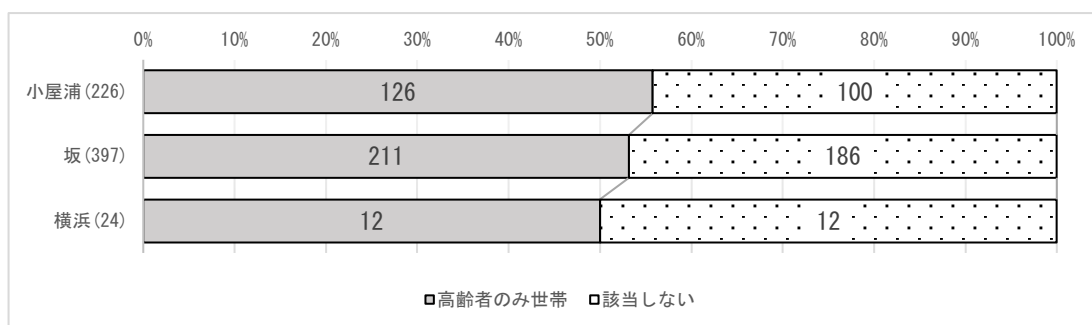


図3-9 築37年以上の世帯に占める地区別高齢者のみ世帯の割合（世帯数）

4) 高齢者のみ世帯と罹災証明書内容

高齢者のみ世帯と罹災証明書発行状況のクロス分析の結果、全壊と大規模半壊の合計における高齢者のみ世帯の割合は小屋浦地区48%、坂地区42%、横浜地区64%となり、「(2) 1) 高齢者のみ世帯比率」で示した全調査世帯中の比率（小屋浦地区42%、坂地区36%、横浜地区53%）以上に甚大な被害を受けた高齢者のみ世帯が存在する。

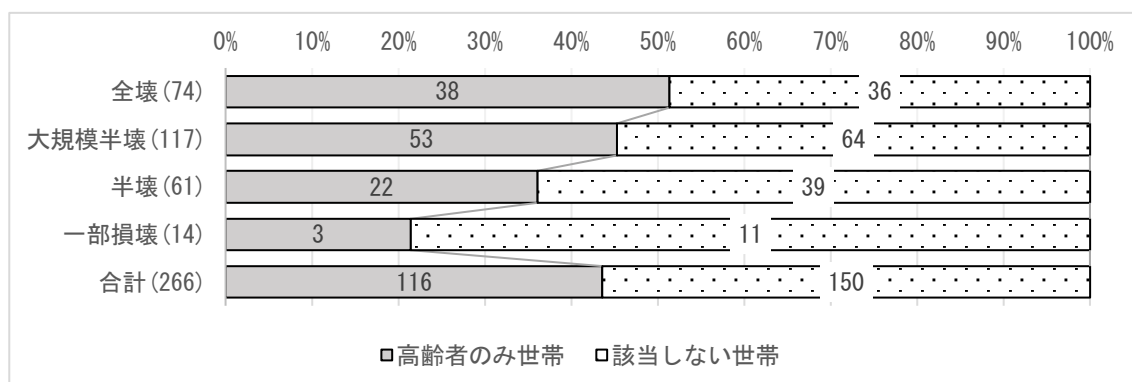


図3-10 小屋浦地区における罹災証明の被害規模別高齢者のみ世帯の割合（世帯数）

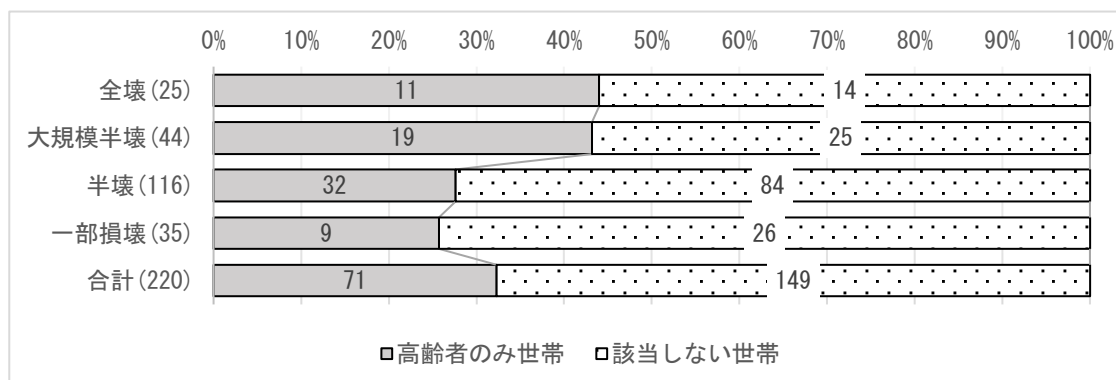


図3-11 坂地区における罹災証明の被害規模別高齢者のみ世帯の割合（世帯数）

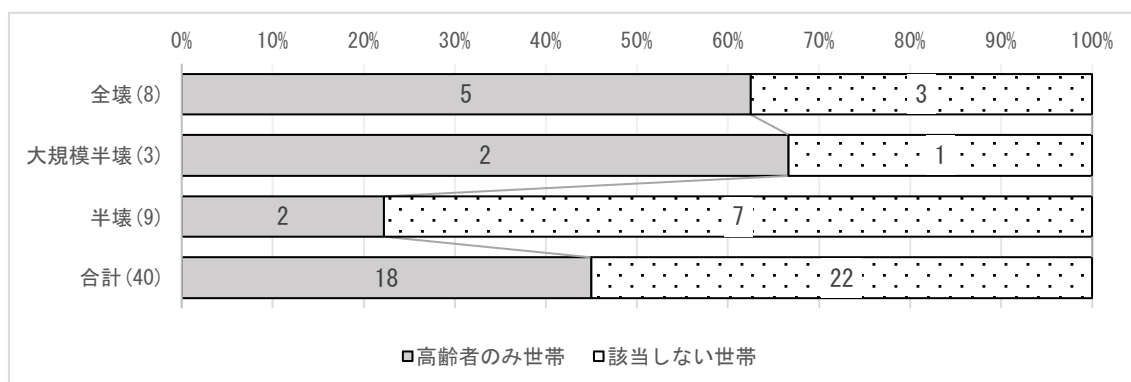


図 3-12 横浜地区における罹災証明の被害規模別高齢者のみ世帯の割合（世帯数）

5) 高齢者のみ世帯の現在の居所と罹災証明書発行状況

高齢者のみ世帯に対して現在の居所と罹災証明書発行状況のクロス分析を行った結果、全壊、大規模半壊にもかかわらず自宅に在住している高齢者のみ世帯が相当数（小屋浦地区 49%、坂地区 64%、横浜地区 43%）存在していた。

表 3-13 小屋浦地区における罹災証明の被害規模別高齢者のみ世帯の現在の居所

世帯数	自宅	避難所	仮設	みなし仮設	町有住宅	合計
全壊	14	2	14	3	4	37
大規模半壊	28	1	14	2	3	48
半壊	18	0	1	1	0	20
一部損壊	1	2	0	0	0	3
合計	61	5	29	6	7	108

表 3-14 坂地区における罹災証明の被害規模別高齢者のみ世帯の現在の居所

世帯数	自宅	避難所	仮設	みなし仮設	町有住宅	合計
全壊	7	0	3	1	0	11
大規模半壊	11	0	6	2	0	19
半壊	28	0	4	0	0	32
一部損壊	9	0	0	0	0	9
合計	55	0	11	3	0	69

表 3-15 横浜地区における罹災証明の被害規模別高齢者のみ世帯の現在の居所

世帯数	自宅	避難所	仮設	みなし仮設	町有住宅	合計
全壊	2	0	2	1	0	5
大規模半壊	1	0	0	1	0	2
半壊	1	0	2	0	0	3
一部損壊	3	0	1	0	0	4
合計	7	0	5	2	0	14

(3) 今後の居住の見通し

今後の居住地及び生活の見通しについて、罹災証明書発行状況と、居住希望及び就労収入の有無による経済的な見通しのクロス分析を行った。

1) 罹災証明と居住地希望

小屋浦地区ではおよそ半数が「災害前と同じ地区」での居住を望んでおり、「町内の別の地区」が40%強を占めていた。一方、坂地区では全壊を除き、90%以上が「災害前と同じ地区」での居住を希望していた。

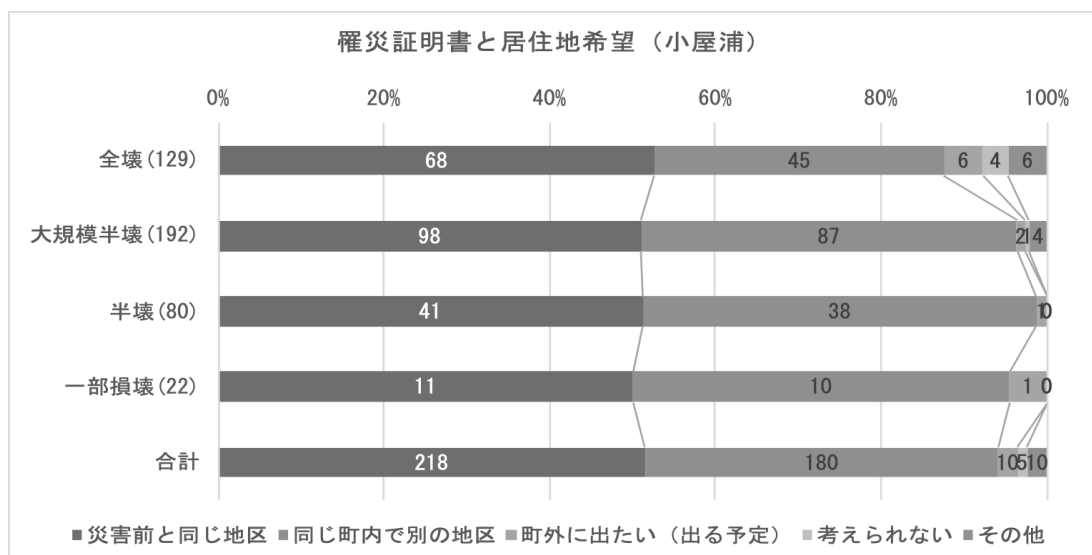


図3-16 小屋浦地区における罹災証明の被害規模と今後の居所の見通し（世帯数）

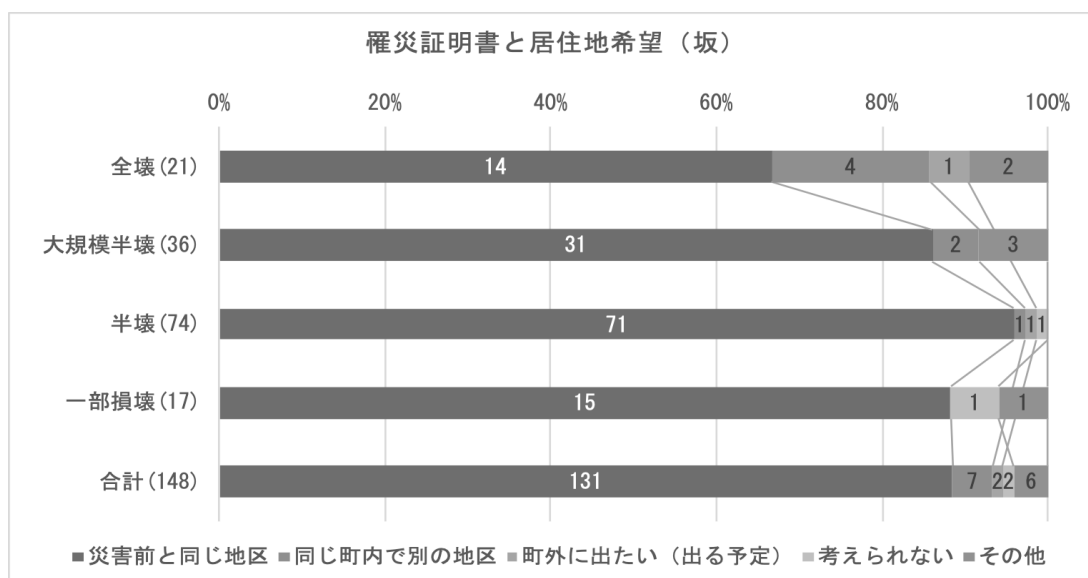


図3-17 坂浦地区における罹災証明の被害規模と今後の居所の見通し（世帯数）

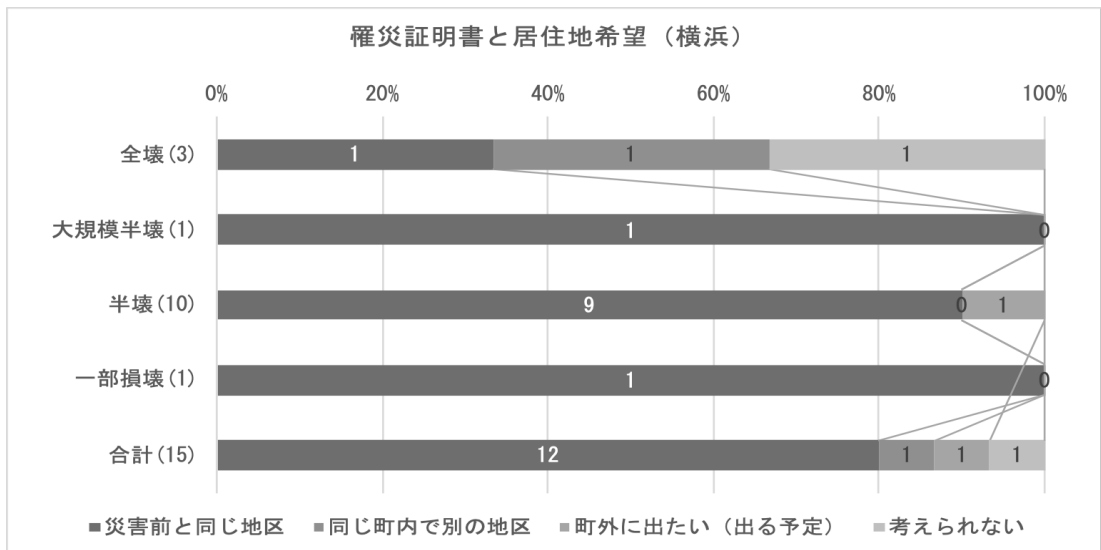


図 3-18 横浜地区における罹災証明の被害規模と今後の居所の見通し（世帯数）

2) 罹災証明発行状況と就労収入

各地域での家屋の損壊状況と就労収入との関係は、「（１）４高齢者のみ世帯と罹災証明書内容」とほぼ合致しており、就労収入のない高齢者のみ世帯が、全壊及び大規模半壊において大きな比率を占めている。図表 3-22 に示すように、就労収入なし世帯において、小屋浦地区では 77%、坂地区では 69%が高齢者のみ世帯であった。

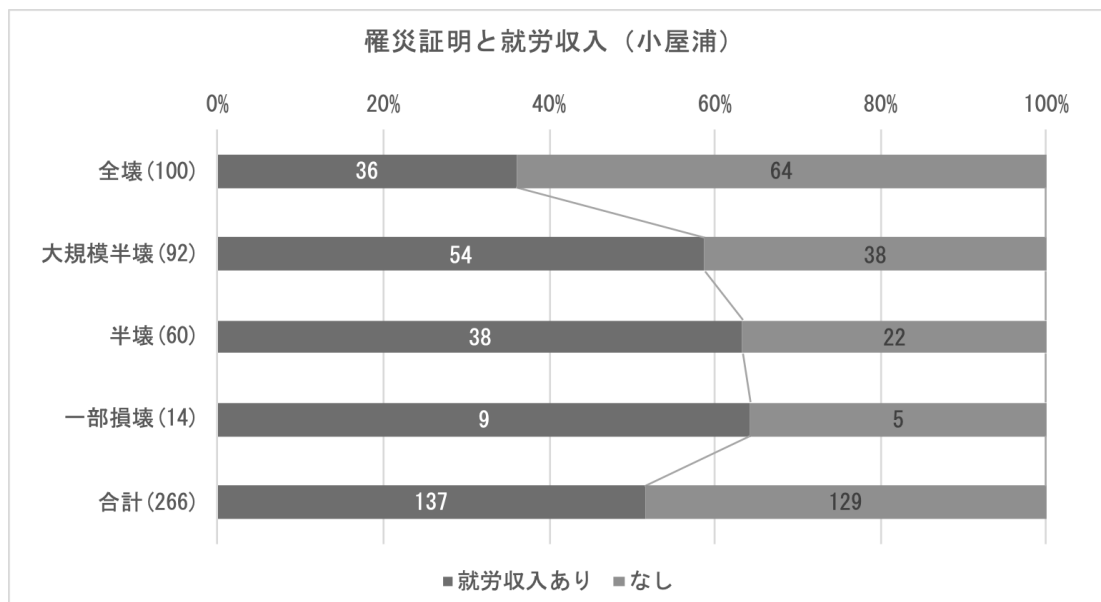


図 3-19 小屋浦地区における罹災証明の被害規模と就労収入の有無（世帯数）

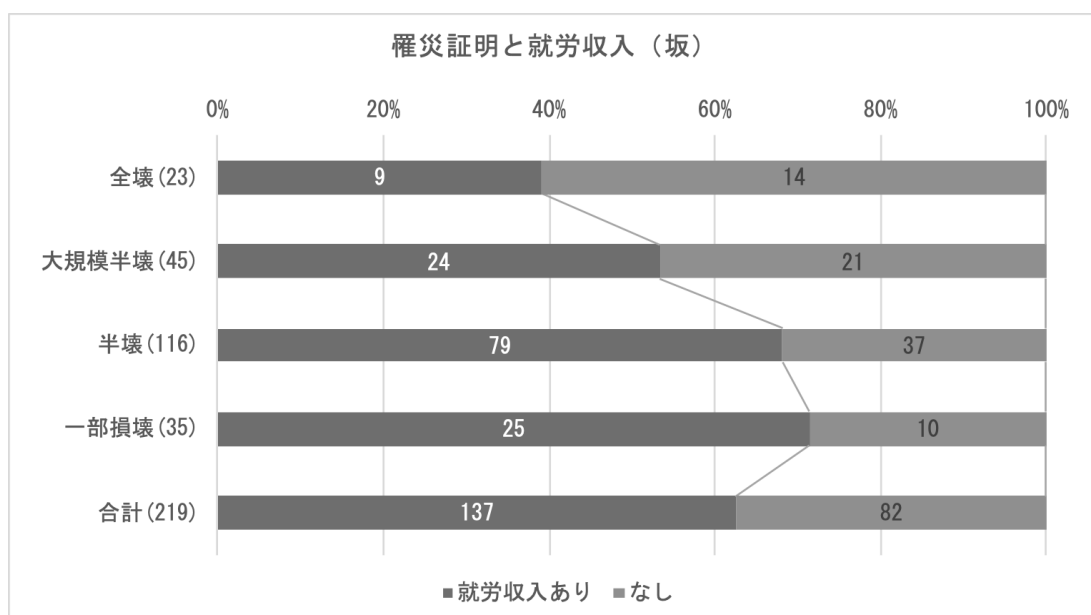


図 3-20 坂地区における罹災証明の被害規模と就労収入の有無（世帯数）

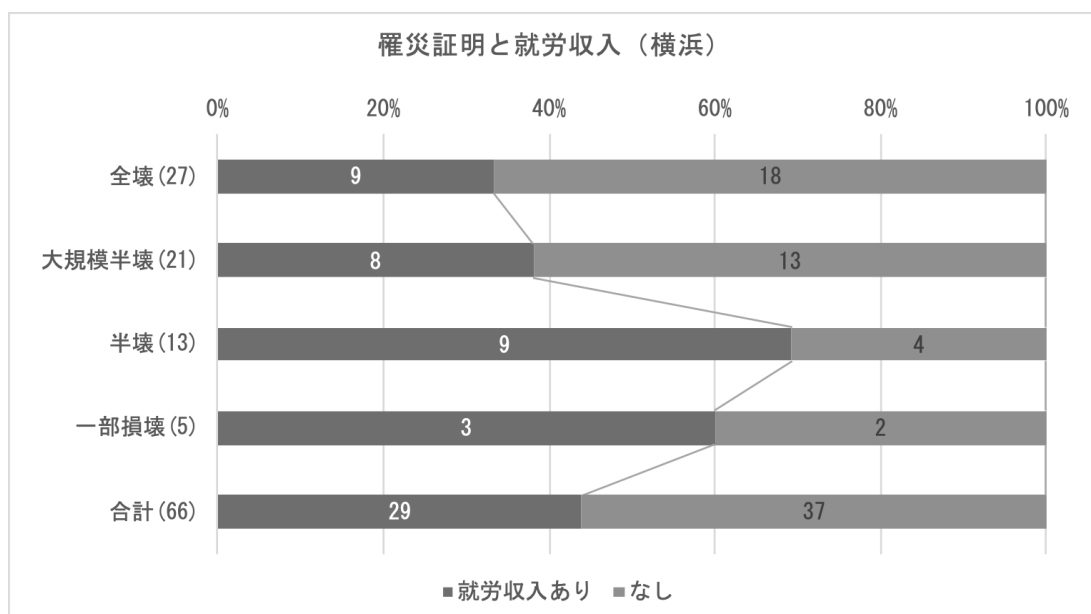


図 3-21 横浜地区における罹災証明の被害規模と就労収入の有無（世帯数）

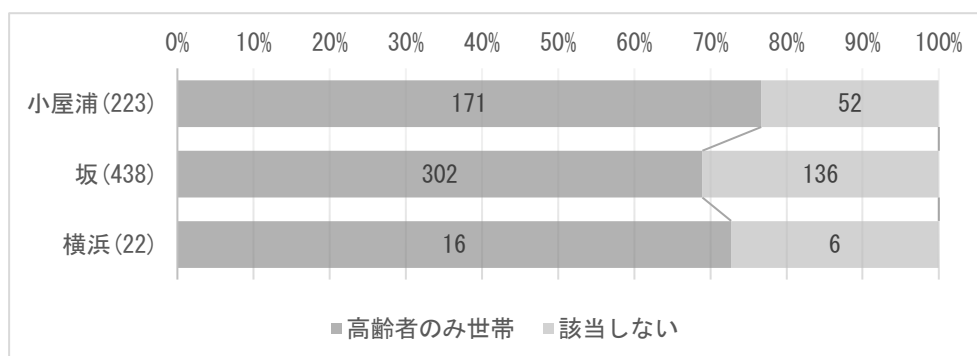


図 3-22 就労収入なしに占める高齢者のみ世帯の地区別割合（世帯数）

3) 建て替え・補修

小屋浦地区、坂地区ではほぼ半数が「建替・補修をしたい」「建替・補修可能」という回答結果であった。一方、「建て替え・補修をしたいが、課題あり」は小屋浦地区 30%、坂地区 23%、横浜地区 29%であり、これらの世帯については生活再建に向けて課題解決に向けた支援が必要である。

また、半壊以上の被害があるが、「建て替え・補修しない」と回答し、自宅に居住している世帯が、小屋浦地区で 22 世帯、坂地区で 28 世帯あった。今後の災害等で二次被害が発生することも想定され、「建て替え・補修しない」世帯に対する再度の意向調査と住居に関する適切な支援が求められる。

表 3-23 小屋浦地区における罹災証明の被害規模別建て替え・補修の意向

世帯数	したい、可能	したい、課題あり	しない	合計
全壊	35	15	19	69
大規模半壊	59	41	8	108
半壊	29	13	11	53
一部損壊	7	3	4	14
合計	130	72	42	244

表 3-24 坂地区における罹災証明の被害規模別建て替え・補修の意向

世帯数	したい、可能	したい、課題あり	しない	合計
全壊	6	8	15	29
大規模半壊	21	14	7	42
半壊	60	17	18	95
一部損壊	9	5	9	23
合計	96	44	49	189

表 3-25 横浜地区における罹災証明の被害規模別建て替え・補修の意向

世帯数	したい、可能	したい、課題あり	しない	合計
全壊	3	3	0	6
大規模半壊	3	1	1	5
半壊	4	3	2	9
一部損壊	0	0	4	4
合計	10	7	7	24

(4) まとめ

上記の地区別分析より判明したことは、次のア〜カのとおりである。

- (ア) 高齢者のみ世帯は老朽化した家屋に居住している傾向が強く、築 37 年より古い家屋に暮らす世帯のおよそ半数が高齢者のみ世帯という状況の中で平成 30 年 7 月豪雨の被害を受けた（（2）3））。
- (イ) その結果、全壊または大規模半壊世帯のおよそ 3 分の 1 が、築 37 年より古い家屋に暮らす高齢者のみ世帯となった（（2）4））。
- (ウ) 高齢者のみ世帯中、全壊、大規模半壊で自宅に在住している世帯の比率は小屋浦地区 49%、坂地区 64%、横浜地区 43%であり、生活上の不便・困難の発生が懸念される（（2）5））。
- (エ) また今後、新たな自然災害が発生した場合、被害の拡大も懸念され、見守り支援の強化と共に、居所の安全性に対しても十分な配慮が必要である。
- (オ) 今後の居住地希望については、災害前と同じ地区希望世帯の比率が坂地区で特に高く、小屋浦地区でも半数が同じ地区での居住を希望している（（3）1））。
- (カ) 建て替え・補修等で課題のある世帯の比率が小屋浦地区で高く、就労収入なし世帯の比率も半数と高いことから、経済的に建て替え・補修が難しい世帯が多い（（3）3））。

第4章 災害ケースマネジメントによる分類

災害ケースマネジメントは、2005年に発生し甚大な被害を及ぼしたハリケーン・カトリーナの被災者に対し、連邦緊急事態管理庁（FEMA）が民間支援団体と協力して展開した一連の被災者支援プログラムが始まりとされる。ハリケーン・カトリーナでは、NPO等との連携を図りながら一人ひとりの被災者に寄り添い、生活状況を的確に把握し、それぞれの被災者に応じた生活再建の計画を立て、様々な支援を組み合わせ、生活再建に向けたプログラムが実行された。

日本においては、東日本大震災や熊本地震での被災者生活再建において、災害ケースマネジメントを導入した例がある。

災害ケースマネジメントは、被災者一人ひとりに応じた個別の生活再建計画を立てると同時に、どのような支援がどの程度必要になるかを把握することで、的確な支援メニューを備えて組み合わせたり、支援拠点に求められる機能を高めることが可能となる。仙台市で実施された「被災者生活再建加速プログラム」では、「住まいの再建実現性」と「日常生活自立性」の2つの評価軸から、被災世帯进行分类している。（表4-1）

「生活再建可能世帯」は、住まいの再建方針や再建時期が決まっており、日常生活に特に大きな問題がない世帯である。「住まいの再建支援世帯」は、住まいの再建方針や再建時期が決まっていなかったり、健康面の不安は少ないものの金銭や就労等に課題がある世帯である。「日常生活支援世帯」は、資金面や住宅再建への不安は少ないものの、健康面での支援が必要な世帯である。「日常生活・住まいの再建支援世帯」は、住まいの再建について課題があり、日常生活においても支援が必要な世帯である。

本調査では、聞き取りが完了した1,551世帯について調査結果を数値化することにより、災害ケースマネジメントによる世帯分類を試みた。

（1）災害ケースマネジメントによる判定方法

聞き取り完了世帯について災害ケースマネジメントの判定及び分類を行うため、判定要素、評価軸、判定基準を設定した。

1) 判定要素の設定

災害ケースマネジメントの判定を行うため、A～Gの分析要素を設定した。これらの分析要素に該当する調査項目に対し、減点方式で基本軸となる「住まいの再建実現性」「日常生活自立性」について、各世帯のポイントを算出した。

A：住まいの再建方針・再建時期の不安定さ

家屋の被害状況や建替補修の意向、現在の居所と今後の見通し等について、0から最大-34ポイントで評価した。

B：健康面での不安要素

医療機器等の利用状況や発災後の体調、食事や通院・治療、服薬等の状況について、0から最大-19ポイントで評価した。

C：コミュニティに関する不安要素

被災によるコミュニティからの分離や再編、人間関係等に関する状況について、0 から最大-8 ポイントで評価した。

D：介護等の再構築、継続の必要度

日常的な介護の必要度、被災による必要性の増加等の状況について、0 から最大-14 ポイントで評価した。

E：生活困難、支援者の不在

日常生活の困窮や困難、支援者の有無について、0 から最大-25 ポイントで評価した。

F：金銭的な困窮度

日常生活や生活再建、住宅再建における金銭に関する不安や困窮、困難について、0 から最大-12 ポイントで評価した。

G：就労支援の必要度

求職状況や就労希望について、0 から最大-3 ポイントで評価した。

H：その他困難

A～G に分類されないその他の困難や専門知識を要する事項について、0 から-10 ポイントで評価した。

2) 評価軸の設定

聞き取り時点の世帯の状況の評価するにあたり、判定要素 A～G を「住まいの再建実現性」と「日常生活自立性」に分類し、評価軸とした。（表 4-1）

縦軸に「住まいの再建実現性」、横軸に「日常生活自立性」を置き、それぞれの評価軸毎の評価数値の座標をとることで、各世帯を「生活再建可能世帯」「住まいの再建支援世帯」「日常生活支援世帯」「日常生活・住まいの再建支援世帯」に分類した。（図 4-2）

表 4-1 災害ケースマネジメントにおける判定要素と評価軸の関係

評価軸	判定要素
住まいの再建実現性	<住まいの方針に関する事項> A：住まいの再建方針・再建時期の不安定さ <金銭や就労に関する事項> F：金銭的な困窮度 G：就労支援の必要度
日常生活自立性	<健康に関する事項> B：健康面での不安要素 D：介護等の再構築、継続の必要度 <生活に関する事項> C：コミュニティに関する不安要素 E：生活困難、支援者の不在

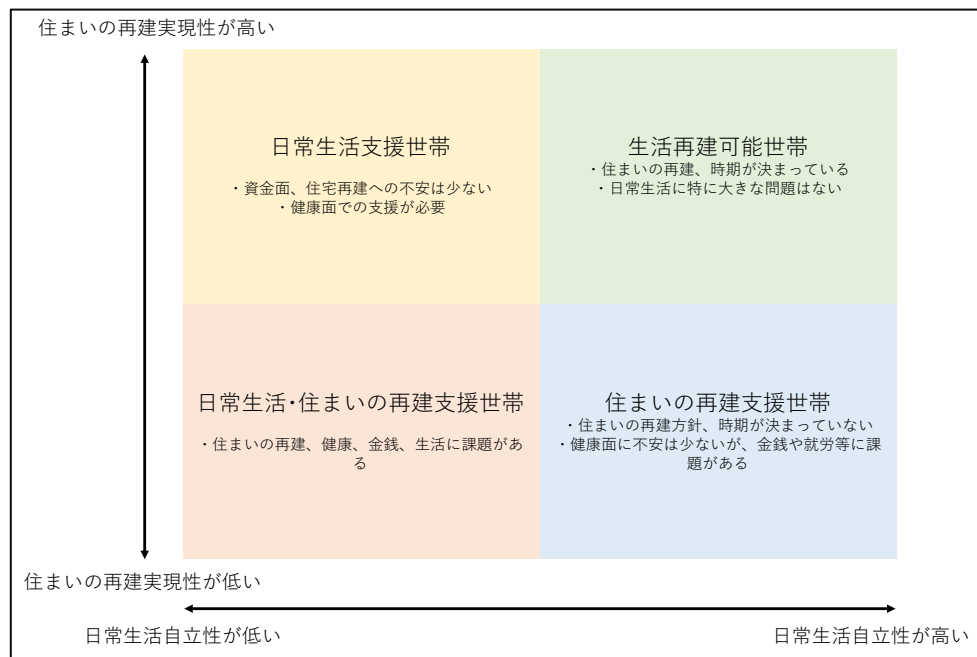


図 4-2 住まいの再建と生活再建の 2 軸で分類した災害ケースマネジメントの概念

3) 評価基準の設定

「住まいの再建実現性」や「日常生活自立性」が高いか低いかの判定は、①評価ポイントの累計による判定 ②特記項目による判定 のいずれかによるものとした。(表 4-3)

表 4-3 評価ポイントの累計による判定及び特記項目による判定基準

	住まいの再建実現性	日常生活自立性
① 評価ポイントの累計による判定	評価ポイントの累計が-9 ポイントを下回る場合「住まいの再建実現性が低い」	評価ポイントの累計が-9 ポイントを下回る場合「日常生活自立性が低い」
② 特記事項による判定	一定程度の住宅被害があり、金銭不安が大きいと推定される場合、「住まいの再建実現性が低い」と判定する。 <条件> 罹災証明大規模半壊以上の世帯で、次の条件に該当する。 ア) 高齢者のみ世帯 ・就労による収入がない イ) ア)以外の世帯 ・求職している ・仕事がない ・持ち家で住宅ローンがある ・再建費用や生活費が足りない	被災後の日常生活を送る上で、不安要素が非常に大きいと考えられる場合、「日常生活自立性が低い」と判定する。 <条件> 健康面や生活の維持やコミュニティとの関係に課題があると思われる世帯。 ア) 要配慮者がいる世帯 調査員所見において「見守りの必要性が高い」と判断 イ) 高齢者のみ世帯 ・今後の居住について考えられない ・食事に困難あり ・買い物に困難あり ・情報の入手が不十分

4) 聞き取り完了世帯への判定実施

判定要素によるポイントの評価及び判定基準に基づき、聞き取り完了世帯の状態について判定を実施した。

④の世帯では、住まいの再建実現性の評価は-2、日常生活自立性の評価は-3 となり、世帯判定は「生活再建可能世帯」に分類される。⑤の世帯では、住まいの再建実現性の評価は-9、日常生活自立性の評価は0 となり、「住まいの再建支援世帯」に分類される。⑥の世帯では、住まいの再建実現性の評価は-3、日常生活自立性の評価は-10 となり、「日常生活支援世帯」に分類される。⑦の世帯では、住まいの再建実現性の評価は-10、日常生活自立性の評価は-7 であるが「見守りの必要性が高い」との調査員所感があるため、日常生活自立性は低いと評価され、「日常生活・住まいの再建支援世帯」に分類される。

各世帯に対し2 軸による評価があるため、どの座標にプロットされるかの違いにより、同じ世帯分類であってもおおその状態の違いを知ることができる。

表 4-4 聞き取り完了世帯への判定実施の世帯事例

		④	⑤	⑥	⑦
世帯の状況		乳幼児がいる世帯。両親は共に就労している。家屋の被害状況は一部損壊。何とか補修は出来そうだが、安全面への不安から、町外転出を考えている。天候が悪いと子どもが不安定になる。	自宅は大規模半壊で家屋の複数箇所被害がある。就労しているが再建費用が足りない。家族に要配慮者はおらず、健康状態は良好。	老夫婦二人暮らし。夫要介護。家屋は一部損壊。年金生活だが修復可能。車を失い移動に制限あり。A コープが閉店したため、食品等の購入に不自由しており、食事内容に変化あり。発災直後は心身に不調。生活用品が流されて不足している。ネットは使えず情報は不足気味。	70 歳独り暮らし。自宅は大規模半壊、現在仮設住宅入居。年金生活を送っており、仮設住宅以降の見通しはない。サービス利用はないが介護認定を受けている。発災直後は心身に不調だった。支援情報は難しくよくわからず、地区の人と離れ寂しい。発災以降、あまり人と話していない。(見守りの必要性が高い)
住まいの再建実現性	住まいの方針に関する評価	一部損壊 (-2)	大規模半壊 (-4) 再建費用不足 (-1) 複数箇所被害 (-2) 見通し不安 (-1)	一部損壊 (-2)	大規模半壊 (-4) 複数箇所被害 (-2) 見通し不安 (-1)
	金銭や就労に関する評価	評価ポイントなし	再建費用不足 (-1)	年金生活 (-1)	年金生活 (-1) 仮設住宅入居 (-2)
日常生活自立性	健康に関する評価	乳幼児がいる世帯 (-1) 子どもが不安 (-1)	評価ポイントなし	高齢者がいる世帯 (-1) 要介護 (-1) 食事に変化 (-1) 心身不調 (-2)	高齢者がいる世帯 (-1) 要介護 (-1) 心身不調 (-2)
	生活に関する評価	町外転出 (-1)	評価ポイントなし	高齢者のみ世帯 (-1) 移動制限 (-1) 買い物困難 (-1) 生活用品不足 (-1) 情報不足 (-1)	高齢者のみ世帯 (-1) コミュニティ分離 (-1) 情報不足 (-1)
住まいの再建実現性の評価		-2	-9	-3	-10
日常生活自立性の評価		-3	0	-10	-7 特記事項判定
世帯判定		生活再建可能世帯	住まいの再建支援世帯	日常生活支援世帯	日常生活・住まいの再建支援世帯

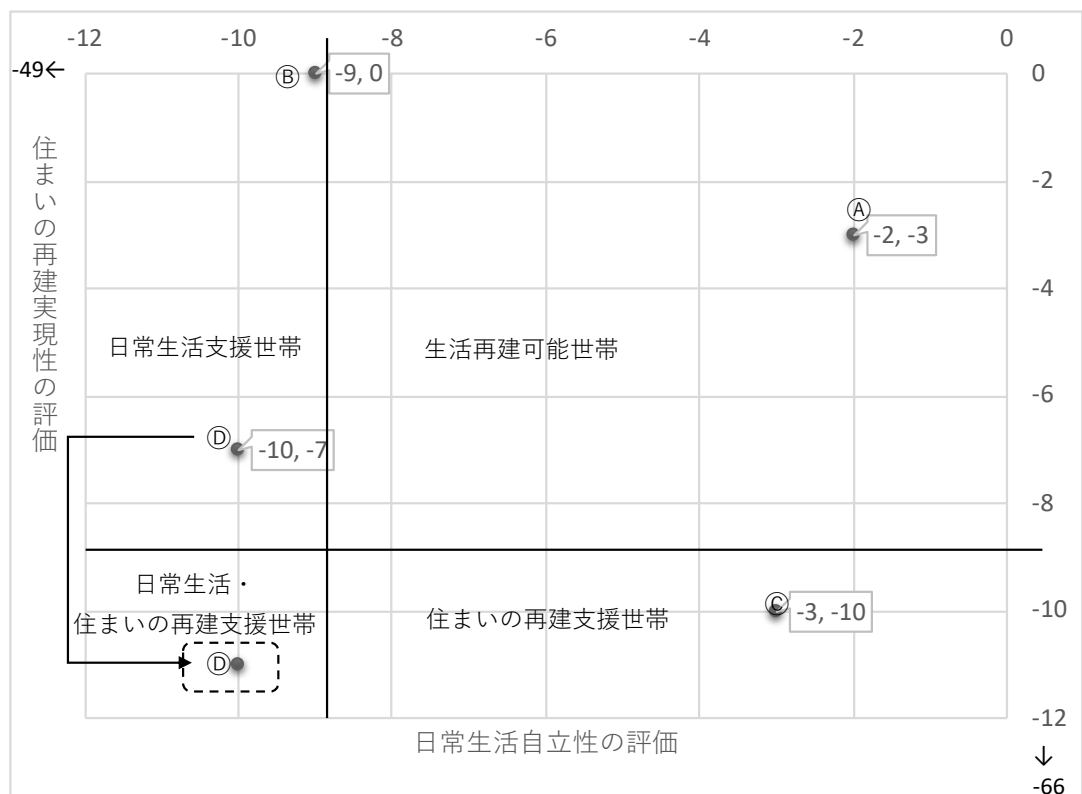


図 4-5 聞き取り完了世帯の判定結果

（２） 災害ケースマネジメントによる判定結果

聞き取りを完了した 1,551 世帯について、災害ケースマネジメントによる判定を行ったところ、「生活再建可能世帯」952 世帯（61.4%）、「住まいの再建支援世帯」242 世帯（15.6%）、「日常生活支援世帯」186 世帯（12.0%）、「日常生活・住まいの再建支援世帯」171 世帯（11.0%）であった。（表 4-6、図 4-7）

小屋浦地区は「生活再建可能世帯」の割合が 3 地区の中で最も低く、6 割以上の世帯が何らかの支援を要する世帯であるという判定結果となった。

「住まいの再建支援世帯」「日常生活・住まいの再建支援世帯」では、小屋浦地区と坂地区それぞれにおける割合は異なるものの、世帯数はほぼ同数である。横浜地区は、調査対象世帯を個別に抽出しているため、世帯比率について他地区との比較は行わない。

表 4-6 災害ケースマネジメントによる判定結果（世帯数及び割合）

	全体	小屋浦地区	坂地区	横浜地区
対象世帯数	1,551 世帯	446 世帯	1,067 世帯	38 世帯
生活再建可能世帯	952 世帯	166 世帯	765 世帯	21 世帯
	61.4%	37.2%	71.7%	55.3%
住まいの再建支援世帯	242 世帯	119 世帯	113 世帯	10 世帯
	15.6%	26.7%	10.6%	26.3%
日常生活支援世帯	186 世帯	78 世帯	104 世帯	4 世帯
	12.0%	17.5%	9.7%	10.5%
日常生活・住まいの再建支援世帯	171 世帯	83 世帯	85 世帯	3 世帯
	11.0%	18.6%	8.0%	7.9%

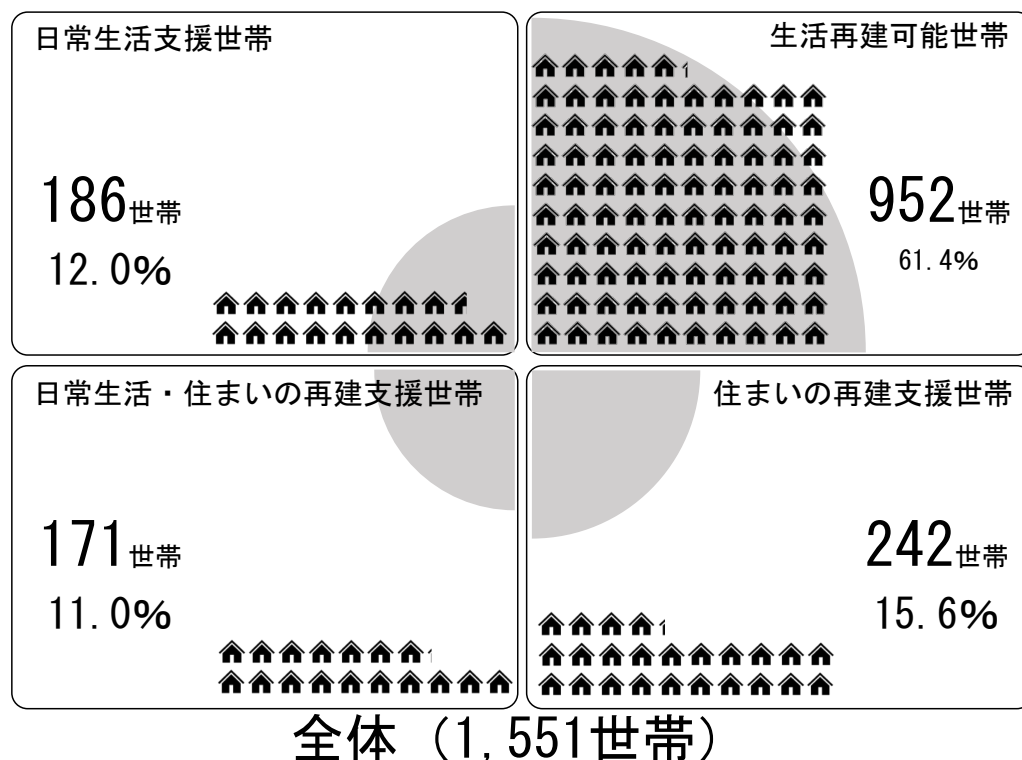


図 4-7-1 聞き取り完了世帯全体の判定結果（世帯数と割合）

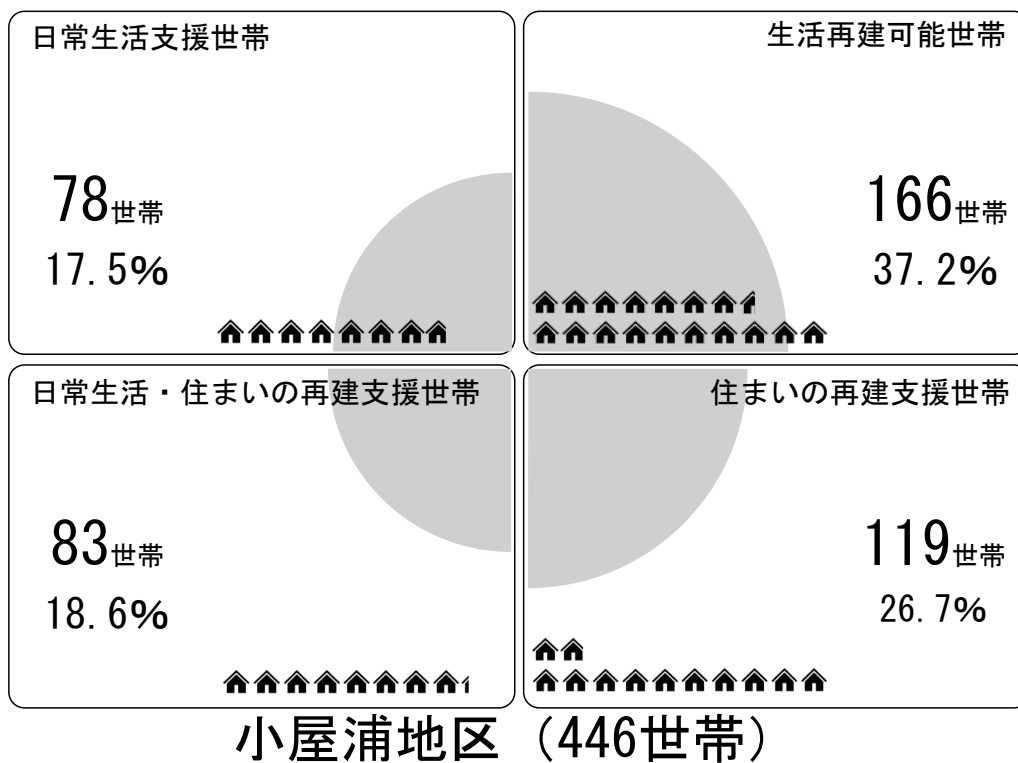


図 4-7-2 小屋浦地区の判定結果（世帯数と割合）

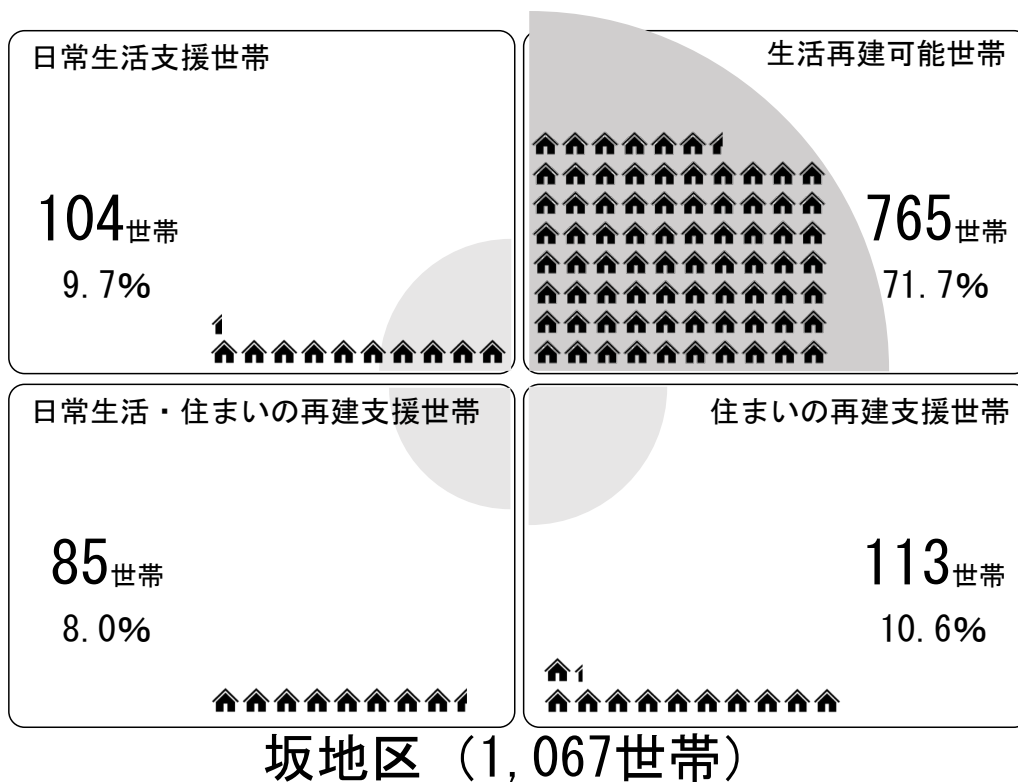


図 4-7-3 坂地区の判定結果（世帯数と割合）

（３） 仙台市及び熊本市の災害ケースマネジメントとの比較

東日本大震災において、仙台市は「被災者生活再建加速プログラム」を策定し、被災世帯を「生活再建可能世帯」「日常生活支援世帯」「住まいの再建支援世帯」「日常生活・住まいの再建支援世帯」に分類し、様々な支援を世帯に応じて組み合わせ、支援策を展開した。仙台市の取り組みは、熊本地震において、熊本市の支援施策に継承されている。仙台市、熊本市、坂町の災害ケースマネジメントによる世帯分類結果の比較を行った。（表 4-8）

ただし、3 自治体の世帯分類の方法や判定基準は同一ではなく、それぞれの調査時期も異なることに留意する必要がある。また、仙台市は、仮設住宅入居者を中心に調査を実施し、熊本市は、プレハブ仮設、公営住宅、みなし仮設住宅入居者を対象とし、延べ 7,430 世帯を訪問し、3,714 世帯の聞き取りによる分類である。

調査時期や手法の違いに留意した上で、それぞれの結果を比較したところ、以下の傾向が見られた。

① 生活再建可能世帯

仙台市の調査時期が、熊本市や坂町よりも遅いことを加味すると、おおよそ 6 割程度が生活再建可能世帯である。

② 住まいの再建支援世帯

「住まいの再建支援世帯」は、仙台市、熊本市よりも、坂町が少なくなっているが、住まいについて支援が必要な世帯は、「日常生活・住まいの再建支援世帯」にも含まれており、「住まいの再建支援世帯」と「日常生活・住まいの再建支援世帯」を合わせた割合は、仙台市 27.7%、熊本市 30.4%、坂町 26.6%である。

仙台市、熊本市は、地震による被害であるのに対し、坂町は豪雨による被害であり、被害が特定のエリアに集中しているため、全体としての「住まいの再建支援世帯」の割合が低くなったと考えられる。

③ 日常生活支援世帯

「日常生活支援世帯」は、仙台市、熊本市と比べ、坂町での割合が突出して高くなっている。日常生活に支援が必要な世帯は、「日常生活・住まいの再建支援世帯」にも含まれており、合計した割合は、仙台市 9.2%、熊本市 15.5%、坂町 23.0%となり、坂町の割合は更に高くなる。発災前の高齢化率を見ると、仙台市が 19%（2010 年国勢調査）、熊本市が 21%（2010 年国勢調査）であるのに対し、坂町は 28.1%（2015 年国勢調査）であり、発災前から日常生活に支援が必要な世帯が多かったことが推察される。

④ 日常生活・住まいの再建支援世帯

前述の通り、坂町の「日常生活・住まいの再建支援世帯」の割合は、仙台市、熊本市よりも高い割合である。仙台市は、発災から約 3 年後の集計値であるため、その間に支援を受け、状態が改善されたため、割合が低くなったとも考えられるが、熊本市との比較では、明らかに坂町の方が高い割合となっており、必要とされる様々な支援の総量は、熊本市よりも多くなると推察される。

表 4-8 災害ケースマネジメントによる世帯分類の比較

	仙台市 (※1) 2014 年 3 月 1 日時点 (発災から約 3 年後)	熊本市 (※2) 2016 年 11 月 15 日現在 (発災から 7 ヶ月後)	坂町 2018 年 9 月～10 月時点 (発災から約 3 ヶ月後)
生活再建可能世帯	66.0%	62.6%	61.4%
	5,686 世帯	2,326 世帯	952 世帯
住まいの再建 支援世帯	24.8%	21.9%	15.6%
	2,133 世帯	812 世帯	242 世帯
日常生活支援世帯	6.3%	7.0%	12.0%
	540 世帯	261 世帯	186 世帯
日常生活・住まいの 再建支援世帯	2.9%	8.5%	11.0%
	251 世帯	315 世帯	171 世帯

※1 東日本大震災仙台市復興五年記録誌より

※2自治総研通巻 467 号 (2017 年 9 月号)「熊本地震における応急仮設住宅等と地域支え合いセンターの現状と課題」伊藤久雄

(4) 災害ケースマネジメントを軸とした施策例

熊本市は、災害ケースマネジメントによる分類による生活再建支援と住宅支援を実施している。
以下に熊本市の記録から、実施された支援策を取りまとめる。

表 4-9 熊本市における災害ケースマネジメントを軸とした支援策のまとめ

生活再建支援		
1	生活再建に向けた各種調査	・ 被災者台帳に基づくアンケート調査
2	応急仮設住宅等入居者への生活再建支援	・ 看護師による戸別訪問調査と結果の管理・分析 ・ 応急仮設住宅入居者の支援 熊本市社協に応急仮設住宅入居者の見守り・集会所等管理業務を委託 ・ 応急仮設住宅での自治組織の設立 ・ 市幹部職員による訪問・意見聴取
3	みなし仮設住宅・市営住宅等入居者の支援	・ 地域支え合いセンターの設置、被災者支援 熊本市社協相談員又は看護師による見守りを並行して実施 ・ 「みまもり基準」「見守り基準」「見守り頻度」等を策定
4	庁内推進体制	・ 熊本市仮設住宅入居者くらし再建会議（支援策の検討） ・ 区仮設住宅入居者くらし再建連絡調整 会議（事業企画・課題整理） ・ 区仮設住宅入居者個別支援会議（支援方針の検討）
災害公営住宅・住宅再建		
1	災害公営住宅の必要戸数等の調査	・ 戸別訪問・公営住宅への入居意向調査アンケート
2	災害公営住宅整備方針	・ 調査結果、コミュニティ維持、バリアフリー等から、ストック分に加え 150 戸の新規整備を決定
3	被災宅地の復旧	・ 被害状況、現地確認等の各種調査 ・ 公共事業（自治体施行・所有者施行）復旧 ・ 復旧方式復興基金による被災宅地の復旧支援（所有者施行）

「平成 28 年熊本地震熊本市震災記録誌」よりダイバーシティ研究所作成

熊本市は応急仮設住宅入居者を支援対象の中心としたことに対し、坂町では被災家屋で生活をしている住民が相当数いることが本調査で判明しており、これらの被災者への支援が重要になる。坂町では、発災から早い時点で保健師による巡回が行われ、本調査による聞き取り調査結果に基づき、速やかに戸別訪問が行われたため、見守りの必要性の高く、緊急を要する世帯の発見は概ね完了している。今後は、被災地区におけるコミュニティ再生や福祉サービスを含めた生活再建支援を進めていく必要がある。

また、本調査では、砂防ダムや河川等のインフラ整備に対する要請が多く聞かれており、住宅再建の方針を決定するための重要なファクターとなっていることから、安全性確保のための対策や計画が非常に重要と考えられる。

参考：災害ケースマネジメントによる自治体施策

- ・ 「仙台市被災者生活再建推進プログラム」（仙台市、平成 26 年 3 月）
<https://www.city.sendai.jp/kenko-jigyosuishin/shise/daishinsai/fukko/sekatsu/documents/honpen.pdf>
- ・ 「平成 28 年熊本地震 熊本市震災記録誌 ～復旧・復興に向けて～ 発災からの 1 年間の記録」（熊本市、2018 年 4 月 2 日）
http://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/detail.aspx?c_id=5&type=top&id=18725

5 提言

本調査の結果を踏まえ、今後の被災者の生活再建に必要な施策について次の通り提言する。

(1) 「坂町地域支え合いセンター」による災害ケースマネジメントの実施

被災世帯の生活再建や住まいの再建の道のりは、それぞれの世帯の状態により大きく異なる。このたび坂町が広島県と連携して設置する「坂町地域支え合いセンター」では、従来の家屋の滅却状況にのみ着目して支援を行う被災者支援の枠を越え、日常生活の支援なども総合的に視野に入れた「災害ケースマネジメント」を導入し、世帯の状況に応じた支援を行うことが望ましい。

本調査で得られた世帯情報をもとに、ケースマネジメントの考え方に沿った世帯分類毎に基本的な支援方針について、以下の通り整理する。（全体像は図 5-1 の通り）

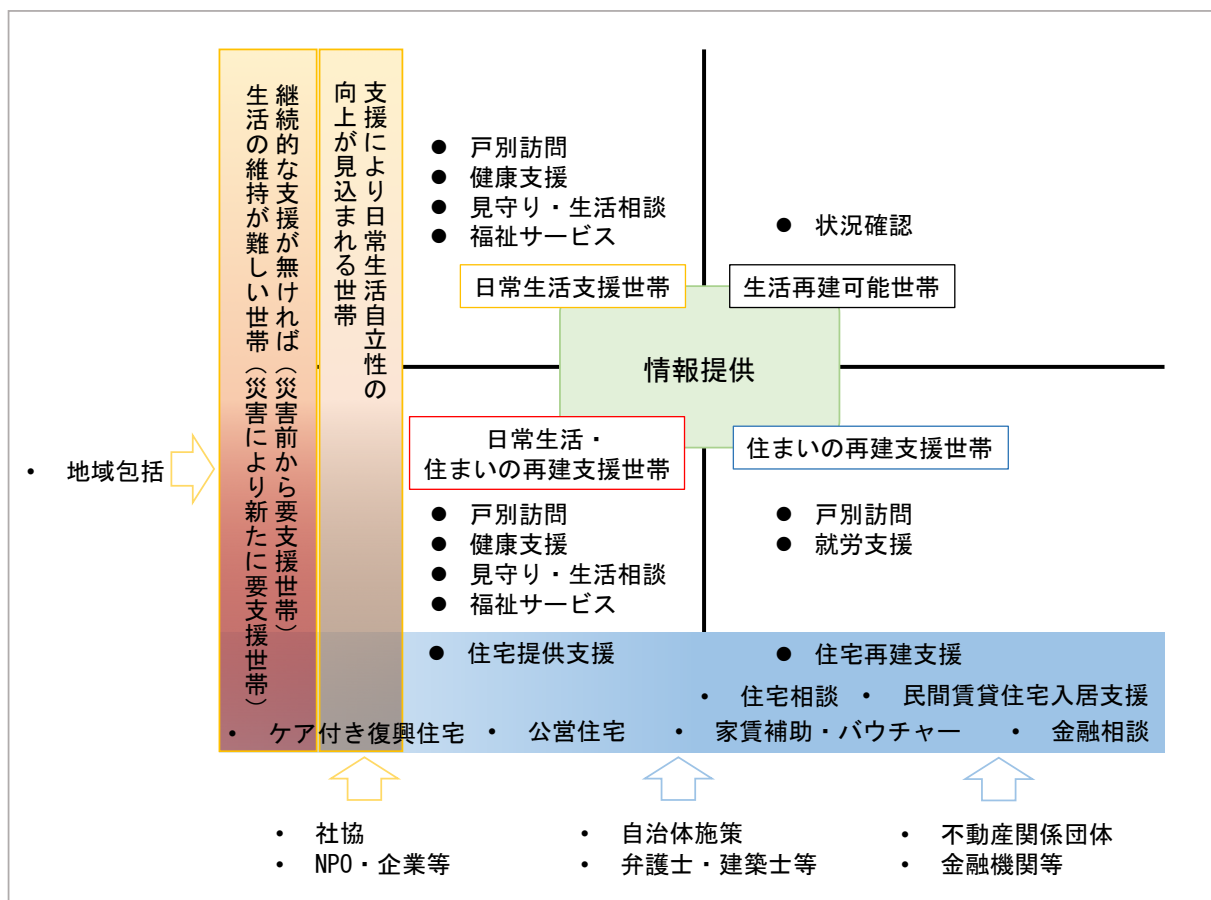


図 5-1 災害ケースマネジメント世帯分類と基本的な支援方針（ダイバーシティ研究所作成）

1) 「生活再建可能世帯」に対する基本的な支援

「生活再建可能世帯」は、災害前の生活が維持できている、若しくは自力での再建可能性が高い世帯であるため、個別に手厚い支援策を必要とするものではないが、生活状況や周辺環境の変化に伴い、世帯情報にマイナスの変化が生じてないか、アンケートや訪問調査等を通して継続的に確認したり、地域の復興に関する情報など、基本的な情報提供は継続して行う必要がある。

2) 「住まいの再建支援世帯」に対する基本的な支援

「住まいの再建支援世帯」は、地域の復興や住宅再建に関する基本的な情報提供に加え、世帯の状況に応じた具体的な支援策を提供することも必要である。戸別訪問により住まいの再建実現性の高低の度合いや理由を確認し、住宅提供に関する情報や、住宅資金に関する情報を届けるとともに、説明会や個別相談会の実施による世帯毎の丁寧な支援を行うことが有効である。

3) 「日常生活支援世帯」に対する基本的な支援

「日常生活支援世帯」は、世帯の状況に沿った日常生活の状況を確認し、必要な支援を提供することが重要である。戸別訪問により健康状態や生活状況を確認し、状況に応じた福祉サービスへの接続や見守り、生活相談などを実施する。情報提供は、紙面での提供などにとどまらず、相談員による説明会や世帯毎の個別相談会など、双方向でコミュニケーションできる場を持つことが重要である。

4) 「日常生活・住まいの再建支援世帯」に対する基本的な支援

「日常生活・住まいの再建支援世帯」は、日常生活と住宅再建の両方で支援が必要な世帯であり、最も手厚い支援が必要となる。「日常生活支援世帯」も含め、日常生活に支援を必要とする世帯は、「支援により日常生活自立性の向上が見込まれる世帯」と「継続的な支援がなければ生活の維持が難しい世帯」に大別されるが、後者はさらに、災害前からの要支援世帯と、災害により新たに要支援になった世帯がある。災害により新たに要支援となった世帯には、戸別訪問によりその後の状況の変化などを丁寧に把握し、世帯の状況に合わせた支援を組み合わせたケースマネジメントにより、坂町地域包括支援センターや福祉機関との連携しながら、日常生活の自立性を向上させることを促していく必要がある。

また住まいの再建に関しては、日常生活の自立性が低くなるのと比例して、必要とされる住宅支援も多くなる。すまいの情報提供に留まらず、例えば多機能型の支援付き住宅の提供など、具体的な「次の住まいの確保」のための施策が必要となる。

表 5-2 個別支援策の主な対象と留意点

支援の種類	主な対象	留意点
情報提供	生活再建可能世帯 住まいの再建支援世帯 日常生活支援世帯 日常生活・住まいの再建支援世帯	世帯により活用している情報源が大きく異なるため、情報過疎が生じないよう、対象に応じた多様な媒体や手法を活用する
戸別訪問	住まいの再建支援世帯 日常生活支援世帯 日常生活・住まいの再建支援世帯	被害状況、生活状況、住宅再建状況等、世帯の状況に合わせ訪問の頻度を設定し、世帯の状況についての情報をアップデートする
状況確認	生活再建可能世帯	全戸訪問が困難な場合、アンケートや調査などを活用し、地域全体の状況を確認する
健康支援	日常生活支援世帯 日常生活・住まいの再建支援世帯	健康相談や戸別訪問時の聞き取りなどにより健康支援を実施する。バイタルデータチェックや行動確認等に AI や IT を活用し、健康状態の変化を効率的且つスピーディに把握する。 ¹
見守り・生活相談	日常生活支援世帯 日常生活・住まいの再建支援世帯	世帯の状況に応じた頻度で、対面での見守りを実施するとともに、相談や談話の場を設定し被災者が戸外にでる機会を創出する。
福祉サービス	日常生活支援世帯 日常生活・住まいの再建支援世帯	災害やその後の変化により新たに要支援世帯になるケースもあるため、地域包括センター等と連携を取りながら、必要な支援を行う。
就労支援	住まいの再建支援世帯 日常生活・住まいの再建支援世帯	就労を希望する世帯には、ハローワーク等と連携した就労支援を進める

¹ 参考： 長野県小谷村「ネスカフェコネクトによる見守り」<https://kaden.watch.impress.co.jp/docs/news/1079260.html>

(2) 住まいの再建に向けた総合的な施策の実施

住まいの再建に向けた支援は、個別の住宅再建への支援に加え、地域全体の防災や安全対策を並行して行い、世帯毎の住まい再建の実現性や日常生活の自立性を勘案した総合的かつ体系的な支援策を提供する必要がある。

① 地域全体の安全対策の推進

罹災証明を申請していない世帯では90%以上、罹災証明取得世帯でも80%以上が、災害前と同じ地区での居住を希望しているが、同時に、地域の地形や災害対策への安全性、二次被害への不安の声も多く出ており（表2-68）、地域全体の早期の安全対策が必要である。地域の防災や安全対策の方針について、繰り返し丁寧な説明を継続し、被災前の地区に戻りたい住民が安心を感じられる環境を整える必要がある。

また「避難所となる場所が危険で避難出来ない」「避難指示が聞こえず、気付いたときには避難出来なかった」「家族に要配慮者がいるため動けなかった」等の意見もあり（表図2-17）、災害時に被害を拡大しないための避難指示のあり方や、避難経路の見直し等も急がれる。

② 民間賃貸住宅への入居支援

仮設住宅やみなし仮設住宅に入居する世帯が民間の賃貸住宅に移る場合、新たに家賃が発生し、家計の変動によって生活状態が悪化する可能性がある。こうした事態を防ぐため、バウチャー等を利用した家賃支援策の検討が望まれる。

③ 公営住宅への入居支援

高齢者のみ世帯には転居のめどが立たず、町営住宅への継続入居や、仮設住宅から公営住宅への転居を希望する世帯が多く見られる（表2-54）。移転の目処が立たない理由は、高齢者のみ世帯、該当しない世帯ともに、費用面での課題が大きく（表2-51）、住宅の再建や家賃負担が難しくいために、公営住宅への入居を希望していると考えられる。公営住宅は戸数に限りがあることから、公営住宅へ優先的に入居させる世帯と、民間賃貸住宅への入居を促す世帯とに分類し、世帯の状況に応じた対応を行う必要がある。

④ 住まいの資金に関する施策

「全壊」世帯の64%、「大規模半壊」世帯の88%が引き続き同じ地区の居住を望んでいるが、このうち、89世帯で就労収入がない。これらの世帯には建築士等による住宅診断や相談会、住宅ローン等の資金の相談会を開催するとともに、災害リバースモーゲージ²などを活用した住宅再建の資金に関する施策も必要と考えられる。

² 熊本県リバースモーゲージ利子助成事業 (https://www.pref.kumamoto.jp/kiji_21374.html)

⑤ 「多機能型」災害公営住宅の提供

「全壊」「大規模半壊」の全 273 世帯のうち、高齢者のみの世帯は 75 世帯、27.4%を占める。このうち、小屋浦地区では 77%、坂地区では 69%が就労収入がない高齢者のみ世帯となっている。家屋の被害が大きいうえ就労収入がない高齢者のみ世帯では、住宅再建が極めて厳しいうえ、時間の経過とともに福祉サービスの必要度も増す。

また、店舗や金融機関が被災したことで、移動や通院、服薬、買い物、食事などに支障をきたし、行動範囲が狭くなり日常生活のレベルが低下している世帯もある。遠方まで自由に移動することが困難な高齢者であっても、一定の行動範囲の中で、買い物や医療・福祉、入居後の見守り等、生活に必要なサービスにアクセス可能な環境を作ること、日常生活のレベルの改善や維持につながると考えられることから、災害復興公営住宅はただ単に住まいを提供するだけでなく、日常生活の改善・維持を可能とする機能を組み込んだ「多機能型」であることが望ましい。

過去の大規模災害の事例でも、時間の経過とともに、災害公営住宅の入居者は高齢化などで体力が低下したり、入居者による自治が困難になるなど、さまざまな変化が生じる。そのため、災害公営住宅の建設にあたっては、公共施設マネジメントの観点からも現在の被災した世帯だけを視野に入れるのではなく、将来の他の用途での利用や被災者以外の新たな世帯の入居や利用を想定し、誰もが長く暮らしやすい施設としていく視点も必要である。

(3) 日常生活の再建に向けた支援施策

日常生活の再建に向けた支援は、健康や生活の維持の確保とともに、生活の質全般の向上につながる支援を行うことが望ましい。

⑥ コミュニティの再生支援

住民が仮設住宅等に移動したことで空き家や更地が増え、地区の様子は災害前と大きく変化している。地区内のささえあいの形も変化しており、坂町地域支え合いセンターの相談員による巡回活動などを活用し、住民が集うサロン活動や自治会などコミュニティ活動の再開に向けた支援が望まれる。また、学生ボランティアや企業による復興支援活動など外部支援を組み込むことで、コミュニティ再生の加速が期待できる。

参考事例

- 「とうほく復興データプロジェクト TOHOKU INDEX 2015」
http://www.sanaburifund.org/shien/download/Sanaburi_Tohoku-data_index2015.pdf
事務局:公益財団法人地域創造基金さなぶり
- 「宮城県地域コミュニティ再生支援事業」
<http://miyagi-commu.jp/guideline/>
- 「復興公営住宅等の住民自治組織立ち上げの支援方法について」(2015年7月21日)
東京大学・大槌町仮設まちづくり支援チーム
http://www.jst.go.jp/ristex/pdf/korei/JST_1115090_11102768_okata_ER3.pdf
- 「地域づくりコーディネート事業」
<https://www.city.ishinomaki.lg.jp/cont/10153000/3635/20180313171051.html>

⑦ 住民による新たな自治活動への支援

仮設住宅団地での住民による新たな自治組織の立ち上げを支援し、集会所でのサロン活動や声かけ、コミュニティ活動等を促すことも重要である。仮設住宅団地内でのコミュニティ活動は、特に単身入居者に起こりやすい孤立や孤独死発生の危険を回避することや、次の生活への意欲を高める効果がある。

⑧ いきがい・しごとづくりへの支援

被災者は災害発生から「支援される」立場に置かれることが多く、主体的に自らの生活を描いていく機会を喪失しがちである。過去の大規模災害でも、仮設住宅の住民が集会所に集まって簡単な手仕事を行って収入を得たり、花壇の整備や草刈りなどの仕事を自ら行うことでいきがいを感じたりする効果が確認されている。「就労」までは行かないが、多少のこづかいを手にするができる程度の収入が得られるような活動を支援し、被災者が「いきがい」や「しごと」を見つけていくための環境を整えることも期待したい。

(4) 復興推進体制について

復興への取り組みは長期にわたり、加えて庁内横断的な取り組みが必要となる。また、職能団体やNPO等の外部組織との連携も必要になるため、切れ目のない支援をタイムリーかつ長期にわたり継続的に展開するためには、分野横断的な復興推進体制の整備が必要である。

⑨ 被災者復興支援会議の設置

坂町地域支え合いセンター、坂町、坂町社会福祉協議会その他、NPO等の各分野の支援団体、弁護士会や建築士会等の職能団体、坂町地域包括支援センター、企業等と連携をとり、被災者ニーズと支援をつなぐための会議体を設置し、復興のプロセス毎に必要な施策を検討することが望ましい。阪神・淡路大震災や新潟中越地震ではそうした組織が有効に機能しており、参考としたい。

⑩ 復興にあたる職員・スタッフの心身のケア

坂町や坂町地域支え合いセンターの職員も、自らや家族も被災していたり、経験のない業務を長期間担うことから、大きなストレスを抱えて業務にあたることとなる。被災者のみならず、復興の望む職員の心身のケアにも取り組む必要がある。

資料編

〔資料〕 調査集計データ（単純集計）

調査対象者への面会

地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
聞き取り完了	446	1,067	8	8	22	1,551
不在	216	536	4	10	3	769
調査拒否	9	52	0	1	0	62
居住の有無不明	42	57	0	0	1	100
合計	713	1,712	12	19	26	2,482

聞いた場所

地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
自宅	358	938	6	8	22	1,332
避難所	7	0	0	0	0	7
仮設住宅	2	73	0	0	0	75
みなし仮設	11	21	2	0	0	34
町有住宅	22	1	0	0	0	23
未回答・不明	46	34	0	0	0	80
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

現在の居所

地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
前住所と同じ	342	566	4	0	16	928
未回答	104	501	4	8	6	623
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

家族の被災状況

地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
全員無事	374	922	8	7	22	1,333
ケガ人あり	7	17	0	0	0	24
連絡が取れない	1	0	0	0	0	1
その他	0	3	0	0	0	3
未回答	64	125	0	1	0	190
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

世帯人数						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
1人世帯	85	221	2	1	3	312
2人世帯	176	351	5	4	9	545
3人世帯	85	220	0	2	6	313
4人世帯	67	165	1	1	2	236
5人世帯	21	68	0	0	2	91
6人世帯	7	22	0	0	0	29
7人以上の世帯	3	12	0	0	0	15
未回答・不明	2	8	0	0	0	10
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

世帯状況						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
高齢・障害者がいる世帯	298	676	6	5	15	1,000
母子・父子家庭	10	25	1	0	0	36
未回答・不明	138	366	1	3	7	515
合計	308	701	7	5	15	1,551

高齢者のみ世帯						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
高齢者のみ1人	64	181	2	0	3	250
高齢者のみ2人	105	211	4	3	5	328
高齢者のみ3人	3	8	0	0	0	11
該当しない	271	661	2	4	14	952
未回答・不明	3	6	0	1	0	10
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

家屋の種類						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
持ち家 一戸建て	384	867	7	7	21	1,286
持ち家 集合住宅	8	26	0	1	0	35
賃貸 一戸建て	16	50	1	0	1	68
賃貸 集合住宅	24	82	0	0	0	106
未回答・不明	14	42	0	0	0	56
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

家屋の構造						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
木造	342	829	8	8	21	1,208
鉄骨	23	47	0	0	0	70
鉄筋コンクリート	30	75	0	0	1	106
その他	1	3	0	0	0	4
未回答・不明	50	113	0	0	0	163
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

持ち家住宅ローン						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
住宅ローン有	60	162	1	0	3	226
住宅ローン無	289	610	6	6	17	928
未回答・不明	97	295	1	2	2	397
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

家屋の築年数						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
築37年より古い	204	427	2	4	12	649
築36年より新しい	142	354	5	3	6	510
未回答・不明	100	286	1	1	4	392
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

浸水被害						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
床上浸水	225	229	3	0	6	463
床下浸水	71	113	2	1	9	196
浸水被害なし	140	687	3	7	7	844
未回答・不明	10	38	0	0	0	48
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

土砂被害						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
床上の土砂被害	197	189	3		7	396
床下の土砂被害	72	112	2	2	11	199
土砂被害なし	143	668	3	5	4	823
未回答・不明	34	98	0	1	0	133
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

土砂撤去の状況						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
完了	195	230	4	3	17	449
継続中	49	42	0	0	0	91
未着手	8	15	0	0	0	23
今後、撤去の予定あり	7	15	1	0	0	23
今後の撤去の予定が立っていない	4	10	2	0	0	16
撤去しない	8	16	0	0	0	24
合計	271	328	7	3	17	626

床下土砂残りの可能性						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
床下土砂残りの可能性あり	64	85	1	2	3	155

土砂撤去支援者（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
行政による撤去	11	13	0	1	1	26
ボランティア	146	115	6	0	9	276
知人・家族等	172	197	3	3	16	391
業者へ依頼	55	107	0	0	3	165
その他	14	24	0	1	3	42
合計	398	456	9	5	32	900

罹災証明の申請状況						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
取得済み	269	317	6	3	15	610
申請中	3	4	0	0	1	8
今後、申請する予定あり	1	2	0	0	0	3
申請したかわからない	1	6	0	0	0	7
申請せず	111	526	0	5	5	647
未回答・不明	61	212	2	0	1	276
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

罹災証明取得内容						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
全壊	55	49	1	0	2	107
大規模半壊	100	63	1	0	2	166
半壊	57	122	3	0	5	187
一部損壊	14	36	1	1	2	54
未回答・不明	43	47	0	2	4	96
合計	269	317	6	3	15	610

罹災証明申請せず理由（複数回答・未回答・不明）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
該当するかわからない	10	12	0	1	0	23
申請に行く時間や手間がない	3	1	0	0	0	4
罹災証明のことがわからない	1	2	0	0	0	3
不要だから	65	397	0	5	4	471
その他	12	26	0	0	0	38
合計	91	438	0	6	4	539

家屋の被害箇所（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
土台・基礎	160	170	4	0	5	339
梁・柱等	111	95	4	2	2	214
屋根・外壁等	129	120	3	0	6	258
壁・内装・窓等	195	188	4	1	7	395
設備（電気・ガス・水道）	142	192	1	0	5	340
設備（台所・トイレ・風呂）	130	159	3	0	2	294
その他	49	104	3	1	4	161
合計	916	1,028	22	4	31	2,001

建て替え・補修等の意向						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
建て替え・補修をしたい、可能	139	137	3	1	5	285
建て替え・補修をしたい、課題あり	65	73	1	0	3	142
建て替え・補修はしない	108	440	4	7	12	571
未回答・不明	134	417	0	0	2	553
合計	312	650	8	8	20	998

建て替え・補修の課題（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
費用の工面に不安がある・金額不明	60	51	2	0	2	115
住宅として使えるかわからない	4	6	0	0	0	10
その他	41	52	2	0	2	97
合計	105	109	4	0	4	222

建て替え・補修しない理由（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
費用が工面できない	8	9	1	0	0	18
仮設・みなし仮設に入居	1	4	0	0	0	5
公営住宅に入居	2	2	0	0	0	4
親族等と同居	1	0	0	0	0	1
不要、破損が少ない	6	202	0	7	4	219
その他	33	32	1	0	1	67
合計	51	249	2	7	5	314

避難の有無						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
避難した	237	405	6	6	11	665
避難しなかった	182	617	2	2	10	813
未回答・不明	27	45	0	0	1	73
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

最初の避難の時期						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
直後	101	274	5	4	10	394
1日後	77	50	1	1	1	130
2日後	26	12	0	1	0	39
3日後	11	4	0	0	0	15
3日以上	4	7	0	0	0	11
未回答・不明	18	58	0	0	0	76
合計	237	405	6	6	11	665

避難しなかった理由（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
移動が危険だと思った	90	210	1	0	4	305
避難の手助けがなかった	5	12	0	0	0	17
どこに避難すればよいかわからなかった	2	11	0	0	0	13
避難のタイミングがわからなかった	8	37	0	0	4	49
その他	98	326	1	1	6	432
合計	203	596	2	1	14	816

避難しなかった理由（その他自由記入を分類し再集計）	
移動が危険だと思った	305
高台だから・大丈夫だから	142
要介護・要配慮者の存在	58
逃げられなかった	53
避難のタイミングがわからなかった	49
上階で生活可能	34
避難所が危険・家の方が安全	32
ペットがいた	28
油断していた	19
放送が聞こえない	18
避難の手助けがなかった	17
どこに避難すればよいかわからなかった	13
垂直避難	13
待機指示・避難を待った	12
家にいたい・家が心配	8
子どもがいるから	1
その他	62
家族を待っていた・町外にいた	36

避難時の救助者						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
自力で避難した	123	206	2	2	6	339
行政による救助	65	46	0	1	0	112
近隣住民による救助	8	18	0	1	0	27
その他	31	43	3	2	0	79
合計	227	313	5	6	6	557

発災後の健康状況（からだ）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
変わらない	220	733	5	6	12	976
不調だったが回復している	94	128	1	0	7	230
不調が続いている	100	137	2	2	3	244
未回答・不明	32	69	0	0	0	101
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

発災後の健康状況（こころ）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
変わらない	212	700	2	5	14	933
不調だったが回復している	74	115	1	1	3	194
不調が続いている	114	153	4	2	5	278
未回答	46	99	1	0	0	146
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

移動困難度						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
困難あり	108	120	1	1	2	232
困難なし	301	845	7	7	20	1,180
未回答	37	102	0	0	0	139
合計	338	947	7	7	20	1,319

移動困難理由（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
外出に手助けが必要	21	34	0	0	1	56
移動手段がない	31	22	0	1	0	54
費用がかかる	5	3	0	0	0	8
その他	36	53	1	1	1	92
合計	93	112	1	2	2	210

移動困難理由（その他自由記入を分類し再集計）	
外出に手助けが必要	73
バイク・車がなくなった	59
移動手段がない	54
以前から移動困難	22
迂回の必要	11
費用がかかる	8
時間がかかる	7
その他	22

現在の移動手段（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
徒歩	77	322	2	2	1	404
自転車	40	210	0	1	0	251
原付・自動二輪	23	110	1	0	0	134
自家用車	285	596	6	3	17	907
公共交通機関	113	170	2	2	1	288
タクシー	15	59	1	0	0	75
移動支援（介護サービス等）	2	13	0	0	0	15
知人・親族等による送迎	39	62	0	1	2	104
その他	8	8	0	0	0	16
合計	602	1,550	12	9	21	2,194

買い物困難の状況						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
困難あり	165	124	1	1	1	292
困難なし	251	826	7	7	19	1,110
未回答・不明	30	117	0	0	2	149
合計	281	943	7	7	21	1,259

買い物困難理由（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
商店等が遠くて買い物に行けない	77	41	0	0	0	118
買い物ができる機会が少ない	63	22	0	0	0	85
商品が少ない・足りない	25	7	0	0	0	32
その他	54	69	1	1	1	126
合計	219	139	1	1	1	361

買い物困難の理由（その他自由記入を分類し再集計）	
商店等が遠くて買い物に行けない	118
買い物ができる機会が少ない	85
A コープがない	48
移動が大変	35
商品が少ない・足りない	32
ATM がない	9
道路が通れない	9
移動販売では不便・高い	8
重たい荷物に困る	4
バスが不便になった	3
その他	3

食事困難の状況						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
困難あり	59	53	0	2	0	114
困難なし	348	936	8	6	22	1,320
未回答	39	78	0	0	0	117
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

食事困難理由						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
食欲がない・食べられない（体調面）	31	18	0	0	0	49
食欲がわからない（心理面）	19	14	0	1	0	34
調理環境がない・自炊できない	18	13	0	0	0	31
支給される食事のみが続く	25	2	0	0	0	27
1日3食を取れていない	11	14	0	0	0	25
要配慮食が手に入らない	1	2	0	0	0	3
合計	105	63	0	1	0	169

通院・治療困難の状況						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
困難あり	55	67	1	0	0	123
困難なし	360	924	7	8	22	1,321
未回答	31	76	0	0	0	107
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

通院治療困難あり理由（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
通院・治療の回数減	19	21	0	0	0	40
通院・治療の中断	11	8	0	0	0	19
その他	10	23	0	0	0	33
合計	40	52	0	0	0	92

服薬困難の状況						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
困難あり	36	24	1	0	0	61
困難なし	374	946	7	8	22	1,357
未回答	36	97	0	0	0	133
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

服薬困難あり理由						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
服薬の中断	9	5	0	0	0	14
常用薬の入手困難	8	4	0	0	0	12
その他	6	7	0	0	0	13
合計	23	16	0	0	0	39

教育・保育対象者の有無						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
対象者あり	51	143	0	1	4	199
対象者なし	281	672	5	7	18	983
未回答・不明	114	252	3	0	0	369
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

通勤困難の状況						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
困難あり	57	54	0	2	1	114
困難なし	316	804	7	5	20	1,152
未回答	73	209	1	1	1	285
合計	373	858	7	7	21	1,266

生活費（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
就労している	248	576	6	3	14	847
年金生活	249	544	2	5	12	812
預貯金	29	52	0	0	0	81
仕送り等	1	8	0	0	0	9
求職している	5	3	0	0	0	8
生活保護等の行政支援	0	4	0	0	1	5
その他	12	27	0	0	0	39
合計	544	1,214	8	8	27	1,801

義援金の申請状況						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
申請した・受け取った	220	240	4	2	9	475
申請していない	163	616	1	6	12	798
わからない	2	36	0	0	0	38
未回答・不明	61	175	3	0	1	240
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

義援金申請せず理由（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
対象外	108	534	0	3	3	648
対象かわからない	10	20	0	3	6	39
義援金についてわからない	8	13	0	2	1	24
その他	15	20	1	1	0	37
合計	141	587	1	9	10	748

その他支援金等の申請状況						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
申請・支給済み	165	164	0	0	5	334

その他支援金等の種別（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
生活再建支援金	11	14	0	0	2	27
災害弔慰金	10	12	0	0	0	22
災害見舞金	42	73	0	0	3	118
合計	63	99	0	0	5	167

その他支援金等申請せず理由（複数回答）

地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
対象外	103	485	3	1	3	595
対象かわからない	13	25	0	4	8	50
支援金についてわからない	12	27	1	0	1	41
その他	9	18	1	0	0	28
合計	137	555	5	5	12	714

当面の居所

地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
当面は移転の予定なし	341	877	7	8	22	1,255
移転の予定あり	35	47	1	0	0	83
移転のめどが立っていない	33	38	0	0	0	71
未回答・不明	37	105	0	0	0	142
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

引っ越しの予定先

地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
自宅	20	32	0	0	0	52
仮設住宅	5	0	0	0	0	5
みなし仮設	4	0	0	0	0	4
親族・知人宅	3	0	0	0	0	3
その他	2	3	0	0	0	6
未回答・不明	1	12	1	0	0	13
合計	34	35	0	0	0	70

移転のめど立たない理由（複数回答）

地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
費用の工面難しい	14	26	1	0	0	41
物件が見つからない	1	12	0	0	0	13
その他	21	25	0	0	0	46
合計	36	63	1	0	0	100

移転のめど立たない理由（その他回答）
砂防ダムの整備
自宅の撤去がいつになるか不明
自宅場所の安全面が不安
従前地の安全
いつどの施設に入るべきか悩んでいる、今は要介護なので入所も難しい
ダムの建設が出来てなく次の災害が起きやすい状態である
どこで暮らすか考えても決まらない
費用がわからない
補修費が高額
安全面が不安。地盤が低いので住めるかわからない。
危険区域のため建て替え困難
高齢のため、今の所に住み続けたい
新築で家を建てたことがないので想定できない。
前の住居には戻りたくない
町営住宅に空きがない
倒壊した自宅にがどうなるか目処がついていない。
道路や安全面で不安
現在自宅を夫が自身で再建中。いつになるかがわからない。
今後の地域の安全が確保されるか？
市中銀行のローンが通るかわからない
周囲の環境がどうなるかがわからない。
小屋浦に住むのが怖い。
町の施策がわからない、更地にしたら
ペット（猫）と一緒に住めるところを探さないといけない
よくわからない
リフォーム待ち
建て替える気力や体力がない
見通しが立たない、恐さ
元の地区に戻りたいけど復興できていないから
坂市の自宅周辺環境が整わない
修繕がまだのため
年だから動けない
今は考えていない。
道が崩壊。通学の危険。街灯がない。イノシシなどの獣が出る。子ども女性は大変。
被害が少ない。
自宅隣りへ引越し
もう少し歳を取ったら引っ越す。
2年くらいしかいれないと思うので、市営、県営、町営に入りたい。

よい場所があれば引越したい
車が入るところ希望
すんでいた地区に帰れない
安全性、道が復旧しない

今後の居住地希望						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
災害前と同じ地区	299	612	6	7	8	932
同じ町内で別の地区	5	19	1	0	0	25
町外に出たい（出る予定）	6	9	0	0	1	16
考えられない	5	16	0	0	0	21
その他	16	21	0	0	0	37
未回答・不明	115	390	1	1	13	520
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

情報入手の状態						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
十分に情報入手できている	123	355	1	1	16	496
一定程度の情報入手できている	162	404	3	4	4	577
情報が入手できていないと感じる	117	176	4	2	1	300
未回答	44	132	0	1	1	178
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

情報の入手経路（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
テレビ	72	310	1	1	7	391
口コミ・知人から	105	265	0	1	8	379
行政の HP やメールサービス	81	250	2	0	4	337
行政の配布物	68	213	5	0	3	289
その他サイト（ニュース、SNS 等）	61	171	2	0	11	245
地区役員等からの連絡	52	68	2	1	3	126
ラジオ	16	75	1	0	4	96
行政職員等からの連絡	32	60	1	0	1	94
新聞	21	53	2	0	1	77
避難所等の掲示板	49	25	0	0	0	74
電話で問い合わせ	19	24	1	0	1	45
学校・幼稚園・保育園等からの連絡	8	20	0	0	0	28
介護・障害サービス事業者からの連絡	2	8	0	0	0	10
その他	120	336	1	8	8	473
合計	706	1,878	18	11	51	2,664

受援の種類（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
泥かき・片付け	222	284	7	4	14	531
荷物運び	114	128	3	0	4	249
各種相談	60	86	1	0	4	151
マッサージ等	17	8	0	0	0	25
その他	15	23	0	0	0	38
合計	428	529	11	4	22	994

「泥かき・片付け」支援者（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
ボランティア	145	121	5	0	7	278
行政	8	14	0	1	2	25
業者	31	57	0	0	1	89
近所	23	74	3	1	7	108
親族・知人	129	170	2	3	10	314
その他	3	11	0	0	1	15
合計	339	447	10	5	28	829

「荷物運び」支援者（複数回答）

地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
ボランティア	43	46	2	0	3	94
行政	1	2	0	0	0	3
業者	8	17	0	0	1	26
近所	12	23	2	0	0	37
親族・知人	87	99	2	0	2	190
その他	2	7	0	0	9	0
合計	153	194	6	0	6	359

「各種相談」支援者（複数回答）

地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
ボランティア	2	8	0	0	0	10
行政	24	29	0	0	2	55
業者	5	9	0	0	0	14
近所	8	20	1	0	1	30
親族・知人	34	45	1	0	4	84
その他	5	6	0	0	0	11
合計	78	117	2	0	7	204

「マッサージ等」支援者（複数回答）

地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
ボランティア	12	6	0	0	0	18
業者	1	0	0	0	0	1
親族・知人	2	0	0	0	0	2
合計	15	6	0	0	0	21

相談相手の有無

地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
相談相手がいる	299	723	7	6	15	1,050
相談相手は必要ない	59	160	1	0	3	223
相談相手はいない	25	43	0	1	4	73
未回答	63	141	0	1	0	205
合計	446	1,067	8	8	22	1,551

相談相手（複数回答）						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
親族・知人	218	572	4	2	11	807
近所の人	86	234	2	1	8	331
行政職員	29	62	0	1	3	95
介護支援員等	7	24	0	0	2	33
その他	28	57	0	1	0	86
合計	368	949	6	5	24	1,352

その他の相談相手を再分類し集計	
親族・知人	821
近所の人	332
行政職員	96
介護支援員等	41
地域役員等	29
その他	38

不安・心配事						
地区名	小屋浦	坂	横浜	水尻	植田	合計
再建費用や生活費が足りない	34	44	0	0	1	79
生活用品が不足している	37	21	0	0	0	58
解体撤去の見通しが立たない	17	20	1	0	0	38
医療や介護が不足している	16	17	0	0	0	33
移動手段がない	17	12	0	1	0	30
親族やご近所と離れてしまう	18	8	0	0	0	26
土地や家屋の権利などがわからない	2	3	0	1	1	7
仕事がない	1	4	0	0	0	5
その他	208	403	5	0	6	622
未回答	96	535	2	6	14	653
合計	350	532	6	2	8	898

その他不安・心配事を分類し再集計	
二次被害が心配	59
次の災害への対応（備え）	98
道路や河川の補修・土木関係	70
コミュニティの心配	29
治安	11
学校等子どもの環境	13
町内放送・情報	37
A コープがなくなったこと	51
雨や天候への心配	42
金銭不安・補償の不足	44
住宅設備の心配	20
住宅の補修・再建等	45
家に帰れるかどうか	7
土砂・がれきの心配	25
体調	29
生活全般への不安	26
家族・一人で不安	14
利用サービスの減少・無医	15
農協・金融期間・ATM	11
その他	101

その他不安・心配事（分類前）
早く復興してほしい。
行政から情報が十分にくるか
今の場所に住むのが怖い。砂防ダムのこと。
上の山が崩れるか不安。
次の災害がいつくるか不安
土地などをどうするか、耕運機がだめになった
保育園がないと若い子が来ない。町営バス高い。川のへりの修理。将来商店・医療が心配。
家の解体作業中の家財道具の置き場がない。
地震など災害
雨が降ると心配。
いつ家に帰れるのか。
地域が廃れてしまう不安がある。
病院が3月で終わってしまった。
また雨が降ると心配

防災無線が聞こえない
次の災害
避難所の立地
店がないのが大変。
いつ雨が降るか
周りの人が引っ越していきそう。スーパーがもどるのか不安。この地区がどうなっていくのか。
実家が小屋浦3丁目なので、母や姉が心配。
小屋浦地区全体の今後。強い雨が降ると心配。血縁・地縁が強い。
買い物の件、A コープがなくなるなら行政で策を考えてほしい。次の災害が起きないように対策してほしい。
体の痛いところが多くなった
不安も心配も無いと聞く。
お金が心配
小学校が安全に通学できること、遊び場がないこと
コミュニティーの班内で4軒しか残っていない。借家で家賃収入を得ていたため、年金が支給されるまでの間の生活費が預貯金を切り崩す必要がある。
砂防ダムを早く完成させて欲しい。災害前から心配だった。土砂災害のハザードマップ作って欲しい。二次災害の補償がない。方法を考えて欲しい。皆泣き寝入りしている。
農協が復活してほしい
町内放送聞こえない。被害がないため、被害がないだろうと言われ外に出にくい。
広島へ行く時など着ていくものがない。家の補修が終わったら生活用品などに困ると思う。何が要るか分からない。
2次被害が心配
治安の悪化
町内放送が、聞こえにくい。
川の護岸の工事がすすまない。早く取り掛かって欲しい。
今後、砂防ダムがどうなるか不安
坂町の対応。情報の伝達がうまくいっていないこと。
川の土砂撤去、病院が近くにな、防災放送が聞こえない、橋の高さが低い。
家のことが不安
お風呂使用不可。水しか出ないため季節が変わると不安。シーレが使えなくなるかもしれないこと。
店の復興。
近くの商店閉まっている。
思いつかない。今で精一杯。
町内放送が聞き取れないので何とかしてほしい。お弁当がいつまで出るのか知りたい。コープが閉まると聞いた
家に帰ってから一人で不安。
体調

放送が聞こえない
自炊ができない
近所の人たちが居なくなったので今までとは違う生活になること
川の近くで不安。土砂、木の撤去をしてほしい。住人が少なくなった。
金融関係
町の対応が気に入らない。言うこととやることが違う。その場限りの対応だったのが腹が立つ。民間アパートを借りると家の費用が出ないといわれた。町のバスの復旧状況が分からない。配慮が足りない。
近所に買い物する場所が無い
雨が降ってきたとき
寂しい。
河川の復旧を早急に完了して欲しい。
捨てたいものを選ぶのに悩んでいる
排水溝がまだ改善していないのでまた同様の災害があるのではないかと怖い。
義援金をもらったのかとか、町が家を壊すお金を出してくれたのかなどの噂を立てられるのが嫌。何ももらっていないのに。
裏山が崩れないか心配
粉じん、カビ。買い替えるのが大変。
持病があるので、また災害がこないか不安
①小児科が坂町にない。耳鼻科浸水した。②大雨になって浸水した場合にどこに避難したら良いのかわからない。③しばらくして家が陥没した後の支援は大丈夫か。
放送内容が聴こえづらい。障害のある人への配慮が足りていないと感じる。何事も考え込んでしまう。
業者の都合でリフォームが進んでいない
周囲の状況が把握できない
雨が降ると怖い。
雨が降るたびにドキドキしている。上の堤防を早急に直してほしい。川が氾濫したので川の流れを調整してほしい。川の水が一番たまる場所なので下水整備を進めてほしい。
また同じような事が起きたらと不安
もし今後災害が起きたときが不安
自宅の前が川なので氾濫するのが怖い（土砂がたまって水深が浅くなっている）
地震等の今回とはまた違った災害への不安が大きくなった。
要援護者（世帯主）の避難方法、避難場所がないこと。ショートステイを探したが、一杯だった。身体機能を維持できる、リハビリのできるサービスに避難できるようにしてほしい。
主人の世話と今後、医療等の費用の工面、資金繰り
役所での手続き
神経痛が心配
エレベータ早く復旧して欲しい。
要援助者の事が気になる。（次の災害発生時）

今後、行政等が横の連携を強化して災害に備えてほしい。
労力 高齢のため
心配なことは特になし
町内放送聞こえにくい
行政放送が聞こえない
買い物、銀行での手続きが大変。
■■■■さんに相談が寄せられることがある
一人でいると不安な時はある。
土砂災害が怖い
電気が止まって放送に過敏になっていた
向かいの橋が流れているままなので不便 森浜会館が使えず、ふれあいサロンなど地域交流行事ができず、情報交換などの機能がうしなわれている。早く復活させたいが
退院後の生活支援。
川の砂が再び堆積してきている。再度砂を取ってほしい
お店の再建ができない。（ご主人：飲食店、奥様：美容室）
速く災害復旧して欲しい
モヤモヤとした不安がある
お墓の相談をしようと思ったが、当時役場は対応出来ず、お墓の状況が心配、そのままになっている。災害時にかかりつけの病院に薬をもらっていたが、その病院でもらうことができず普段使っている薬とは別のジェネリックにされて困った。今は元の薬が支給されているので大丈夫。
マツダが再開するか
ご家族の今後
仏像が流れてきたので持ち主を探したい
スーパーがないのが困る
今後の生活費等
河に水位計を放置し WEB 上で見れるようにしている
ゴミの出し方がわからない。
貯金から出さないといけないので不安
このまま土砂を放っておいていいのか。リフォーム業者を町が紹介してくれないか
避難所が安全じゃないところをもう少し考えるべき。
買い物するところがない。JR が使いにくい。町がさびれないか。
台風が心配。台風が来るとすぐ避難。
息子の家が心配
次に雨が降った時に崩れてこないか、行政対応が被害の大きなところになっている
畑の泥かきの手伝いが必要
水路の変更（下向きに修理を早くしてほしい）
これからの生活やお住まいについて不安
A コープ、地域とのつながりが心配。地域を構築していく必要がある。自分の老後
体の調子、2 週間前に脳梗塞

また崩れたら不安。避難経路などの町の取り組み、被害が少ないゆえに補償がないことに疑問。他に人に気を使う。
被災した親族を手伝えないこと
食品、役場が動いて金融機関やスーパーを整備してほしい。
配給の水がもらえないことがあった
土のうの撤去をしてほしいが、どこがしてくれるのか
役人が現場に赴くべき
体調
坂町の対応。隣の崖や岩山が危ないと言われている。また降った時。
妻 駅まで一人で歩いていく
小屋浦が限界集落になるかもしれない。ATM がない。移動販売はないのか。
認知症の進行
最近は落ち着いてきた
町内放送が聞こえない
A コープを再建、近隣地区の状況が心配。
自宅裏の土砂
支援の平等性が必要
相談は特にしていない。
仕事が週 2 回に減って、生活収入が減少
放送が聞こえない。近所づきあいが少ない
建築基準法により建て替えが困難
山崩れした場所が不安。仕事があるため様々な説明会に出席できていない。今後の降雨
母のこと、修復資金面
川沿いの道が危険なので早く修理してほしい。
寺に詣りたい
砂防ダムが整備されるか。裏の川の土砂が再度あふれないか。
日常をはやく取り戻したい。
サイレンのテスト音が聞こえなかったため、機能するか不安。川の工事が無事終わるか。次の災害への備え。
小屋浦の人口が減少すること。坂町の仮設住宅を小屋浦に移してほしい。
人口が減るのが心配。
商店、病院がないこと
裏の川の土のうを直してもらえるか県に問い合わせているが分からない。
金銭面。車がないこと。
避難所にいつまでいられるのか
避難所にいつまで滞在できるか
川上にまだ巨石がある、また降りてきそう
ダムの状況。荷物の置き場。入浴問題。男女ともに雑魚寝していること。避難所の衛生
雨が降った時

金銭面。町がどこまで補助してくれるか。
子どもが住める環境に戻るのか。大阪への引っ越しも考えている。行政からの回答が二転三転し不 明確。
町の対応が気に入らず、腹を立てている。
川の工事を早く完了してほしい
捨てたいものを選ぶのに悩まされている。
生活再建の見通し。義援金等の範囲で修理をしたいがいくらかかるか分からないので不安。
町内放送が聞こえない。寂しい。
裏山の補修をしてほしい。
町内放送が聞こえない
金融関係
将来的な住むところ
報告するまでもないと思う
ずっとはおれんのじゃろうけーね。
もう少しボランティアに早く来てほしかった(業者にお金を支払って床下の泥かきをしてもらった。 補助などがあれば・・・)
防災強化を希望
家に戻った時にまた沈まないように、水はけを考えて欲しい。
これからの住まいについて
今後の生活拠点(住むところ)をどうするか。
山が近いのでやはり怖い。
発災後、妊婦へのフォローがあったら嬉しかった。
今後の居住宅の不安
側溝の土砂を撤去してほしい。丸子踏み切りから海に出る所。
車の修理
今回の災害で、次の災害に備えて危険個所の見直し、情報発信をして欲しい。
雨が降って今回のような事体の高台の安全な避難場所の情報と、避難場所にペットを連れて行って いいのか情報が欲しい
徒歩避難が出来ない。
仮設の後の事が気になる。町営等優先的に斡旋してもらえないのか。今後の住む場所が気になる。
うつ病に罹患していること。
住むところ
次に住む住宅のめど。
裏山が崩れないか心配。自宅横の排水溝の土砂撤去を早めに対応してほしい。また同じようになら ないか心配。
先のことは考えない
家賃収入があるが、税金を払うのが心配
今後の住む所のこと
公園の使用に制限があり、使えない

周辺に自販機や生活必需品が買える場所が欲しい。今まではAC00Pに行っていたが被災してからは使えなくなった。車や自転車が無い者にとっては不便を感じる。
次に雨が降った時が不安
土砂災害の発生場所の復興がいつになるか不安だ
二次災害の不安 砂防ダムが出来たら撤去の可能性が出る
裏山、今後の災害
飼い猫を外飼いしているので苦情が不安。
次の災害
どっちかが倒れたらどうしよう
風化しないでほしい。やっと生活再開できる人がいることをもっと聞いてほしい。
雨で裏山の土砂崩れ(ブルーシートがかかっている所)
日々不安です。
高齢な為、今後の生活について
自身の体調が心配
生活道路が早く元通りになってほしい。
川沿いの道路を早く直して欲しい。
自分の家は問題なかったが、駅近くに住む甥宅の1階が浸水。3日間連絡がつかず、後片付けも大変だった。今後またこのような事が起こるのではないかと不安に思っている。
家の土台が崩れていることが気になる
どこで暮らせば良いのか分からない
イノシシ対策が必要
家から5分の墓に土砂崩れで行くことができない
家の前の山が崩れている。災害時に情報が入って来ない。
年金受給額が少ないこと。経済的不安がある。
親しい人が被害に遭われて情けない。何かしたいけど、母の介護もあるので手伝えないのが心苦しい。
車の置き場がない。
後の田んぼの土砂が、雨が降るたびに流れてきそうで不安。道路、橋などトラックが行き来しているが復旧していない。通行止めになると家に帰れない。
迂回の道が細いため運転に自信がなく、少し離れたところに車を止めてそこまでは歩いている。買い物荷物が多いときなど不便。細い道に鉄板を引くなどして幅を広く出来ないだろうか。
医療費の減免が終わることに不安あり
裏を通る大型車の騒音で眠れない
来年の梅雨の時期がどうなるか心配
発災当時、町内放送が聞こえなかった
地域全体の先行きが不安
車までの道路を早く修理して欲しい。父に家に行けない
雨台風が来たらまた災害が起こるのではないかと不安
家の裏手の山が崩れてこないか心配。

買い物が不便
今回は大丈夫だったが、雨が続くとまた同じようなことになるのでは、自分の所にもいつ来るかといった不安はある。避難所も本当に使えるのか、安心できる避難場所がないのではないかと不安あり。
上条貯水池の上の墓につながる道路が崩れている。
遊歩道が土砂崩れで墓に行けない
郵便が配達されないので取りに行っている。新聞は配達されない。
ない
駐車場に車を置いていいのか分からない
元の場所に戻りたいが防災力を高めてもらわないと帰りたいけど帰れない
近所に買い物をする場所が少ない。
応急措置
放送が聞き取れない。お弁当の配給がいつまでか知りたい。
公園にいつまでゴミが出せるか
次の雨が怖い。
お墓が崩れたこと
排水ポンプを変更してほしい。
地域の先行き
雨が降ると怖い。橋の早期復旧。駐車場のひび割れ。
A コープがなくなるなら、行政で策を考えてほしい。今後の災害対策。
今後再び被災しないか。
食事の栄養バランス
雨が降ると不安
近隣
街灯がなく夜（夕方）は真っ暗。
家の片づけなどでの休業補償を考えてほしい。重機が通ることによって壁にひびが入った。スーパーが近くにない。
今後のことが心配。町営住宅においてもらいたい。
仮設の下水、通信回線を直してほしい
県道、町道の説明や見通しが不明で、どのくらいの費用がかかるか不安。
川と道の整備、街灯が欲しい。
学校の運動場が使えない。学校環境を整えてほしい。街灯を付けてほしい。
河川と砂防ダムの整備。
重機が通ると家が揺れること。
災害後、盗難の情報があつた。防犯のため街灯などの照明の対応をしてほしかった。
初めてのことなのでわからないことが多い。
農地が川になっており、重機が入っている。町の方針がわからない。
砂防ダム。小屋浦の復興が置き去りにされている。道を整備してほしい。イノシシが怖い。
農協や店がはやく開いてほしい。いつから開くか分からない。

災害が再度起こらないか不安。
裏山が気になる。
土のうが少ない。雨が降った時不安。
床下の菌などチェックしてほしい。移動販売車にほしいものが置いていない。
畑、土木関係
将来の不安
補修のめどが立っておらず、いつになったら生活できるのか。
ヘルパーが使えない。
被災した親族が心配
雨のたびに心配。電話帳が流された。
地域全体で今後の見通しが立っていない。過疎化。地盤。
隣の■■■さんのご両親が心配。
台風
裏の川から土砂や流木が流れ込んでこないか
また災害に合うかもしれない。
自宅裏のことが気になる
買い物、動く機会がない。畑の砂が流されてくるかも。
砂防ダムについて。ゴミ回収。
買い物が大変。ふれあいセンターに仕切りがない。
山が崩れないか
買い物するところ
裏山が不安
仏壇
ダムがどうなるか。
年金のみの生活が可能か。
高齢者など周りの方が心配
足が不自由なので階段の昇降が大変。
病院、スーパーがない。
心配ごとは減ってきている。不安はあるが、あまり考えないようにしている。
交通が不便で、陸の孤島になってしまった。固定資産税だけ上がっている。シルバーセンターがない。
隣家が被災し、不在。悪臭があり、塀が壊れたらと思うと心配。
高齢になり、店に歩いていけなくなったらどうすればよいか。
これまで利用していた農協の店が被災し、閉店する。買物がとても遠くなるので、跡にまた店をつくってほしい。
保険に入っていなかった 自分の事は自分で何とかしなければ、自分達より大変な人はいっぱいいる この状況で今から年をとるのが不安。店もない
信号の時間が短く本線に入るのに時間がかかる店がない
今後、一人暮らしに戻る時が心配。

買い物がしにくい、車を使えなくなるのが不安、診療所がない
小屋浦の人口が減っている 店がない
小屋浦に帰ると不安。人がいない、灯りが無い、スーパーが復旧するのか
植田丘公園をきれいにしてほしい。土壌とかが、どんな状態なのか知りたい。また、土砂をおくようになるのか？
農道がこわれた、畑に行けない
スペースがなく、調理していない。糖尿病で弁当は残している。
雨が怖い
情報の入手が困難。
家を建て替えるのに、消費税を8%のままにしたい。お金の工面に困っている。
こけない様にしたい。坂町の放送が聞こえない。
今回以上の雨が降った時が心配 砂防の強度
この場所が、この先安全か？金銭面、次回は？
土地の所有者の問題、家の裏手の岩が怖い
高潮による浸水、台風等による浸水・土砂災害。店舗を解体するかどうか。
同じことが再度起きないか不安
尼崎より移住している為言葉や対応に苦慮する所もある。
買物に不便を感じる
行政から二階の不要なものは残しておいてよい、一階は撤去するように言われたが、話が変わっては困る。12月頃に業者決定するので三月二日に退去は無理。仮設居住延長の条件などを書類で具体的に早く出して欲しい。個別に特別な条件など対応して欲しい。住民優先で対応して欲しい。町の方針を優先しているように感じる。情報をつないでもらえていない。受援も、行政が個人で依頼するように言われた。相談について、どこに相談すればいいか紹介して欲しい。住まいの心配が一番
自宅は大丈夫だったが周りが被災して申し訳ない気持ちになる。 小学校の前の橋が重要、いつ通るかきになる
生活リズムが変化したことと、叔母の通院が途切れていること
砂防ダムの建設、管理について
隣家の解体が進まないと困る。ブロック塀が崩れている。
今後の災害
避難するにしても川を渡らなければならないが、今回のようだったら川を渡れない。避難しやすい場所を作してほしい。
土砂の撤去、倒木が家にのしかかっている(山の地主と相談中)、家の周囲の建物の心配、
近所に肉親がいるので、ほぼ大丈夫。
また大雨がこないか心配
義援金の申請をしているがいつ入るのかわからない。忘れられているのではと不安になる
今後災害が起こるかもしれない不安、山が崩れたままなのでどうなるのか見通しが知りたい
今後の災害に対する不安、道路沿いの照明も復帰していないため不安
いつ災害があるかわからない不安はある。

単なる復旧・復興ではなく、同様の災害が起きた際に被害を最小限に食い止めるまちづくりができるのかどうか。
仮設を出た後の住居の見通しが立たない 一年は心と体のケア、2年目は家さがしとできればよいのに
医者、スーパー等が近くにない。遠すぎる。
祭事の道具がダメになってしまった。今後、祭事ができるのかどうか
みなし仮設も時期が来れば家賃必要な為なんとか再建したいができるかどうか不安
また大雨がこないか。
近所が空き家になり夜は真っ暗。街灯もなくこわい。是非巡回をおねがいします。
住宅の解体費用が工面できず、下の家に傾いている。
ボランティアが来てくれない来ても役に立たない人がいた
罹災証明の基準が不明、精神的に抱え込んでいる人がいる。
とにかく家の修繕の事で頭がいっぱい。
ゴミ収集の遅れ、大雨で崩れるか不安
付近の川に泥がたまっている。いまだに土嚢の回収ができていない。今後付近の山に対してどのような対応をしていくつもりなのか行政からそのような情報がないのは不安であり不満。
聞こえづらいので、用件があれば書き物で連絡が欲しい。
ラジオでの放送が聞き取りにくい
今の家のすぐ上が水害で崩れている。ブルーシート張っているが、町は早く復旧してほしい。雨が降ると土砂が流れてきそうで怖い。お店が近くにない(国道まで出なければならぬ)
周りの人が復興できるか心配している
今後大雨が怖い
復旧状態を的確に情報で流してほしい。
健康面の不安。現在の暮らしで調理器具が不足していること。
集落上のダムの欠陥修理が進まず、土砂を止めることができない状況であり、自宅に戻っていいか、不安に感じている。
水路・法面のことで坂町との話し合いが気になり
家が復旧しないと主人が帰ってこれない。またあったらどうしようか。ダムを直してほしい。
毎年、梅雨の時期になると心配になると心配(この先の不安)。県道を作るより、災害対策をして欲しい。
高齢であり以前住んでいた地区と違うので、知合いがいなく不安である。
将来が不安
今後の生活場所について
家賃がかかるようになると年金での生活の見通しができない
今後、どこで生活するか未定
今後の修理の補償金や周りの家が解体されるまでの2次被害について。
田んぼ畑の泥が自分でもやったが残っている
体調
どんどん人が減っていつてしまっている。■■■さんの家は取り壊しが済んでいない。

コタツ布団が欲しい。冬用衣料が無い。
ダンプなどが通り粉塵もあり呼吸器系に不安があった。
リフォーム後、周りの家の倒壊が心配で先へ進めない。
雨のたびに心配。電話帳が流された。
引っ越し先が決まっていないことが不安
今後の修理費用がどれ位掛かるかが、気がかり。
雨が降ると、私有地内の水路から水が吹き出すので、地盤が心配。
大雨が降ると不安になる
災害前と資源ごみの回収場所が変わっており分からないとのこと。
難聴あり 7. 行政から無線放送が聞こえない場合があると不安
これからの支援金や義援金罹災証明などのやりとりが不安
早く生活が元通りになってほしい
スーパーが無くなった。近くにお店が無いと不便
肺の持病もあり、周囲の空気の悪さが続く事不安
近くに店がなくなったから不便。日中は周囲に人がおらず、空き家が多くなった。
これからまた災害が起こったらどうしたら良いのか不安である。。
周囲の方が減っているし、手伝いはするが、負担も大きくなっている。
自宅修繕の支援金の受け取り、清算がいつになるか
道路・橋の整備。ごみ処理の方法見知らぬ業者の出入りによる不安。駅に行く橋がガタガタ（道路）、夜間の電気がなく歩くのが不安、警察の巡回が今はない。床・フローリングを治すときにどこに住んだらよいのか。
災害後ごみの収集来てくれなくなった。坂道を下りることが出来ない。
砂防ダムがいっぱいになっていると聞いて不安、山崩れの対策をしてほしい。
水をペットボトルで常に持つようにしている。
インフラの整備を早急にして欲しい 金融機関の復旧を望む
病気が早く開院してほしい。
自宅裏の排水が機能せず、長期間水がはけなかった。早めに整備して欲しい
いまは大丈夫だが、先々の事が不安。
支援情報などは知人を通して収集している。可能ならば行政からの情報は郵便で頂けるとありがたい。
退院後の妻のこと
郵便物がこない。トイレなどの下水使用禁止。
断水が困った
今は空き家になっている祖母の実家が被害にあったが、住んでいないので、手付かずの状態。
今後、地震がきた時が不安。
公園が使えないので、子供が野球が出来ない。
お金の引き出しが困る。（家賃の支払い、信用金庫）
川岸の復旧がどうなるか
ダンプが被災。倉庫の建て替え

坂町の娘宅の近くのガケが崩れ、工事をしてもらえる事になっているが、そこだけしてもらっても…。その周囲もして欲しい。
向かいのアパートが閑散としているので不安である。
坂の下の崖を早く直して欲しい。
冬物の服がない 仮設退去後の生活が不安
工事の目処なし
費用のめどが立たない。
向かいの崖が崩れずのでは
再び起こらないよう整備してくれるか不安
ゴミ捨てが変わって分からない。目に土埃が入る。
町内に住む娘のことが心配。築6年、ローン有
次の住居、金銭面
骨折が治らないと動きが困難。川底が上がりすぎるのはなんとかからないのか。
小屋浦に病院・農協・商店がない。
住むところ
店がないこと
エレベーターが欲しい。台風や災害が心配。
近くにマーケット、A T Mがない
家の取り壊し時期について
放送が聞き取りづらい。
友人がいない。マンションに慣れない。
持ち家から賃貸になるので家賃等の支払いが不安
町の将来が不安。子どもの遊び場がない。少子化。
銀行が使えない。役所に郷土史を提供してほしい。
ダムがいつできるか。
年齢のこと、仕事面、降雨
仮住まいであること。
また災害が来ないか不安
話す機会がない。
大雨の時の裏山の土砂災害
庭の土砂、水路が詰まっていること
お墓所が土地ごと流された（道路も）復旧はいつになる？
夫が車の運転をできなくなったらどうするか
道の整備。カーブミラーがない。
銀行がないので現金を引き出せない。ゲートボール、グランドボールがないので運動不足。
道を直してほしい。A コープを復活してほしい。
畑を元に戻したい。橋がないため車が通れない。
スーパーがなくなり、近くにお店がなくて不便
道が冠水するかもしれないこと

今後同じような災害がおこること
世帯主が近々退院予定なので準備中
道路の水はけが悪いため水路の改善をしてほしい。次の災害に対する危機感が町にない。
修理のことが気になる。
早めの避難を心がけたい
歳だから仕事がない
放送では「家の土砂出しは町が費用を出す」と言ってたと思うが、窓口に行くと出ないと言われた。誤解のある表現なのか、わかりにくい。
業者に工事を頼んでいるが、なかなか取りかかってくれない。（床）畳も入れられない。
水道が直って欲しい
上流がどうなっているかわからないのでまた土砂が流れてこないか心配
隣近所の人がいないので淋しい
近くのコープがないのは不便だけど、それなりに生活している。
次の災害
雨と台風がこわい
どんどん人が減ってきている。
家を建てるのに8%にしてほしい。金銭面
店が近くにない。坂町の方針
避難等の情報を随時教えてほしい。坂町の方針
目の前の山が崩れかかっている。
町内放送が聞こえにくい。その後HPで調べるがその日のことが書いていない。地区役員をしているが情報が降りてこない。
病院が閉鎖しており通院が不便。近隣になく、現在はマツダ病院に通院
やまの状況が崩れるのが心配。雨が降った時に不安。
これから災害がどうなるか。ゴミ捨て場所が遠い
山に近い
土埃で洗濯物が干せない
駐車場が遠いので不便
買い物が遠くなって困る。
避難指示の内容を具体的にしてほしい。
今後の改修の見通し
買い物できるところが欲しい。
トイレが近いので避難所に行っても落ち着けるかわからない。
このアンケートの個人情報の取り扱いをきちんと管理してほしい。放送聞こえるようにいて欲しい。
駐車場が元に踊らないと車庫証明ができない。西側公園に災害廃棄物があり臭いが気になった。
また雨が降ると不安
なぜサンスターホールが避難所なのか
今後の支援

裏が山なので土砂崩れの心配
今後の災害の対応
農地に土砂が積まれている。車、バイク破損。
災害ごみの処分
義援金の情報が手に入りにくい。
リフォームに取り掛かるまでどう生活すればいいのか。災害ごみの出し方。
次の災害が怖い。
生活全般
冬用の衣類や暖房器具の買い替え。
外の衛生状況。子供がいるので避難した後が心配。母親同士で支えあえる環境が欲しい。
災害時、避難勧告の放送が一回しかない。
近所の医院が復旧するか。今後の台風。
子供の PTSD がどの程度になるか。
今後の雨
坂が大変
外で遊ぶ場所がない
夜に不安
近くの川が氾濫するのではないかという不安。
医療費が多く大変。次回雨が降ったとき不安。
裏山に猪が出るが、土を掘るので雨で土砂崩れになるのが不安。
自宅の上の山から雨・土砂が流れる。
川の泥、排水計画（雨水・泥水）の改善、総頭川の砂（土砂）の撤去
砂ほこり
泥、土ほこり撤去
次の災害が来ることの不安
次の災害、生活、病気・体調
先々の施設入所も検討している＝施設探し
近隣での疎外感
今後の災害対策
町内放送が聞こえにくいので、Twitter やホームページで同様の内容を UP してもらえたら助かる。
自分のところは大丈夫だったので、静かに切り抜けようという気持ち。タイミング早くしないと避難できない地域（川を越えないと避難できない）や、上の方にも避難所を作してほしい。
また同様のことが起きないのか不安。今回の災害があつて、これからどのような対策をしていくのか教えてほしい。（山崩れ、治水）
外に出ると被災者の生活を思う。笑うこともためらう気持ち
お金がかかる
上の地区の被害がひどかったので、雨が降ると不安
家のそばの川が氾濫しないか心配
小学校の土砂か砂ほこりがひどかった。途中から対応してもらってるが、もっと早ければ。

町内放送聞こえにくい。家にいないとわからない。
台風等、災害がおきないか心配
隣家の土砂撤去などが原因で近所トラブルになっている。
ゴミ捨て
倉庫の修理費
水がまた流れ込まないか
仕事場が浸水。再建の支援を分かりやすく教えてほしい。
大雨が不安
浸水しないように排水溝を水はけのよい設備への改良をしてほしい。排水溝の中の泥土の撤去も。
対策の見直し。原因究明をして公表してほしい。
元の生活に戻るまで時間がかかること。また川が氾濫したら怖い。
修繕中で風呂などが使えないこと。豪雨で川の水があふれることへの不安。
保険関係での修理費用がどの程度出るか。生活費が不安。
生活費、工事で費用がかさみ
買い物に行きにくい
修繕中の生活が不便
情報を流す基準を見直してほしい。ゴミ収集ができていないところがある。町の動き遅い。対応が遅い。
ゴミが片付かない
リフォームの目途が立たない。
家の裏の土砂撤去の予定が立たないこと。
学校のこと（校区、子どもの友だち関係）
墓が流されていて再建について情報がない
復興の進み具合を知りたい。安心度
雨が怖い
復興、復旧のめどがたたない。
年一回の健康診断が行われていないこと。広報などで知らせほしい。
放送が聞こえにくい。災害時の避難の判断。
室外機・温水器の耐用年数が気になる。
食事、その他生活全般の支援が受けられる避難所が欲しい。
資源ごみの場所が変わった
住民協に入っていないとボランティアが来てくれない。役場によっていうことが違う。
地盤が弱くなっていること
土のうなどの費用を申請できないのか
漠然と不安がある。やる気が起きない。
ご主人の精神面
裏山が崩れないか
将来が不安、税金が高い
近所の駐車場が陥没している→役所に相談していると思うが

裏山
裏山の倒木、災害前からあり対応なし。斜面の崩れが心配。役場へも通告。
裏山の状態、折れた木々、土砂、いのしし被害
足りなくはないが、不安。（再建費用や生活費）
家賃の割引など（してくれたら）ありがたい。軽自動車税も。
健康状態について不安がある
■に帰れる日を知りたい。目途がたたず不安。
隣が空室
家財道具、かび、普通に住める状況ではない。
アパートが一部損傷したため、補助金が一部しか支給されない。
川の整備の状況
マンションのエレベーターが使用不可な事
子どもの遊ぶところ（公園等）が欲しい。使わないもの、被災地への支援をしたいがどこにどうやって渡せばよいかわからないため、その情報が欲しい。
雨が降ると困る。
排水ポンプの改善
エレベーターが3月まで使えない。
エレベーターが3月まで不通。土砂を片付けてもまた流れてくる。これからの対策。
情報収集をしっかりとりにいきたい
裏の石垣、トイレ
自宅前の川が氾濫しないか
地盤沈下。放送が聞こえない。
小児科、耳鼻科がない
料理ができない。リフォームにかかるお金と時間。
自宅付近の山の状況、道の溝にブロックを置いてほしい
隣人（障がいあり、認知症）世帯から支援を求められるが、どうしたらいいかわからない。
近くに川があるため、次の災害が怖い。
川に砂が増え始めていること
粉塵、キャタピラの音や振動
JAの店がなくなって不便になった
JAストアがないのが不便
年齢的な衰え
家のこと。町内放送が聞こえない。
町内放送が聞こえない。
雨が降ったら心配になる
土砂が川にたまっているのが気になる
ゴミの日の情報が欲しい。学校の水路が細いため、自宅前の道路に水がたまる。水路を広くしてほしい。

必要な時に情報が入らない。山の状況、次に雨が降った時に崩れるのではないかな。砂ぼうダムがあるがどんな状況なのか分からない。
畑に土砂
お墓が崩れかかっていて心配
山が崩れるのではないかな。避難しない人が非難される傾向にあること。（避難所が川の近くで、避難する方が危ないと感じる。）
情報が入らない
今後山や池がどうなのか心配
雨が降るたびに避難と言われるが、本当に必要なのか（避難するのも大変）情報が入ってこない。（全体的に住民が共有して情報がとれれば良かった。）役場へ情報を取りに行くのは難しい。地域のどこかに情報が集まればもっと手伝いに行けたのではないかな。
避難訓練が活かされていないと思う
お金の出し入れが農協でできない。移動車が来てくれる
排水、次の災害
次の災害
側面の土砂（丸子踏切から海に出るところ）撤去してもらいたい。
金融機関が近くにないので不便。放送がよく聞こえない。
おうち内でお金がなくなる
災害ごみがもう少し奥の方に置いてくれたらよいと思う。
次の災害がこわい。急傾斜地で工事している。
ご主人の親せきが近くにいて安心している。
自然災害への心配
色々あるとの話だったが聴取できず。
スーパーが遠い。近くの店が被災した。
金銭的（車が廃車となり買い替えるため）
役場の人は良くやってくれている。
老後生活
家が古いこと
土埃で洗濯物を干さないようにしていた。運動場公園で外遊びが十分にできていない。
避難解除をしたかどうかがあいまいだったので、はっきりしてほしい。お墓の状況。石材店が流れてしまったので
所見に記入
道具を買いに行ってもスコップや長靴がなかった
リフォームのめどが立たない（大工不足）
いろいろ不安
早く家に戻りたい
介護タクシーを使おうと思っている
仮設を出たあとの生活、住居、年金が少ない
妻のこと、自分の心臓

家をどうしていくか
土砂による健康被害、窓開けられない、早めに土砂を撤去してほしい
ブルーシートをかけたままになっている裏の土地が崩れたら大変。実際直すかどうか悩んでいる
車に二人とも乗らず、■■■さんは自転車も乗れないので重量のある買い物を頼める人がいない。
雨が降ると少し怖い、砂防ダムをきちんと直してほしい
小地域内のネットワーク、高齢者ばかり
所有土地の被害（駐車場他）
護岸の石積みが崩壊したままなのが気になる。いつ頃直してくれるのか時期を知りたい
自宅へ帰る目途が立たない、下水道が治らないと帰れない
情報を的確に
二次災害が怖い、避難が面倒くさくなってきた
坂町役場に家の前の対策の改修依頼をしているが早急な対応は難しいとの回答を得ている
復旧後の安心がほしい、役立つ避難訓練
選択が不便
土の中にねじやガラスがあり孫が来ても安全に遊ばせられない
まわりが心配してくれた
空き家が放置、夜間の外出が怖い。
家庭ごみ置き場が遠くなったのが不便
JAの組合マーケットが閉店したまま。
上の方がまだ
畑の直しができない、行政に頼みたい
坂みみょう保育所の再開が早くて助かったが、子どもの体調周囲の状況しばらくお休みにした。ガードレールがないので、周辺を子どもに安全に歩行させるには不安が残る。
認知症の母親の今後の暮らし。
学校、衛生面、子供たちのこと、空気
車の修理費
買い物が困る
私の方が先に死んでしまったらと心配
お墓の横に川がある。雨があればまた泥で埋まる。
買い物に二時間かかる。週一回だけにしている。ヘルパー来てもらうよう施設に。息子は広島市内
流木が詰まっている。自宅から少し上がっていったところにそれが原因で川がつまってしまうこと
1人でいるときは不安になる。大雨か台風の際は怖い。10年以上前ガラスが割れて家の中が大ごとだった。
川沿いを安全に歩けるようにしてほしい。もうす少し道が広がったら…
次回の避難をどうするか、
上流の方の被害が心配。ため池をなんとかしてほしい。あったらまた同じ被害に
災害が多いから今後同じようなことが起きた時心配。
①放送のスピーカーの電池が切れて大切な情報が来ないと困る。②仮設住宅に入れていない人がいるので心配。③A-Coop 辺りの復興

町内会の役員をしていると声を聞いたり作業したりする
歩道が補修されていない。危ない。当分の間は別の駐車場に車を置いている。
流木や泥がまた被害時に流れてくるのであったら心配。災害にあわれた方には申し訳ないと思う
今後の息子の生活。事故から 10 年経った。どのくらい現状維持できるか
お墓が土砂でどうなるか不安
いつまた…
菓を飲んだらバイクに乗れない。最近パーキンソン病になったので心配。今後のことが不安になる
庭の管理ができなくなり海田のシルバーに頼んでいるが、作業の車庫が確保できず来てもらえない
砂防ダム等をきちんと整備してほしい。不安
雨が降ると危険
雨が降っていると危険
粗大ごみの出し場所が分からない。今後広市の賃貸住宅を借り上げ扱いにしてもらえた場合、いつまで家賃を出してもらえるのか気になる。広での生活は■■■■氏の楽しみの土いじりができないのであるべく早く帰りたいと思っているが、帰るタイミングはどうしたらいいのか。
①土砂崩れがそのままになってくるとまた被災が拡大してしまうから不安②ダムをつくってほしい &その管理
近所に商店がないため自転車不便
避難場所が遠い

坂町被災者アセスメント調査票

シート No. _____

記入者名:	記入日時: 日 時 分	☐ 小屋浦 ☐ 坂 ☐ 横浜	ブロック番号
聞いた場所: ☐ 自宅 ☐ 避難所() ☐ 仮設() ☐ みなし仮設()			
☐ 聞き取り完了 ☐ 不在 ☐ 居住しているかどうか不明 ☐ 調査拒否			

「不在」「居住しているかどうか不明」の場合、外観から確認出来る範囲で、「2. 家屋の状況」を記入して下さい。

1. 世帯情報

現住所:	前住所と同じ ☐	前住所:
------	------------------------------------	------

↓聞いた人の名前に○を付ける ※ 世帯主は、続柄に「主」

○	(ふりがな) 名前	生年月日	年齢	性別	続柄	要援護者 該当 No.	要援護者 処置 No.	同居 別居	現在の 居所 No.	備 健康状態・食事・通院・ 考 服薬等手帳の種類等
	()	明/大/昭/平		男・女 その他	主			同居 別居		
	()	明/大/昭/平		男・女 その他				同居 別居		
	()	明/大/昭/平		男・女 その他				同居 別居		
	()	明/大/昭/平		男・女 その他				同居 別居		
	()	明/大/昭/平		男・女 その他				同居 別居		
	()	明/大/昭/平		男・女 その他				同居 別居		
	()	明/大/昭/平		男・女 その他				同居 別居		

家族の被災状況

☐ 全員無事 ☐ ケガ人あり ☐ 連絡が取れない

要援護者該当 No.

- ① 高齢者(65歳以上であれば該当)
 ② 要介護者 介護認定なし
 ③ 要介護者 介護認定あり 災害後介護サービス量変化なし
 ④ 要介護者 介護認定あり 災害後介護サービス量減少した
 ⑤ 要介護者 介護認定あり 災害後介護サービス量増加した
 ⑥ 要介護者 介護認定あり 元々介護サービス利用なし
 ⑦ 障害者 障害者手帳なし
 ⑧ 障害者 障害者手帳あり 災害後サービス量変化なし
 ⑨ 障害者 障害者手帳あり 災害後サービス量減少した
 ⑩ 障害者 障害者手帳あり 災害後サービス量増加した
 ⑪ 障害者 障害者手帳あり 元々サービスの利用なし
 ⑫ 乳幼児
 ⑬ 妊産婦
 ⑭ 難病・傷病者
 ⑮ 外国人
 ⑯ アレルギー等
 ⑰ その他

要援護者処置 No.

- ① 人工呼吸器
 ② 在宅酸素
 ③ 透析
 ④ インシュリン注射
 ⑤ その他

現在の居所 No.

- ① 仮設住宅
 ② みなし仮設
 ③ 自宅
 ④ 親族・知人宅(身を寄せている)
 ⑤ その他

- ・ 調査員から必要十分な説明を受けました。
- ・ 調査に同意・協力します。

ご署名

連絡先電話番号

調査員記入

世帯人数	☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7
世帯状況	☐ 母子・父子家庭 ☐ 高齢・障害者がいる世帯
高齢者のみ 世帯	☐ 該当しない ☐ 高齢者のみ1人 ☐ 高齢者のみ2人 ☐ 高齢者のみ3人

2. 家屋の状況

家屋の種類	種類	☐ 持ち家 一戸建て ☐ 持ち家 集合住宅 ☐ 賃貸 一戸建て ☐ 賃貸 集合住宅	
	構造	☐ 木造 ☐ 鉄骨 ☐ 鉄筋コンクリート ☐ その他 ☐ 不明	
	住宅ローン	☐ 住宅ローン有 ☐ 住宅ローン無	
築年数	築()年 ☐ 築37年より古い (昭和56年以前の建物) ☐ 築36年より新しい(昭和57年以降の建物) ☐ 不明		
浸水被害	☐ 浸水被害なし ☐ 床上浸水 ☐ 床下浸水		
土砂被害	☐ 土砂被害なし ☐ 床上の土砂被害 ☐ 床下の土砂被害		
	土砂撤去	☐ 完了 (頃に終了) ☐ 継続中 ☐ 未着手 ☐ 今後、撤去の予定あり ☐ 今後の撤去の予定が立っていない ☐ 撤去しない	調査員記入 ☐ 床下土砂残りの可能性あり 床下土砂残りの可能性(例) ・専門性のある人に見せていない ・床上だけ掃除をした ・床を剥がし床下を確認していない ・十分に乾燥したかわからない ・専門家に見て欲しい
	支援者	☐ 行政による撤去 ☐ ボランティア ☐ 知人・家族等 ☐ 業者へ依頼 ☐ その他 ()	
罹災証明	☐ 取得済み(☐ 全壊 ☐ 大規模半壊 ☐ 半壊 ☐ 一部損壊) ☐ 申請中 ☐ 今後、申請する予定あり ☐ 申請したかどうかわからない ☐ 申請せず		
	申請しない理由	☐ 該当するかどうかわからないから ☐ 申請に行く時間や手段がない ☐ 罹災証明のことがわからない ☐ 不要だから(家屋の被害がないから) ☐ その他 ()	
家屋の被害箇所	☐ 土台・基礎 ☐ 梁・柱等 ☐ 屋根・外壁等 ☐ 壁・内装・窓等 ☐ 設備(電気・ガス・水道等ライフライン設備) ☐ 設備(台所・トイレ・お風呂等の生活設備) ☐ その他 ()		
	未復旧のライフライン ☐ ガス ☐ 水道 ☐ 電気		
建て替え・補修等	☐ 建て替えや補修をしたいと考えており、すでに着手している・予定がある・実施が可能である ☐ 建て替えや補修をしたいが課題がある		
	建て替えや補修の課題	☐ 費用の工面に不安がある・いくらかかるかわからない ☐ 住宅として使えるかどうかかわからない ☐ その他 ()	
	建て替えや補修をしない理由	☐ 建て替えや補修はしない ☐ 費用が工面できない ☐ 仮設・みなし仮設に入居するから ☐ 公営住宅に入居するから ☐ 他に住宅が見つかったりいるから ☐ 親族等と同居するから ☐ 不要だから、破損が少ないから ☐ その他 ()	

避難の有無	☐ 避難した
	最初の避難先 ☐ 町民センター ☐ 坂小学校 ☐ 横浜小学校 ☐ 坂中学校 ☐ サンスターホール ☐ 坂みみょう保育園 ☐ 上條集会所 ☐ 中村公民館 ☐ 横浜三部集会所 ☐ 町立図書館 ☐ その他（ ）
	いつ
	☐ 直後 ☐ 一日後 ☐ 二日後 ☐ 三日後 ☐ 三日以上
	☐ 避難しなかった
	避難しなかった理由 ☐ 移動が危険だと思ったから ☐ 避難の手助けがなかったから ☐ どこに避難すればよいかわからなかったから ☐ 避難のタイミングがわからなかったから ☐ その他（ ）
救助者	☐ 自力で避難した ☐ 行政による救助 ☐ 近隣住民による救助 ☐ その他（ ）
避難時に困ったこと	自由記入

発災後の健康状態	からだ (口腔含む)	☐ 変わりない ☐ 不調だったが回復している ☐ 不調が続いている 不調の内容・誰()		
	こころ	☐ 変わりない ☐ 不調だったが回復している ☐ 不調が続いている 不調の内容・誰()		
移動 困難度	☐ 困難なし ☐ 困難あり			
	困難理由	☐ 外出に手助けが必要 ☐ 移動手段がない ☐ 費用がかかる ☐ その他 ()		
現在の移動手段	☐ 徒歩 ☐ 自転車 ☐ 原付・自動二輪 ☐ 自家用車 ☐ 公共交通機関 ☐ タクシー ☐ 移動支援(介護サービス等) ☐ 知人・親族等による送迎 ☐ その他			
買い物	☐ 困難なし ☐ 困難あり			
	困難理由	☐ 商店等が遠くて買い物に行けない ☐ 買い物ができる機会が少ない(移動販売者の頻度、場所等) ☐ 商品が少ない・足りない ☐ その他 ()		
食事	☐ 困難なし ☐ 困難あり			
	困難理由	☐ 一日3食を取れていない ☐ 支給される食事のみが続いている(弁当・パン) ☐ 調理環境がない・自炊したくても出来ない ☐ 食欲がない・食べられない(体調面から) 誰: _____ ☐ 食欲がわかない(心理面) 誰: _____ ☐ 要配慮食が手に入らない(糖尿病食・減塩食等)		
通院 治療	☐ 困難なし			
	☐ 困難あり	☐ 通院・治療の回数減 ☐ 通院・治療の中断 ☐ その他) 誰: _____		
服薬	☐ 困難なし			
	☐ 困難あり	☐ 常用薬の入手困難 ☐ 服薬の中断 ☐ その他) 誰: _____		
教育 保育	対象者(幼保・学齢期) ☐ あり ☐ なし			
	発災以降、困っていること(記入)			
通勤	☐ 困難なし			
	☐ 困難あり	☐ 通勤出来ていない ☐ 通勤時間が長くなっている ☐ その他 ()		

